

呼蘭河ヲ渡リ、更ニ二十二乃至十五露里ヲ經テ呼蘭城ニ至リ、之レヲ過クレバ五十露里ニシテ白
彦蘇々ニ至ル。

白彦蘇々ヨリ道ハ東ニ向ヒ、十五露里ニシテ松花江畔ニアル小十火村ニ至リ、河流ニ並行スル
コト暫クニシテ、白楊木村ニ於テ、吉林ヨリ三姓ニ通スル道路、即チ此處ニ於テ松花江ノ左岸
ヨリ右岸ニ遷ル大道ニ合ス、此道路ニ依テ、齊々哈爾ヨリ三姓ニ通スル延長ハ六百露里ト稱ス。
其支線ハ

(イ) 呼蘭城―北團林子間、白彦蘇々―白團林子間

(ロ) 呼蘭城―双城廳間、呼蘭城―阿楚喀間、白彦蘇々―賓州間

此道路ノ終點三姓ヨリ以上諸分岐線ノ外、尙ホ左ノ稍ヤ重大ナル支線ヲ出セリ。

(甲) 三姓、松花江口間

三姓ヨリ松花江右岸ノ下流ニ設立セラレタル、幾多ノ村邑ヲ通ジテ車道ノ延亘セルアリ、
三姓ヨリ百露里般達穆邑ニ於テ右方露境ニ向テ支線ヲ出セリ、此支線ハ後チ二二個ノ徑路
トナリ、一ハ「ノール」河口ニ至リ他ハ穆稜河口ニ至ル、兩者共ニ平低ニシテ無人ノ境ヲ通
ス、此地ニ於テ又北金城ノ金礦地ニ至ル徑路アリ、礦地ハ松花江ノ左岸吞河ノ之ニ會合ス
ル附近ニアリ。

(乙) 三姓「トウリローグ」(興凱湖畔)間

通行頻繁ナラサルモ一般能ク往復セラル、車道ナク「トウリローグ」ヨリ平地ヲ通シテ西
北ニ向ヒ、二十八露里ニシテ清國ノ哨所布米站都ニ於テ穆稜河ノ谷地ニ入ル、穆稜河ヲ過
ルコト三露里ニシテ、粘著力アル土壤ヲ行ク、後チ道ハ森林ヲ以テ蔽ハル、山嶺ニ入ルモ、
差シテ通行ヲ阻止スル處ナシ、且ツ屢バ橋梁ノ備ヘナキ露流ヲ横截スルコトアルモ、皆沙
洲ヲ通行シ得ベシ。

「トウリローグ」ヨリ六十露里ニシテ、道ハ「ケンテアリン」山脈ニ入り、屢々高峻ナラ
サル支脈ヲ昇降ス、然レドモ車ノ通行ヲ阻止スルコトナシ、山頂ニ大ナラザル木造ノ寺院
アリ、此ヨリ道ハ高カラザル岡陵ニ沿フテ峻隘ナラズ、此ノ如キ道路ハ「トウリローグ」
ヨリ二百二十露里、薪水ニ至リテ松花江ニ延亘スル廣ク且ツ平坦ナル谷地ニ入ル、此地方
ニ於ケル道路ハ、濕低地ノ外通行ヲ阻止スル處ナシ、三姓ニ至ル迄住民ノ播布スル地方ニ
蜿蜒スルコト四十五露里、他ハ皆全ク無人ノ境ヲ通ズ、要スルニ此道路ハ一般ニ通行ニ至
便ニシテ、延長ハ二百六十五露里ヲ出テス。

(丙) 三姓、寧古塔間

三姓ヨリ寧古塔ニ至ル延長二百三十二露里、道ハ牡丹江ノ右岸ニ通ゼリ、三姓ヨリ二十露

里、太平川ニ至ル間ハ、全ク平坦ナル地方ヲ通ジ、土壤堅牢、通行甚ク便ナリ、三姓ヲ距ルコト六十露里「ウイジヘ」ニ至ル沿道地方ハ、一般ニ耕耘セラル、ト雖ドモ、以南ハ谷地狹窄シテ全ク住民ヲ見ズ、河流ニ沿フテ延亘スル山道ハ、幾多ノ磔流ヲ横截スルト共ニ、橋梁破壊サレアリテ、屢々通行ヲ阻止ス、又山嶺ヲ踰ユ、最モ高峻ナルモノニアリ、第一ハ三姓ヨリ八十露里「ウイジヘ」及ビ「リヤンフアバオ」間、第二ハ三姓ヨリ百五露里「リヤンフアバオ」及ビ三站ノ間ニアリ、寧古塔ヲ距ル五十露里、掖河ノ堡砦ヲ距ル二十二露里ニ至リ、道ハ又住民ノ棲メル平坦ナル谷地ニ入り、掖河ノ附近ニ於テ「ホルターウスキ」ヨリ來ル道路ニ合ス。(第十六)

此道路ニハ大河ノ之ヲ遮ルモノナキモ、小河ハ甚ク多クシテ、皆沼池ヲ貫流セリ、三姓ヨリ寧古塔ニ至ル一般ノ道路ハ馬車ヲ通セズ、一千八百八十六年、之ヲ通行セシメノ説ニ、沿道ニ當時十一箇所(各十一乃至二十人ノ兵ヲ容ル)ノ陸軍哨兵所アリ、其一部ハ寧古塔ヨリ、一部ハ三姓ヨリ分遣セリ。

「ツイジヘ」ヨリ烏蘇里ニ向ツテ穆稜河ノ合スル所ニ於テ徑路ヲ分岐セリトノ説アリ。
 第二十八、及ビ第二十九、齊々哈爾、哈爾哈間

哈爾哈ヨリ齊々哈爾ニ至ルニハ、二條ノ道路ニ依テ接合セラル、其北部ハ土人間ニ「トウシン

ザン」ノ名稱ノ下ニ有名ナリ、此道路ハ始メ雅爾河ノ下流ヲ蜿蜒シ、後チ綽爾及ビ陶爾ノ谷地ニ遷リ終ニ「トウシンダバン」ノ主脈ヲ踰ユ、哈爾哈河ノ上流ヲ過ギ、齊々哈爾ヨリ大興安嶺ノ西麓ニ於ケル「チアガリドジ」ニ至ル、谷地ハ蓋シ三百五十乃至四百露里ニ達セリ。齊々哈爾ト哈爾哈ヲ連結スル他ノ道路ハ、始メ雅爾河ノ谷地ヲ流レ、綽爾河ノ谷地ニ入り、後チ陶爾河ノ谷地ニ於テ「オポテンダバン」ヲ經テ綽爾河ヲ遠ク離レ、又之ヲ縫フテ趨ル、高原ノ主嶺ヲ此地方ニ於テ「ヌヒ」或ハ「ヌホエテダバン」ト云フ、道ハ陶爾河ノ支流「セルヌヒ」ニ沿ヒ哈爾哈河ノ左支流「ハルバハント」河ニ入ル、此道ハ前者ニ比シ著シク長大ナリ。

第三十、海拉爾、齊々哈爾間

海拉爾ヨリ依奔河ノ右岸ノ高原ヲ通スルニ條ノ大道路アリ、一ハ市ノ南方ヲ過ギ、他ハ其北方ヲ貫ク、就中最モ車行ニ適スルハ北方トス、城門ヲ出デ河岸ヨリ遠ク隔離セザル谷地ニ於テ下方ニ延亘シ、三露里ヲ經テ河ノ大屈曲ヲナス所ニ於テ分岐ス、即チ左方ノ支線ハ谷地ニ依テ下方ニ蜿蜒シ、左方齊々哈爾街道ハ依奔河ニ達ス、河ハ八月ノ減水期ハ幅百二十乃至百五十歩、深サ四呎、中流ハ著シク急劇ナリ、之ヲ横截シタル後、道路ハ東ニ向テ谷地ヲ貫ク、土壤ノ大部ハ軟弱ニシテ、屢黒土ヲ交フルモ、後チ漸次砂土トナリ、河ノ右岸ニ聳立スル高嶺ニ向ヒ、登ルコト四分ノ一露里ニシテ、著シク峻嶒トナリ、運積的砂土ヨリ成ル丘陵ノ間ヲ延亘ス。

芝士及ビ點々タル松林ヲ以テ固メラレタル、運積砂土ノ峻嶺四分一露里ヲ踰ユレバ、道ハ尤大ナル波狀ノ平原ヲ通シ、次第ニ東方ニ向テ昇リ、後海拉爾河ノ流域ニ至テ東北ニ轉シ、齊々哈爾爾ニ向ヒ、大郵路ニ達スル爲メ、小徑路ニ依テ又右方ニ轉ス、此地方郵路ハ廣クシテ且平坦ニ、土壤堅牢ナル粘土ヨリ成リ、稀レニ黒土ヲ交フ、其時トシテ車轍ノ痕跡ヲ見ルハ、以テ此地方土壤ノ降雨ノ際ニモ堅固ナルヲ證スベシ、道ノ東南行スルニ至レバ、海拉爾河ノ谷地ニ綿亘スル丘陵ノ前面ニ迫ルヲ見ル、道ハ丘陵ノ間ノ濕低地ヲ貫通シ、第一驛站哈爾爾哈ニ至ル。

哈爾爾哈站ノ通行口ハ幅ニ露里半、興安嶺ヲ横截スル主要ナル谷地ノ一ナリ、而モ其幅員ノ廣大ナルニ關セズ、溪谷、川流、濕地ノ多キヲ以テ通行困難ナリ、故ニ道ハ驛站ヲ左方ニ殘シ、直チニ土們布子ノ山嶺ヲ踰ユ、再ビ海拉爾河畔ニ出テ、「ジャルメテ」ノ山谷ニ通ス、該谷地ハ幅五六露里、東方ニ向ヘリ、道ハ谷地ノ稍ヤ高隆セル中央部ニ通シ、平坦ニシテ堅牢ニ小石或ハ砂石ヨリ成ル山道ヲ去ルコト四露里ニシテ、山嶺ヲ西南行シ、海拉爾河ニ會スル豁流ヲ經ルニ及ンテ、次第ニ砂石ヲ増加シ、遂ニ哈爾爾哈站ヨリ十七露里ニシテ、純然タル砂石ノ間ヲ通ズルニ至ル、後チ再ビ地質堅固ニシテ平坦ナル高原ニ入り、第二驛站伊勒克的ニ至ル。

「ジャルメテ」ヨリ海拉爾谷地ノ上部ハ、著シク東北ニ屈曲シ、二條ノ道路ニ分岐ス、就中右方ハ著シク短距離ニシテ、直チニ東ニ通シ、南方ヨリ奔馳シ來ル幾多ノ支嶺ヲ踰ユ、左方ハ北方ヨリ

該山嶺ヲ踰ユルモノニシテ、谷地ノ左方三露里ヲ行キテ狹谷ニ入り、十二露里ニシテ右線ニ合ス、左支路ハ幅員廣クシテ堅牢ナル土壤ヲ通ス。

兩支路ノ會合シテヨリ、道ハ高サ六百乃至八百呎ヲ有スル山嶺間ノ狹隘ナル谷地ニ入り、之ヲ過クレハ幽邃ナル縱列ノ豁谷トナル、行クコト十五露里ニシテ自然ニ山頂ニ達ス、其降下ハ甚ダ急峻ニ東北ニ折レ、山麓ニハ第三驛站哈拉呼集アリ。

同驛站ヨリ道ハ哈拉呼集、「アマ」ノ谷地ニ入り、之ニ依リテ延亘スルコト十露里、此地方ハ土壤軟弱ニシテ、大部ハ黒土ヨリ成ルヲ以テ、降雨ニ際セハ泥濘地トナル、此レヨリ「ヤイクス」ノ山道ニ入ル、道路廣濶ニシテ峻嶮ナラス、山頂ハ海面ヲ抜クコト二千五百三十呎、「ハラホシアマ」ノ谷地ヲ抜クコト三百呎ナリ、山道ヲ下レバ「ウニルゴール」河ノ廣漠ナル谷地ニ出テ、二露里ニシテ第四驛站雅苦西ニ至ル。

「ウニルゴール」谷地ノ幅員ハ、其中央部ハ八露里ニシテ、南北兩部ハ二三露里、到ル處興安嶺ノ蒙古斜面ノ如ク、幾多崎嶇セル山脈支出セリ、谷底ニハ「ウニルゴール」河ニ並行スル沼池アリ、道路ハ驛站ヨリ更ニ南ニ屈折シ、河ノ左岸ノ谷地ニ沿フテ上流ニ向フコト一露里ニシテ、河岸ニ綿亘シテ幾多ノ丘陵起伏スル山地ニ入り、或ハ車行ノ困難ナル山嶺ヲ昇降シ、或ハ谷地ヲ辿リテ第五驛站們都克ニ至ル。

們都克ヨリ十餘露里ニシテ「ウニルゴール」河ヲ渡ル、河ハ幅四五十歩、水流清クシテ掬ス可ク、河底小石ヨリ成ル、深サ馬腹ニ達スルモ、沙洲ヲ選ビテ容易ニ之レヲ涉ルヲ得、此レヨリ八露里ニシテ「ホルギンバン」ノ山道ヲ踰エ、東ニ折レテ「ウニル」河ニ注ゲル「ウルシ」河ノ右岸ヲ進ム。

「ホルギンダバン」山道ヲ距ル、四分三露里ノ哈爾克附近ニ於ケル「ウルシ」河ノ谷地ハ、幅一乃至二露里ニシテ、興安嶺ニ於ケル他ノ谷地ニ異ナル處ナシ。

哈爾克ヨリ伊勒克^{イレック}ノ至ル間ノ道ハ、北方山嶺ノ麓ヲ通ジ、五露里ニシテ「ウルシ」河ニ注ゲル「バガウス」河ヲ涉ル。

伊勒克^{イレック}ヨリ尙ホ前路ノ方向ヲ繼續シテ「ウルシ」河ノ谷地ニ依リ、九露里ニシテ「ウランチャボライ」ノ窪低地ニ入り、之ニ依テ進ムコト三露里ニシテ、道ハ樹木蓊蒼トシテ繁茂スル、興安嶺主脈ニ向ツテ登上スルニ至ル、興安嶺ノ山頂ヲ横貫スル時ハ、海拉爾ヲ距ル百五十露里、齊々哈爾ヨリ二百五十露里ニアリ、山道ハ幾多嶺峯タル巨巖怪石ノ間ヲ通ズル處、行路峻嶮ナラザルニ非ザルモ、貨車ノ通ズルヲ妨グズ、山道ヲ下レバ雅爾河畔、都哈圖驛ノ所在タル廣大ノ谷地ニ出ヅ。

都哈圖驛ヨリ展開セル都哈圖ノ波狀の谷地（雅爾河畔ヲ距ル二露里）ヲ行クコト十一露里ニシ

テ、兩側ヨリ山嶺ノ壓迫シ來レル伊蘭鄂博驛ニ至ル。

伊蘭鄂博驛ヨリ幅四分三露里乃至一露里半ノ豁谷ヲ通ズルコト八露里、雅爾河ノ支流ヲ沿フコト四露里、驛站ヲ距ル十三露里ニシテ雅爾河ノ對岸ニ移ル、此地方ニ於ケル河幅略三十五歩、水深漸ク馬脚ヲ没シ水流急ニシテ一分時ニ百十歩乃至百二十歩ヲ馳ス、行クコト約五露里ニシテ、再ビ左岸ニ移ル、河ヲ涉ルハ前者ニ比シ困難ナラス、此レヨリ河岸ノ豁谷ヲ蜿蜒スルコト十三露里ニシテ巴里木驛ニ達ス。

同驛ヨリ谷地ハ東ニ屈折シ、二露里ニシテ雅爾河ノ殆ンド直角ニ屈折スル所ニ至レバ、北方ヨリ會流スル巴里河アリ、道ハ左ニ轉ジテ巴里河ノ谷地ニ入り、砂地ヲ行クコト一露里半ニシテ、同河ヲ沙洲ニ依テ涉ル、水深ク馬腹ニ達ス、對岸ハ高陵ニ依リテ進ミ、「バリムダバン」ノ山嶺ヲ踰ユル處、海面ヲ抜クコト二千四百九十呎ナリ、山嶺ヲ降レバ「セブテン」河ノ谷地ニ入り、十一露里ニシテ下控爾驛トナル。

下控爾驛ヨリ道ハ東南ニ折レ、一露里半ニシテ「フィンゴール」河ノ谷地ニ入り、沙洲ニ依テ同河ヲ涉リ、其左岸ニ沿ヒ右岸ニ遷リ、又左岸ニ來リ、遂ニ阿楊驛ニ至ル。

阿楊驛ヨリ「フィンゴール」河ノ谷地ヲ通スル道路ニアリ、左スルモノハ郵路ニシテ、二露里間ハ時トシテ出水ノ患アル草原地ヲ行キ、十露里ヲ經テ東ニ折レ、山嶺ヲ踰エテ撒拉克峇驛（阿楊

ヨリ二十三露里)ニ至ル、右スルモノハ驛站ニ於テ「フィンゴル」河ヲ涉リ、行クコト七露里
 左岸ニ遷リ、阿楊ヨリ十八露里ニシテ、河畔ニ綿亘スル撒拉克峇、或ハ「ジャビラダバン」ト稱
 スル山嶺ヲ通過ス、其山頂ニ於テ「タルシジャン」ト稱スル海拉爾ヨリ通スル道路來リ會スルア
 リ、山頂ヨリ十三露里ニシテ、北方ヨリ流下スル「フィンゴル」河ヲ涉リ、更ニ三露里半ニシテ撒
 拉克峇驛ヨリ來レル、大郵路(阿楊ヨリ分岐スル左支路)ニ合シ、後チ又三露里ニシテ哈拉呼台
 驛ニ達ス。

哈拉呼台驛ノ下ニ於テ、北方ヨリ來レル丘陵ヲ踰ニ、五露里ニシテ又他ノ丘陵ヲ過ギ、後チ七露
 里ノ間山多キ谷地ヲ通ジ、「フィンゴル」河ヲ過ギテ庫庫爾驛ニ達ス。

庫庫爾驛ヨリ石子驛ニ至ル道ハ「フィンゴル」河ノ谷地ニシテ、平坦ナル平原ヲ直線ニ進ム、石
 子驛ヨリ道ハ猶ホ南方ヲ指シ、嫩河ニ向ヘル緩漫ナル傾斜面、大々的波狀地ヲ延亘ス、此地方
 ニ至レバ、漸次支那、「ダウル」人ノ諸方ニ移植セルヲ見ルベシ。

石子驛ヨリ十八露里ニシテ、滿洲人ヨリ成ル大村落ノ白楊^{バヤン}ニ至ル、此レヨリ漸ク砂地トナリ、
 五露里ニシテ嫩河ノ西支流ノ河岸ニ至リ、之ヲ經ルコト一乃至一露里半ニシテ嫩河ニ至ル、此
 地方ニ於ケル嫩河ハ、平低ニシテ粘土的砂地ヲ貫流シ、河身約百五十歩、河ニハ政府ノ設置ニ
 係ル渡舟ヲ備ヘアリ、之レヲ渡レバ全ク平坦ナル粘土地層トナリ、二露里ニシテ北方愛琿ヨリ

來レル道路ニ合シ、一露里半ニシテ北門ヨリ齊々哈爾市城ニ入ル。

第三十一、齊々哈爾、海拉爾間支路

齊々哈爾、海拉爾間ニハ上陳セル郵路ノ外、尙ホ「タルシジャン」ト稱スル道路アリ、土人ノ説ニ
 依レバ其延長畧ホ三百五十露里ニシテ、海拉爾市ヨリ「イベンゴル」河ノ谷地ニ依リ、「フムト
 ロゴイ」^{糞谷}ニ入り、「ガンジスウル」ヨリ來ル道路ト合シ、漸次「イベンゴル」ノ谷地ニ依
 リ「タルシダバン」ト名付クル大興安嶺ノ主脈ニ至リ、後チ「ソロバンゴル」河ノ谷地ニ出デ、
 河ノ左岸ヲ辿リテ綽爾河ノ上流ニ於テ該河ノ會合スル處ニ至リ、綽爾河ノ沙洲ヲ涉リ綽爾、雅
 爾兩河ノ分水嶺ヲ過グ、此峠ヲ「ハマルダバン」ト稱ス、次デ該山嶺ニ並行シテ貫流スル綽爾河
 ノ支流「ジイギン」河ノ沙洲ヲ涉リ、第三ノ「イテンバダン」嶺ノ峠ヲ過ギリ、後チ巴里木驛ノ下
 流二十乃至二十五露里「フィンゴラ」河口ノ上流、又タ之レト同距離ノ處ニ於テ雅爾河ノ谷地ニ
 出ヅ。

此レヨリ雅爾、「フィンゴル」ノ兩河ノ谷地ニ依リ、撒拉克峇ノ山道ニ達シ、此處ニ於テ前者
 ノ郵路ニ合ス、他ノ分岐線ハ雅爾河ニ沿ヒ其下流ニ至リ、又左齊々哈爾ニ向テ分岐線ヲ出セリ、
 此道路ハ實ニ好良ニシテ、有ユル他ノ道路ニ比シ最モ短距離ナリ、然レドモ其沿道全ク無人ノ
 境ヲ通シ、屢々「オロチヨン」人ノ掠奪ニ逢フヲ以テ、之ヲ利用スルモノ稀ナリト云フ。

露國ノ境界地方ヨリ海拉爾市ニ通ズル道路ハ、舊「ツルハイト」、「ハイラスト」、「アバガイト」ノ三邑ヲ通過スル三道アリ。

(甲)此等ノ道路中前者ハ、露領ヨリ「アルグー」ニ河ヲ渡リテ滿洲ニ入り、波狀ヲ爲シテ展開シタル地方ヲ南行シ、十八露里ヲ經テ「シケリドジブラク」ノ終流ニ至リ、之レニ沿フコト八露里、地形愈波狀ヲ呈シ、道ハ愈高隆シ、二十露里ヲ經テ、「アングルボフト」山道ノ麓ニ達ス、山道ノ登上ハ險惡ナラザルト共ニ降下モ亦タ困難ナラズ、此レヨリ一般ノ傾斜南方ニ開展シ、道ハ幾多ノ大ナラザル丘陵ヲ踰エ、山道ヨリ二十露里ニシテ著大ナラザル「メルゲル」河ニ至リ、終ニ平坦ナル高原ニ入り、之ニ依リテ延引スルコト二十露里ニシテ、海拉爾河畔ノ沼地ニ至ル、同河ヲ過ギリ「イベンゴール」河ノ左岸ニ沿ヒ、五露里ニシテ海拉爾市ニ達ス、海拉爾河ヲ渡涉スル所、水流ハ頗ル急ニ、沿岸河底砂石ヨリ成リ、幅八乃至十「サージン」ナリ、河ニハ蒙古人ノ主管スル政府設立ノ渡場アリ、此地方ハ水流甚ダ稀少ニシテ、上陳セル河川ノ外、北方ノ山麓ニ於テ二個ノ大ナル井狀ヲナセル水溜、山道ノ降下スル處ニ於ケル小湖、及ビ雨水後ノ溜水等ヲ見ルノミ、且ツ全ク樹木無ク、處ニ依リテハ全ク野草ヲ見ザル所アリ、從テ住民ナシ。

(乙)「ハイラストウ」ニ於テハ、舊「ツルハイト」ニ於ケルガ如ク、「アルグー」ニヲ渉ルベキ沙洲アルコトナシ、之レヲ渡レバ幅七乃至八露里ニ亘ル澤地延亘ス、少シク高隆セル地方ニ登レバ地勢南方ニ向ヒテ漸次ニ高隆シ遂ニ進ンデ「ハイラストウ」ヲ距ル二十五露里ノ、「ハイルトウ」ト稱スル峠ニ達ス、降下モ亦前ノ如ク甚ダ緩漫ニシテ、十六露里ニシテ「ホレトウ」ト稱スル地方ニ於テ海拉爾河畔ニ至ル、此處ニ於テ「アバガイト」ヨリ來ル道路ト合シテ東折シ、二分シテ南方ノ支路ハ、終始「イベンゴール」河口ニ至ル迄、海拉爾河ニ沿ヘリ、而シテ左即チ北方ニ通ズルモノハ、海拉爾河ノ右岸ニ綿亘スル山嶺ヲ踰ユ、前者ハ河岸ノ道路ニシテ、南方ニ向テ著シク彎曲セル結果、七乃至十露里ノ長距離ヲナセリ、其他「ホレトウ」ヨリ六十露里ニシテ、全ク貨車ノ通行ヲ阻止スル「メルゲル」河ノ濕低地ヲ通ズ、而シテ北方ノ道路ハ前者ノ彎曲セル弧線狀ニ反シ、之レヲ弦線狀ニ通行シ、五十露里間ハ水流ナキ砂土ヨリ成ル高丘ヲ過グ、而シテ其ノ殘餘ノ部分ハ舊「ツルハイト」ヨリ來ル道路ト合スル迄ハ、海拉爾右方ノ高岸ヲ延亘ス、「ハイラストウ」ヨリ「ホレトウ」ニ至ル間ハ、全ク樹木ナク、「ホレトウ」ニ至テ漸ク松樹ノ點々タルヲ見、海拉爾河畔ニ至リテ鬱蒼タリ、住民モ亦唯海拉爾河畔ニノミ繁殖ス。

(丙)「アバガイト」、「ホレトウ」間ノ道ハ、「ダガン、デエル」山麓ヲ蜿蜒スル海拉爾河ノ右岸ヲ通過ス、此地ノ情况ハ全ク不明ナルモ、山麓ノ河畔地方ハ全ク砂土ヲ以テ蔽ハルト云フ、「ホレ

トウ」ヨリ道ハ前述セル二道ト合ス、此等道路ノ延長百四十乃至百五十露里ナリ。

海拉爾ト境ヲ相接スル、呼倫貝爾地方ノ蒙古地方ニ於ケル交通ハ、左ノ三大道路ヨリ成ル。

(甲)及ビ(乙)「ガンヂユール」及ビ「シヤクシユール」驛ニ至ル二道路アリ、後者ハ車ヲ通ズル郵道ナルモ、延長甚大ナル高地ヲ通ズルト共ニ、地方ハ概テ砂石ヨリ成ルノ結果、全沿道ニ於ケル四個ノ大ナル井ヲ除クノ外水流ヲ見ズ、住民ハ毎歲特別ナル秩序ニ依テ交代シ、驛站ニ從事スル僅々ノ蒙古人ノ外ハ皆無ナリ。

(丙)西南「ドロソノール」ニ通ズル道路。

海拉爾市ヨリ「エムゲイブルガイフドク」ノ井ニ至ル道路、或ハ「ガンヂユール」ニ分岐スル二百露里間ノ道路ノ状態ハ、其顯著ナラザル徑路タルニ過ギザルハ、現時海拉爾市ニ於ケル交通ノ廢類ニ屬スルヲ證スルモノトス、「ガンヂユール」ヨリ來ル道路ト合スルニ及ンデ、此道路ハ廣大トナリ、通行亦至便トナル、「エムゲイブルガイフドク」ノ井ヨリ海拉爾河ノ谷地ニ下ル、該谷地ニ於ケル渡場ニハ、常ニ其渡航ニ從事スル人民ノ棲息セル村落アリ、貨車ハ此地ヲ通スルヲ常トセリ、其他海拉爾河ニハ政府設立ノ渡場アリ、呼倫貝爾高原ヲ横貫セル道路ヲ終結スルニ當リ、尙ホ「アバガイト」ニ至ルニ於テ露領ヨリ來ル道路ヲ記スルノ要アルヲ認ム、該道ハ後ニ至リ二分シ、其東ナルモノハ「ガンヂユール」ヲ通過シ、西方ナルモノハ「オル

シウナ」、海拉爾河ノ東岸ヲ通シ、後チ上陳セル海拉爾「ドロソノール」間ノ道路ガ海拉爾ヲ通過スル渡場ノ北方ニ於テ右兩支線ト會合ス。

「アバガイト」ヨリ道ハ、其汚濁セル支流ノ西岸ニアル高地ヲ延亘シ、二十五露里ヲ經、「イシンサバ」ノ嶺ヲ越エテ、其東岸ニ至ル、此レヨリ十五露里間ハ稀薄ナル野草ヲ生スル沙土ノ丘陵ヲ通ジ、後チ二分シテ、其一ハ八露里ニシテ「ホルバイ」山嶺ノ麓ニ至リ、他ハ洪水期ニ際シ、氾濫セル湖ノ縁邊ヲ組織スル山嶺ヲ通ス、「ホルバイ」ノ高嶺ヲ過グレバ道ハ再び分岐シ、左道ハ「ガンヂユール」ニ至リ、右道ハ「オルシウナ」河畔ニアル「シヤクシユールガ」驛ニ達ス、全延長六十露里間ハ全ク貨車ヲ通ス。

「シヤクシユールガ」驛ニ於テ、西方ニ向ツテ「オルシウナ」河ヲ過グル支線ヲ分岐ス、支線ハ「ブルイノール」湖ヲ西方ヨリ回旋シテ、海拉爾、呼倫池間ノ道路ト海拉爾河ヲ渡レル、南百露里ニ於テ會合ス。

「シヤクシユールガ」ヨリ道ハ、河流ノ谷地若クハ河岸ノ丘陵ヲ、延亘スル砂土ニ際會スルコトアルモ、而モ車行ニ便ナリ、四望樹木ヲ見ズ、「ガンヂユール」ニ通ズル道路ハ、「ホルバイ」山嶺ヲ過ギ、辛ウジテ認識サルベキ徑路ニ依リ、一直線ニ南ニ向ヒ、終始高嶺ニ沿ヒ、僅カニ燃料ヲ採リ得ベキ砂地ヲ通行スルコト數次ナリ、飲料水ハ唯ダ平野ニ開穿セラル、井ニ依

テノミ供給セラル、「アバガイト」ヨリ「ガンヂェール」ニ至ル延長約一百露里、其後半哈爾哈河岸ニ至ル地方ハ、全ク荒涼セルモ、道ハ廣ク且ツ平坦ニシテ堅牢ナレバ、支那貨車ノ通行ニ便ナリ、水ハ大概ハ井ニ依リテ供給セラル、此二道路ハ終ニ「シヤクシユウルガ」ヨリ「ガ

ンヂェール」ニ通ズル全ク水ナキ道路ニ會合ス。

第三十二、布特哈、塔哈爾站間(齊々哈爾ノ北方二十三露里)

其延長約百三十露里、布特哈ヨリ北方「アルグーニ」河畔ニアル、「オロチヨン」種ノ村落ニ通ズル道路アリ、「トルガチン」ヲフ名稱ノ下ニ有名ナリ。

第三十三、寧年站(齊々哈爾ノ北方七十三露里)、呼蘭城間

該道ハ未ダ好ク踏査セラレズト雖ドモ、齊々哈爾ヨリ呼蘭城間(第二十七)ノ道路ニ連絡ス。

第三十四、墨爾根、舊「ツルハイト」間

専ラ家畜ヲ驅逐スルニ使用セラル、而モ亦貨車ヲ通ズルニ適ス、該道路中通行ノ最モ不便ナル地方ハ、大興嶺ニ於ケル幽谷、幾多ノ溪流ヲ過ギル地方ニアリトス。

第四節 支那地圖ニ掲載セル盛京省道路ノ

概要及驛站ノ名稱

左ニ清國地圖ニ記載セラレタル盛京省道路ノ概要、驛站ノ名稱ヲ詳記ス可シ。省ノ行政區劃ニ關聯且適合シテ道路ハ左ノ順序ヲ以テ南滿洲、州、郡ニ於テ配置セラル。

- 第一 遼遠州圈區内ニ於ケル道路
- 第二 錦 縣圈區内ニ於ケル道路
- 第三 廣寧縣圈區内ニ於ケル道路
- 第四 義 州圈區内ニ於ケル道路
- 第五 新民廳圈區内ニ於ケル道路
- 第六 鐵嶺縣圈區内ニ於ケル道路
- 第七 開原縣圈區内ニ於ケル道路
- 第八 康平縣圈區内ニ於ケル道路
- 第九 昌圖府圈區内ニ於ケル道路
- 第十 奉化縣圈區内ニ於ケル道路
- 第十一 懷德縣圈區内ニ於ケル道路
- 第十二 興京廳圈區内ニ於ケル道路
- 第十三 海龍廳圈區内ニ於ケル道路

- 第十四 通化縣圍區内ニ於ケル道路
 - 第十五 懷仁縣圍區内ニ於ケル道路
 - 第十六 岫巖州圍區内ニ於ケル道路
 - 第十七 鳳凰理事廳圍區内ニ於ケル道路
 - 第十八 安東縣圍區内ニ於ケル道路
 - 第十九 寬甸縣圍區内ニ於ケル道路
 - 第二十 承德縣圍區内ニ於ケル道路
 - 第二十一 遼陽州圍區内ニ於ケル道路
 - 第二十二 海城縣圍區内ニ於ケル道路
 - 第二十三 蓋平縣圍區内ニ於ケル道路
 - 第二十四 復州圍區内ニ於ケル道路
 - 第二十五 錦州廳圍區内ニ於ケル道路
- 第一、遼遠州ヨリ盛京省錦州府ニ通ズル道路ハ左ノ如シ。
- (一) 西南山海關ニ至ル道路ハ左ノ驛站ヲ通ズ、遼遠站、鄒窩棚、頭台、二台、曹庄、七里坡(此處ヨリ柳條邊、白石咀門ニ至ル濼狀ノ丘陵ヲ通スル道路ニアリ)、王家窪、沙河所、永安橋、

- 烟台、望海店、曲尺堡、三里橋、東關站、董家窪、二台子、報官嶺、中後所(此處ヨリ西方柳條邊、明水塘門ニ至ル支線(三)ヲ出シ道路ハ尙ホ左ノ諸邑ヲ通過セリ)、頭台、馬家河、二台、閻家嶺、三台、周家屯、沙河站、上嶺、板橋、葉家堡、高兒城、老爺廟、高家沿、凉水家站、滿水、前屯衙、王崗台、高家窪、陡坡台、高力站、大松嶺溝、松嶺溝、中前所、石橋、凉水河、老君屯、王家庄、邱家屯、紅牆子、八里舖、觀喜嶺、及ヒ山海關
- (二) 七里坡ヨリ白石咀門ニ至ル上陳セル道路ハ左ノ諸邑ヲ通ズ。
- 紅水溝、王洛堡、滿家屯、界家台、大新民屯、紅旗門、二家子、王麻嶺、雲台寺、陳糧溝、圍瓢、棒槌溝、湯上、栢家屯、土門子、陳家屯、永和屯、老邊、頭道溝、二道溝、下梨樹溝、及ヒ白石咀門
- (三) 中後所ヨリ明水塘門ニ至ル上陳セル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
- 王資河、瓦子甸、水口、陳陰溝、狼洞子、趙家屯、龍家屯、葉紅旗、城廠溝、古山子、黃家屯、棗林、車頭道、山咀子、紅廟、庫糧溝、及ヒ明水塘門
- (四) 遼遠州ヨリ柳條邊、梨樹溝門ニ至ル道路ハ遼遠站ヨリ左ノ諸邑ヲ通過ス。
- 披甲屯、苦菜溝、梁屯、蔣家屯、大山台、小山台、英守溝、楊樹溝、老頭溝、柳條溝、下城廠、上城廠、毛頭貝、糞糊山、石梯溝、三道溝、及ヒ梨樹溝門

(五) 寧遠州ヨリ西北柳條邊、新台門ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
 栢家坎、老邊、百塔峪、興水縣、二道河、舊門、達子營、劉屠屯、松樹卯、啞吧溝、雞皮嶺、
 及ビ新台門

(六) 錦縣圈區内ニ於テ寧遠州ヨリ左ノ道路アリ。
 就中北方ニ至ルモノハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

花園、蔣王廟、五家、陳家嶺、小蓋州
 (七) 東北ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

于屯、滕嶺、雙樹堡、老和、尙台
 (八) 東南ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

溫泉寺、烏屯、小周屯、紅石碑、釣魚台
 第二、錦縣ノ圈區内ニハ左ノ道路アリ。

(一) 上陳セル寧遠州圈區内ニ於ケル道路中其ノ(七)ナル寧遠州ヨリ東北ニ通ズルモノハ、錦縣ニ入
 リ其方向ヲ維持シ、左ノ諸邑ヲ通過ス。

五里河、連山、老爺嶺、三義廟、周柳河、塔山、小紅旗營、紅旗營、朱家窪、高橋、燕家屯、
 七里河、黃屯、五里屯、杏山、七里台、牛心山、松山、石山子、大嶺、水牛營、小凌河站、

山羊嶺、雙陽嶺(此處ニ於テ錦縣市ニ向ツテ支線ヲ出シ、尙ホ左ノ村邑ヲ通過ス)、四箇碑、
 分水嶺、大凌河站、金城所、趙窩棚、禿老婆店、李家堡、石山站、望山堡、五台、四台、三
 台、而シテ廣寧縣ノ圈區ノ境界ニ達シ、尙ホ二台、小二台、魏屯ヲ通過ス。

(二) 上陳セル雙陽嶺ヨリ錦縣ニ通ズル支線ハ左ノ諸邑ヲ通過ス
 小凌河營防、百官屯、西百官屯、五里營、終ニ錦縣ニ至ル。
 錦州府ノ首都錦縣ヨリ左ノ道路ヲ支出ス。

(三) 西南柳條邊ノ新台門ニ至ルニ左ノ諸邑ヲ通過ス。
 溫屯、于里台、羊興屯、蘇家溝、羊圈、金銀堡、小馬隊、高台子、英守堡、網戶屯、臥佛寺、
 南喇嘛巷、頭台、虹螺縣、崑山屯、團山、西溝、錢裕屯、陳家屯、倒洗河、杠屯、娘娘廟、
 鐵營、老爺廟、曹屯、江家屯、周鐵匠山、于家屯、上坡、王家屯、武家嶺、樓房、朱家溝、
 及ビ新台門

(四) 西北柳條邊、松嶺子門ニ至ルニ左ノ村邑ヲ通過ス。

孫家溝、河夾心、沙河營、沙河堡、四方台、馬家口、小馬家口、下板石溝、獅子嶺、小劉屯、
 隈家溝、斑善塔、黃土坎、札森、紅窩口、及ビ松嶺子門

(五) 東北義州圈區ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

善屯、大亮馬山、楊家屯、二道河、葛王碑、下雉雞台、上雉雞台、八角台、興隆店、齊堡。

第三、廣寧縣圍區内ニ左ノ道路ヲ有ス。

(一)上陳セル錦州圍區内ニ於テ廣寧縣圍區内ニ至ル道路アリ、其前東北ノ方向ヲ維持シ左ノ所ヲ通過ス。

間陽驛(此處ニ於テ東南、奉天府、海城縣ニ向ツテ支線ヲ出シ、本道ハ左ノ村邑ヲ通ズ)三家子、吳台、頭台、二台、三台、長興店(此處ニ於テ新民廳圍内ニ支線ヲ出シ、進ンデ左ノ村邑ヲ通ズ)壯鎮堡、四台子、三台子、二台子、頭台子及ビ終リニ廣寧縣市

(二)上陳セル間陽驛ヨリ海城ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通ス。

呼咀、羊圈子、馬帳房、豆坨、小甜水河、台子、南鍋、九間房、甜水坨、顧家店、二家溝、胡窩棚、杜家台、賈家店、太平河

(三)上陳セル長興店ヨリ新民廳圍内ニ至ル支線ハ左ノ諸邑ヲ通ス。

沈家屯、興隆店、廣寧站、郭家窪、焦家店、孤家子、二台、朝陽堡、于家台、中安堡、三里店、羊腸河(此處ニ於テ道ハ、廣寧ヨリ來ル(四)支線ト合シ、後チ新民廳圍ノ境界ニアル驛站小黑山ニ至ル)

(四)上陳セル廣寧縣市ヨリ羊腸河ニ至ルニハ左ノ道路ヲ通過ス。

屈家屯、石炭密、沙河、三家、土堡子、高力板、終ニ羊腸河

(五)廣寧ヨリ北方白土廠門ニ至ルニハ左ノ村邑ヲ通過ス。

分水關、范家店、望寶台、一邊家店、三台、終ニ柳條邊白土廠門

第四、義州圍區内ニハ左ノ道路アリ。

(一)上陳セル錦縣ノ圍區内ニ於テ義州圍内ニ入ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
高力沖、松林堡、石橋、三家、大嶺、杜家屯、七里河、及ビ義州市

義州市ヨリ左ノ道路ヲ支出ス。

(二)西南方柳條邊松嶺子門ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

宋家屯、五里屯(此處ニ於テ西北西、柳條邊九官臺門ニ向ツテ支線(三)ヲ出シ進ンテ左ノ諸邑ヲ通過ス)六里店、老爺廟、許家溝、大嶺、磚城子、王城子、毛三家、高家溝、劉龍溝、拐磨子、小曹屯、馬張子、靠山屯、施窩棚、三道河、小二名、終ニ松嶺子門

(三)上陳シタル五里屯ヨリ柳條邊、九官臺門ニ至ルニハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

八里堡、四方臺、得勝堡、河夾心、周家屯、牝牛嶺、終ニ九官臺門

(四)東北柳條邊、清河門ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

甘家窪、臥龍泉、廟兒溝、觀音堂、石家堡、高臺子、霍神廟、及ビ清家門

(五)南方廣寧圍區ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

鄭屯、高屯、五里屯、高虎、平房、李家臺、燕窩溝、平房峪、魯家屯、板石溝、小數屯、磚城、此道路ハ廣寧縣圍區ニ入り其都邑ニ至ル。

第五、新民廳圍區内ニハ左ノ道路ヲ有ス。

(一)上陳セル廣寧縣圍内ヨリ新民廳圍内ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

十里崗、頭道境、胡窩棚、孤家子、金窩棚、茶棚巷、二道井、五棵樹、靠山屯、半拉門、姜猪店、張家屯、金家房、小白旗堡、白旗堡、川心溝、石獅子、潘家崗、程家坑、柳河溝、黃旗堡、小黃旗堡、及ビ新民廳市

新民廳市ヨリ左ノ道路ヲ支出ス。

(二)西南西、柳條邊ニ向ヒ左ノ諸邑ヲ通過ス。

魏家屯、魏家崗、四家子、杜窩棚、張窩棚、燒鍋屯、劉家屯、張窩棚、沙嶺崗、葛窩棚、趙家坨、搭連坨、馬家坨、馬隊、孟家屯、後房中、山東屯、六合屯、靠山屯、黃家台、終ニ柳條邊新立屯

(三)北方柳條邊、彰武台門ニ向ヒ更ニ左ノ諸邑ヲ通過ス。

前營子、後營子、樹林子、張家屯、曹家屯、劉家屯、後崗、下窪、干窩棚、後チ彰武台門ニ

至リ西南シテ左ノ諸邑ヲ通過ス。

四家子、五家子、橫道子、新開河、高台山、孔家窩、楊家店、東三台、西三台、雙廟、福興隆、馬窩棚、衙門街、板道營、廂白旗、孫家梁、秦窩棚、樹樹營、哈拉套改、溝北稿

(四)東北鐵嶺縣ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

後崗、高台子、腰高台、平安堡、川心店、東舊門、溫家屯、泡子治、公主屯、十里堡、西蛇山、東蛇山、民家屯、陶家屯、藍旗堡、三台、藍旗堡(鐵嶺縣ノ境界)

(五)東方承德縣ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

郭屯、茶棚庵、三棵樹、五道河、巨流河、劉窩棚、孤家子、六州崗、興隆店、韓窩棚、八間房、及ビ承德縣圍區ノ境界干窩棚

(六)東南遼陽州ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

八里堡、恒溝、瓦房、灣池、一半拉堡、佟房中、大民屯、小民屯、偏堡、博原林、南崗、韓三家、楊仕崗、小新屯、腰鈴崗、(此レヨリ以往ハ表示セス)

(七)南方ニ至ルモノハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

佟燒鍋、范家屯、龐三家、趙家屯、王家崗、東窪、鯽魚泊、七家、曹窩棚、小榆樹、曹家台、老達房、民家屯、滿都戶、花牛畝、老虎崗、長崗子、大紅旗、古洞崗、新立屯、前阿拉河、

亞巴堡、王窩棚、八角台、潘家屯

第六、鐵嶺圈區内ニハ左ノ道路ヲ有ス。

(一) 上陳セル新民廳圈内ニ於テ鐵嶺圈内ニ入ル道ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

草根泡、衣素牛录、舊門、大嶺、小孤家、後孤家、十間房、長山溝、終ニ開原縣圈區ノ境界小房身ニ至ル。

鐵嶺市ヨリ左ノ道路ヲ出ス。

(二) 西北西、開原縣圈區ノ境界小房身ニ至ルニハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

馬蜂溝、正西堡、永安堡、大青堆、膝窩棚、枯榆樹、前石峪、索奈溝、兀述街、刁蹄山、興隆山、及ビ小房身

(三) 東北開原縣圈内ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

高力站、平頂堡、山頭堡(開原縣ノ境界)

(四) 東方開原縣圈内ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

熊官屯、黑油房、興隆店、宿老屯、黃石硫、土台子、龍灣山、太平寨、牧養正、金駱山、打虎村、羅荒地、溫地火浴、蘆溝、韭菜峪(開原縣圈區ノ境界)

(五) 南々西承德圈内ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

八里庄、遼海屯、阮家窪、吉子、范家店、新屯、亂石山、三台、終ニ境界鐵路驛站ニ至ル。

第七、開原縣圈内ニハ左ノ諸道路アリ。

(一) 鐵嶺縣圈區ニ於テ上陳シタル小房身(一)及ビ(二)ニ至ル道路ハ開原縣圈區ニ入り、柳條邊、法庫門ニ至ル。

(二) 鐵嶺縣圈區ニ於テ上陳シタル開原縣圈内ニ入ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

中固鎮、沙河堡、清水台、三台、二台、終ニ開原市

開原ヨリ左ノ道路ヲ出ス。

(三) 柳條邊、法庫門ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

二台、三台、英城子、四社、八屯、慶雲堡、雙樓台、(清國地圖ニハ柳條邊、雙樓台門ヲ通過スル道路ヲ掲載セズ蓋シ此道路ハ前雙樓台門ヨリ後雙樓台ヲ通過スルナラン、此等ノ兩邑ガ門ノ名稱ト類似セルハ注意ス可キ點ナリ)古城、木廠、明安碑、大民泊、柏家溝、頭台、二台、崑山屯、黃花崗、羊草溝、菓子園、終ニ法庫門

(四) 柳條邊、雙樓台門ニ於テ前雙樓台ヨリ後雙樓台邑ヲ通ス、尙開原市ヨリ左ノ道路ヲ出ス。

(五) 北方柳條邊、馬千總臺門ニ至ル道路ハ左ノ道路ヲ通過ス。

八里庄、二道溝、紅旗營、終ニ馬千總臺門

- (六)開原市ヨリ東北方柳條邊、威遠堡門ニ至ル道路
- (七)開原市ヨリ東南柳條邊、土口門ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
 - 花園、入社、榆樹堡、新屯、尙陽堡、紅花甸、貂皮屯、雙榆樹、八稜樹、官糧窖、古城、八道崗、李家臺、下地、下清河、上清河、黃崗子、半拉山、大孤家、泉眼頭、松樹咀、商家臺、荒地、土口、終ニ土口門
- 第八、康平縣圈區ニハ左ノ道路ヲ有ス。
 - (一)開原縣圈區ニ於テ上陳シタル(三)ノ道路ハ柳條邊、法庫門ニ於テ合シ康平縣圈內ニ來リテ左ノ諸邑ヲ通過ス。
 - 方家甸、吳家店、郭家店、三臺子、小城、蘇窩棚、終ニ康平縣市
 - (二)西方蒙古ノ東南ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
 - 馬連屯、王連窩棚、伊方正窩棚、楊學窩棚、三窩棚、刻窩棚、郭窩棚、莫力克、五間房、前新屯、七家子、哈拉沁屯、黃家窪、大山地、石頭井
 - (三)東北、蒙古東南境ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
 - 李窩棚、傅窩棚、朝陽堡、獐子洞、鐵窩棚、新發堡、拉拉街、豹捧街、大平街、遼陽窩棚、

- 三眼井、拉明窩棚、小崴、孤甸、哈拉火頓、好老婆屯、崗崗、般井、四官營、張窩棚、鄭家屯
- (四)東南東昌圖府圈區ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
 - 黑丁屯、孔窩棚、楊窩棚、顧家屯、郝家屯、瓦房、終リニ遼河ノ附近小塔子
- 第九、昌圖府ノ圈區內ニ左ノ道路アリ。
 - (一)康平縣圈內ニ於テ上陳セル遼河ニ至ル道路ハ此地方ニ至リ左ノ諸邑ヲ通過ス。
 - 三家子、新立屯、三眼井、(此地方ニ於テ遼河河畔ニ位置スル通江口ニ向ッテ支線(二)ヲ出シ、本路ハ東北ノ方向ヲ維持シ遼河ヲ渉ルノ後東南東ニ向ヒ左ノ諸邑ヲ通過セリ)平安堡、金家屯、莫胡溝、大小屯、八寶屯、寶力屯、新立屯、双山、東嘎哈、孤甸、大窪、(此處ニ於テ又昌圖府ニ向ッテ支線(四)ヲ出シ、本路ハ尙ホ左ノ諸邑ヲ通過セリ)
 - 六家、勝家店、十里堡、八里堡、五里堡、八面城、馬家嶺、滿家店、李窩棚、五家窩棚、(此ヨリ奉化縣圈區ノ境界ニ至リ進ンテ奉化縣市ニ達ス)
 - (二)上陳セル三眼井ヨリ通江口ニ至ル支線ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
 - 紅石槽、新發廠、鴨蛋泡、孤榆樹、(此處ニ於テ該支線ハ昌圖府ニ至ル道路(三)ト合シ後テ通江口ニ至ル)。
 - (三)孤榆樹ヨリ昌圖府ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

- 白家窩棚、伊家窩棚、十八家子、金家口、康窩棚、丁窩棚、齊窩棚、興隆山、崮山屯、亮中橋、八棵樹、跑馬城、八家子、終ニ昌圖府
- (四) 上陳セル大窪ヨリ昌圖府ニ至ル支線ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
糜子廠、東大溝、四面城、四方台、崮山屯、二十家、此處ヨリ奉化縣區内ニ向ツテ支線ヲ出シ終ニ昌圖府ニ至ル。
- (五) 上陳セル二十家ヨリ奉化縣區内ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
長興堡、北長興、二十里堡、二十五里堡、興隆泉、柳條、蒼鶯樹、二河、蓮花泡、雞樹、終ニ奉化縣區内ノ境界四平街ニ至ル。
- (六) 上記セル開原ヨリ柳條邊、馬千總台門ニ至ル道路(五)ハ昌圖府ノ圍區内ニ於テ左ノ都邑ヲ通過ス。
水口、十里台、新立屯、五里堡、終ニ昌圖府第十、奉化縣區内ニハ左ノ道路アリ。
- (一) 上陳セル昌圖府圍内ニ於テ奉化縣區内ニ至ル道路(五)ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
富有庄、張家店、娘娘廟、後房身、八重堡、終ニ奉化縣市
奉化縣市ヨリ左ノ道路ヲ支出セリ。

- (二) 西北西康平縣圍内ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
華家園、平安堡、五間房、大牛園、日昇東、李樹背、夏家窩、喇麻甸、藍橋、十二馬架、長山堡、五家子、東太平山、千家屯、歡喜嶺、窮棒子溝、而シテ終ニ遼河ノ附近古力格屯ニ至ル遼河方面ニ於ケル康平縣圍内ノ該道路ハ地圖ニ掲載セラレヌ。
- (三) 北方懷德縣圍内ニ於ケル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
白山咀、裴油房、董大橋、董家堡、興隆溝、榆樹臺、達子窩棚、四家子、三道崗、孤家子、貓兒山、道路ハ尙ホ北方ニ進ミ、遼河ニ至リテ之ヲ踰エ、西方懷德縣市ヨリ來レル道路ト會合ス。
- (四) 東北方懷德縣圍區ニ於テ此道路ハ又左ノ諸邑ヲ通過ス。
梨科舖、編臉城、太平山、青石嶺、邵家店、張家屯、此處ニ於テ東方ニ支線ヲ出シ懷德縣圍内ニ於テ左ノ諸邑ヲ經過ス。
饒家店、車窪子、三段半地、龍母廟、三架窩棚、趙家店、薛家崗、三架窩棚、陸家崗、小城子、王家園子、土龍村、(奉化懷德兩縣圍區ヲ區分スル遼河ノ附近ニアリ)
- (五) 上記張家屯ヨリ懷德縣圍區内ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
東太平山、田家窪、大成店、西新發堡、萬發街、豐來店、新發堡、郭家店、雞陽堡、後子遼

東南分山、灣甸、紅樹溝、大那茨、小那茨、東蘇木嶺、七道河、長嶺、南八家（英額河畔ニアリ道ハ此レヨリ同河ニ沿ヒ開原圈內ニ入ル地圖ニハ之レヲ明記セス）

(五) 興京市ヨリ西南方柳條邊城廠門ニ至ル道路ハ左ノ道路ヲ通過ス。

二道河、哈山臺、榆樹底（此處ヨリ南懷仁縣ニ通ズル支線ヲ出シ本線ハ尙ホ西南ニ向ヒ左ノ諸邑ヲ通過ス）

紅旗、蔡家堡、托伙洛、何家堡、庫倉溝、長春嶺、大呼龍、三道關、三呼龍、小呼龍、西廂堡、啤方、單家崴、葦子峪、路家溝、大嶺、三道河、冷口、太資城、上夾河、長嶺、窪子溝、城廠、此處ヨリ西北承德縣ニ至ル道路アリ城廠門ニ至ル道路ハ城廠ヨリ東南ニ轉ジ東營房ニ至リ該門ニ達ス。

(六) 七記セル榆樹底ヨリ南懷仁縣圈區ニ入ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

大石溝、貓臉、都伙路、盆路、後チ柳條邊ヲ過ギ懷仁縣圈區ニ入り榜橋溝ニ至ル。

(七) 城廠ヨリ西北承德ニ至ルモノハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

閭崗子、池子沿、馬家城、水洞、趙家溝、傅家溝、小甸、清河城、陳家堡、東麻戶、大嶺、三龍峪、五百牛球、救兵臺（後チ承德縣圈內ニ入ルモ地圖ニハ之レヲ明記セス）
第十三、海龍縣圈區內ニ於ケル道路ハ左ノ如シ。

(一) 七記セル開原縣圈區內ニ於テ柳條邊、土口門ヲ通過スル道路ハ海龍縣圈區內ニ於テ左ノ諸邑ヲ通過ス。

白銀河、郭家店、二龍山、劉家店、五里堡、北山城、東山城、徐家店、黑咀、池家店、大黑咀、梅河口、掛金咀、沙河（同名河畔ニアリ）大灣溝、小灣溝、終ニ海龍市ニ至ル。

(二) 北方吉林省伊通州圈區ニ通スル道路ハ始メ東ニ向ヒ、少許ニシテ二分シ、一線即チ今茲ニ記セントスル道路ハ北々西ニ向ヒ、他即チ(三)ハ又吉林省伊通州ニ於テ東北ニ向フ、而シテ前者ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

馬家店、牛心頂（此處ニ於テ東南野豬溝ニ支線ヲ出シ本道ハ西北ニ向ヒ左ノ諸邑ヲ通過ス）高楊、一坐營、八道崗、黑咀、又黑咀、康大營、二道崗、朝陽山（該州ノ境界）

(三) 前記セル東北分岐ノ道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
野豬河、西橫虎、朝陽鎮、小城、東嶺虎、圍林子、點將台、此處ヨリ道ハ東南ニ轉ジ左ノ諸邑ヲ通過ス。

柳發城、東陽堡、寶玉溝、張家店、而シテ後伊通州ノ境界ニ至ル。
(四) 海龍市ヨリ西南通化縣ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

太平川、楊樹臺、城水河、此處ニ於テ隣村下砬子ニ支線ヲ出シ、本路ハ後チ伊通河ヲ過ギ、

通化縣宗家店ニ至ル。

第十四、通化縣圍區内ニハ左ノ道路ヲ有ス。

(一)上記セル海龍縣圍區内ニ於テ宗家店邑ニ至ル道路(四)ハ此處ニ於テ東方三通河畔ニアル様子哨ヨリ來ル道路(二)ト合シ左ノ諸邑ヲ通過ス。

柳河鎮、三棚甸、二棚甸、頭棚甸子、大青溝、小青溝、碗口嶺、此處ヨリ支線ヲ西南柳條邊ニ出シ本路ハ後チ左ノ諸邑ヲ通過ス、頭道溝、二道溝、大牛溝、此處ニ於テ様子哨ヨリ來ル道路(四)ト會シ、後チ南々東ノ方向ヲ取り左ノ諸邑ヲ通過ス。

釣魚臺、歪頭嶺、三合店、馬鹿溝、馬鹿嶺、沙松嶺、二密台、ゴ河道(五道河?)、樅楊樹、二密河及ビ通化市

(二)上記セル様子哨ヨリ宗家店ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

窩集崗、半截河、勝水河、淤沓河、常石河、橫頭河、仙人溝、塚木溝、新發堡、終ニ楊樹台(三)碗口嶺ヨリ西南柳條邊ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

灣口台、砬子溝、野猪溝、魚亮子、向陽鎮、亂木橋、後チ柳條邊ニ至リ興京圍区内ニ網ニ達ス。(四)様子哨ヨリ大牛溝ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

馬鞍山、掛牌嶺、拉子溝、通溝、哈蟬泉眼、鹿尾把村、袁家蹠、孤山、小豆溝、七盤洞、掛

山、六道溝、五道溝、夾山子、終ニ大牛溝

(五)上記セル興京圍區ニ於テ、柳條邊、旺清門ヲ通過スル道路ハ、通化縣圍區ニ至リ、左ノ道路ヲ通ス。

三棵樹、半截拉、曲柳溝、衣木樹、楊木包溝、北崗山、崗山川、英額布、高力城、船營、砬縫、合斗伙峪、三合堡、快代朝、此處ヨリ懷仁縣圍區ニ支線ヲ出シ、後チ東北ニ轉シ左ノ諸邑ヲ通過ス。

河口、老把頭、滴塔、後チ通化縣市

(六)上記セル快代朝ヨリ懷仁縣圍区内ニ通スル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

拉古河、大都嶺、紅魔嶺、高力墓、大泉眼、頭道溝、後チ懷仁縣圍區ニ入ル。(七)通化縣市ヨリ東北吉林省境上ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

頭道江(渾江又ハ混河ヲ渡ル)吳水河、二道溝、三道溝、熱水河、鴨子崗(混江ヲ渡ル)四道、此處ヨリ東南懷仁縣圍區ニ新道ヲ派出シ、再ビ混河ヲ渡ルノ後チ、尙ホ左ノ諸邑ヲ通過ス。

五道江、又該江ヲ涉リテ六道江ニ至リ、後七道江ハ道江、金廠、此處ヨリ南ニ東鴨綠江畔ニ向ケ十箇ノ支線ヲ出シ本道ハ尙ホ左ノ諸邑ヲ通過ス、紅石砬、炸子密、泥砬溝、大肚、紅汀、山岔子、終ニ吉林省花園縣圍區ノ境界ニ至ル。

(八) 上記セル四道ヨリ東南懷仁縣圍區ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

頭道溝、二道溝、三道溝、四道溝、五道溝、六道溝、此處ヨリ當石河ニ向ツテ支線ヲ出シ、
金廠ヨリ來ル道路(十)ト會シ、後チ左ノ諸邑ヲ通ス。

七道溝、八道溝、九道溝、十道溝、十一道溝、老嶺、而シテ懷仁縣ノ境界ニ入ル。

(九) 上記セル六道溝ヨリ當石河ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

沙熊窩、王鳳閣、窮邦溝、老人溝、七十二道河、火烙房、二道溝、餃子溝、三道溝、小長川、
仙人洞、大長川、白馬浪、葫芦套、錯草溝、葦沙河、小栗溝、望江樓、終ニ當石河ニ至ル。

(十) 上記セル金廠ヨリ當石河ニ至リ、尙ホ進ンデ鴨綠江畔ニ至ル道ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

石人溝、林子頭、黑能溝、撥抱松嶺、北老嶺、珍珠門、寶聚泉、頭道溝、終ニ當石河及ヒ鴨
綠江岸ニ至ル。

(十一) 通化縣市ヨリ懷仁縣圍區ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

大廟兒溝、雞冠砬、夾皮溝、板石嶺、小葦沙河、樓子溝、頭道嶺、甕園、荒溝、齒磨江甸、
五人班、泉眼溝、霸王槽、此處ヨリ懷仁縣圍區ニ支線ヲ出シ、又隣邑懷保心ニ支線ヲ出シ、
本道ハ尙ホ左ノ諸邑ヲ通過ス。

報馬川、上韭菜園、下韭菜園、花甸、干溝台上、轉心湖、黃崴、大青溝、倒木溝、大梨樹、

老爺嶺、後チ懷仁縣圍區ニ入ル。

第十五、懷仁縣圍區内ニハ左ノ道路アリ。

(一) 上記セル興京圍區ニ於テ榜檔溝ヲ通過スル道路ハ進ンデ左ノ諸邑ヲ通過ス。

橫道河、黑石、高石、草坑、海青火烙、花尖、此處ニ於テ柳條邊城廠門ヨリ來ル道路ト合シ
進ンデ左ノ諸邑ヲ通過ス。

紅湯石、二虎嶺、土門嶺、頭道河、二道河、三道河、四道河、五道河、响水河、六道河、終
ニ懷仁縣市ニ至ル。

(二) 上記セル柳條邊城廠門ヨリ花尖ニ至ル道路ハ興京圍内ニ於ケル該道路(五)ニ接續シ左ノ諸邑ヲ
通過ス。

二道溝嶺、徐大溝、東馬道、肚臍嶺、西河長、窪榆樹、此處ヨリ寬甸縣ニ支線(三)ヲ出シ後チ
小關枝溝ニ達シ、錯草溝ニ至リ又懷仁縣市ニ支線(四)ヲ出シ、後チ左ノ諸邑ヲ通過ス。

小東溝、了頭嶺、孔家嶺、老營溝、釣魚台、四道嶺、金坑、此處ヨリ支線(五)ヲ出シ第四線ト
合シ本道ハ後チ茶荊峪、石灰密而シテ終ニ花尖ニ達ス。

(三) 上記セル窪榆樹ヨリ寬甸縣圍區ニ至ル支線ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

四平街、老嶺、十八道河、柞木台、小板橙、大板橙、龍瓜溝、馬鹿泡、此處ニ於テ寬甸縣圍區

ノ境界ニ至ル此レヨリ先方ハ寬甸縣ノ地圖ニ掲載セス。

(四) 上記セル錯草溝ヨリ懷仁縣市ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

東瓜嶺、張船溝、楊樹嶺、大六斤半、六斤半、川頭、此處ニ於テ金坑ヨリ來ル道路(五)ト會合シ
尙ホ左ノ諸邑ヲ通過ス。

八里甸、長咀、韭菜園、白砬子、千石嶺、臭梨頭、大黃寶嶺、馬蹄溝、脖子溝、紅石砬、柞
樹嶺、此處ヨリ寬甸縣區内ニ支線(六)ヲ出シ本道ハ尙ホ左ノ諸邑ヲ通過ス。

梨樹溝、前牛毛、城頭、一面城、拐磨子、大干溝、灣灣川、小夾砬、雅河口、終ニ懷仁縣市
ニ至ル。

(五) 前記セル金坑ヨリ川頭ニ至ル支線ハ(四)ト會スル處ヨリ左ノ二邑ヲ通過ス。
門專溝、門專嶺、終ニ川頭ニ至ル。

(六) 上記セル柞樹嶺ヨリ寬甸縣區内ニ至ル支線ハ左ノ邑ヲ通過ス。
坎椽溝口、及ヒ寬甸縣區境界坎椽嶺ニ至ル。

(七) 上記セル通化縣區内ニ於テ懷仁縣區内ニ入ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
崗山嶺、岔路、熱鬧街、小荒溝、此處ニ於テ通化縣區ヨリ來ル道路ト合シ尙ホ左ノ諸邑ヲ

通過ス。

双嶺、宋家店、邊石哈達、關門砬、王家堂終ニ懷仁縣市ニ至ル。

(八) 上記セル通化縣區内ニ於テ霸王槽ヨリ來ル支線ハ渾江ヲ渡ルノ後懷仁縣區富原江口ニ至リ
此ヨリ老黑背ニ至リ後チ左ノ諸邑ヲ通過ス。

小干溝、下窪甸、上窪甸、終ニ小荒溝ニ至リ(七)支線ト會合ス

(九) 懷仁縣市ヨリ多少渾江鴨綠江ニ併行シ左ノ諸邑ヲ通過ス。

頭道嶺、柞呂川、二道嶺、乾草營、四道嶺、此處ニテ道路ハ二分シ後チ頭羊岔ニテ會合ス。

(甲) 四道嶺ヨリ西方ノ支線ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

雞冠砬、二棚甸、亂盤嶺、大眼溝、終ニ頭羊岔ニ至ル。

(乙) 四道嶺ヨリ東方ノ支線ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

双頭砬、恒道川、徐家店、朱胡溝、影壁山、終ニ頭羊岔ニ至リ後チ左ノ諸邑ヲ通過ス。

二羊岔、三羊岔、四羊岔、石龍、此處ヨリ渾江ノ沿岸ニ支線ヲ出シ尙ホ左ノ諸邑ヲ通過ス。

下甸、葡萄架嶺、五里甸、邁右川、尤營、双岔頭、化皮甸、桂牌嶺、皮條溝、橫
路、拉子溝、大羊岔、高力溝、岔溝門、通天溝、凉水泉、榆樹嶺、五道嶺、官地溝、拉溝
門、頭道坎、二道坎、棘線溝、通溝城、土口、夾皮溝、小青溝、荒溝口、羅家營、大荒溝、
錯草地、大青溝、干溝、官川、双岔頭、終ニ上陳セル通化縣區ニ於ケル該道路ノ終端老

嶺ニ至ル。

(十) 上記セル石龍ヨリ渾江ノ河岸ニ至ル道路ハ門坎頭ニ至リ後チ渾江ノ河畔ニ位置スル沙尖ニ至ル。

第十六、岫巖州圍區内ニ於テハ左ノ道路ヲ有ス。

(一) 岫巖市ヨリ南々西ニ向ツテ通スル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

扒虎嶺、鹹鹽咀、排坊、瓦坊、滕家堡、石佛崖、劉家店、新店、燒鍋、石頭嶺、寶聚店、廟溝、吉利、扣邦、雙塔嶺、姚家店、大營、大山咀、高力屯、邵家店、施家店、偏坡、干溝、庄河、庄子、杏兒府、姜屯、平房、花園、劉家店、蕭家坡、坎子下、終ニ金州廳、岫巖州ヲ區分スル碧流河口ノ宗家坨ニ至ル。

(二) 岫巖市ヨリ西北蓋平縣ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

熱地、湯地、何家堡、西山底、石灰窰、石灰溝、邵家河、富昌、坎子、藍古溝、終ニ蓋平縣ノ境界藍古嶺ニ至ル。

(三) 岫巖市ヨリ西北海城縣圍區ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

老瓜嶺、此處ヨリ北方鳳凰廳ニ支線(四)ヲ出シ進ンデ四道河、三道河、二道河、頭道河、大偏嶺、五間房、瓦房店、小偏嶺、三間房、松坨子、茶棚、瓦子溝、小孤山(海城縣境界)ニ至ル。

(四) 上記セル老瓜嶺ヨリ鳳凰廳圍ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

薛家堡、王家堡、黃嶺、黃旗溝、蘇子溝、喜鶴嶺、大嶺溝、趙大嶺、終ニ大洋河畔鳳凰廳境界附近沙坎ニ至ル。

(五) 岫巖市ヨリ東南東鳳凰廳圍區ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

城東溝、大虎嶺、大營、山咀、三道虎嶺、哨子河、終ニ鳳凰廳ヨリ岫巖縣ヲ區分スル大洋河畔附近ノ二道洋河ニ至ル。

(六) 岫巖市ヨリ東南鳳凰廳圍區ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

藍旗、巴家堡、洪家堡、土門嶺、樣子嶺、上賈店、下賈店、土城、石廟子、廟兒嶺、大頂、雙嶺山、終ニ大洋河畔大孤山ニ至ル。

第十七、鳳凰廳圍區ニ於ケル道路ハ左ノ如シ。

(一) 岫巖州圍區ニ於テ上記セル鳳凰廳圍區ニ入ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

黃花甸、馬家堡、姑娘溝、燒鍋、大陽溝、曲家堡、恒道河、新開嶺、曲家店、煖窩堡、東明砬、沙子崗、西門張、大羊溝、雞冠山、此處ヨリ廢類セル支線(二)ヲ北方遼陽州圍區ニ出シ本道ハ袞家窪、四台、三台、二台、頭台、終ニ鳳凰廳市ニ至ル。

(二) 上記セル雞冠山ヨリ遼陽州圍區ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

半拉嶺、橫頭山、王家店、雲裡站(郵站)、單家河、金家門、土門、林家台、樊家台、二道房、通遠堡(郵站)、岡草甸、和尚庄、草河口、金廟玉、高家嶺、終ニ遼陽州ノ境界刻家嶺ニ至ル。

(三) 鳳凰廳市ヨリ北方興京廳圍區ニ至ル支線ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
蒿子溝、草河沿、此處ヨリ東北方鳳凰廳、寬甸縣ヲ區分スル柳條邊ニ向ツテ支線ヲ出シ、更ラニ。

山東溝、長嶺、大溝、龍灣、下三家、顧家堡、半拉嶺、黑溝、松樹咀、化樹堡、大坎、茨榆背、杜家嶺、那家溝、黃滴、香羊嶺、荒谷、干溝、賽馬集、平頂山、溫洞、分水嶺、官地、藍河峪、終ニ興京廳ノ境界南四方台ニ至ル。此レヨリハ地圖ニ記載セザルモ、蓋シ此路ハ南四方台ニ於テ停止セラレズ、城廠ヨリ柳條邊城廠門ニ通ズルナラン。

(四) 上記セル草河沿ヨリ東北寬甸縣圍區ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
南黃嶺、趙家堡、周家堡、關家堡、大堡、北黃嶺、終ニ柳條邊附近石頭城ニ至ル。

(五) 岫巖州圍區ニ於テ上記セル鳳凰廳圍區ニ入ル支線(五)ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
葉家溝、李家堡、沙里寨、傅滿塔、詩那店、雕窩、半拉嶺、白旂、石柱子、小卡巴嶺、卡巴嶺、大梨樹、岔溝、終ニ鳳凰廳市ニ至ル。

(六) 鳳凰廳市ヨリ柳條邊鳳凰門ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

二龍山、蔡家嶺、長嶺、康家溝、終ニ鳳凰門ニ至リ更ラニ安東縣圍内ニ至ル。

(七) 鳳凰門ヨリ西南大洋河ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
台溝、乾柴嶺、崇家店、那家店、征瓦密、雙廟、此處ヨリ南々西海岸附近北井邑ニ支線(八)ヲ出シ更ラニ

伊家堡、土門、盤堡洛河、牌坊底、紅旂街、老虎洞、三家、蒙古營、上坡、終ニ大洋河々畔龍王廟ニ至ル。

(八) 上記セル雙廟ヨリ南々西ニ向フ道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
紅旂嶺、保右、東林子溝、吊水溝、小珠山、太平山、黑石房、小雙山、板橋、終ニ海岸ヨリ遠カラザル處ニ位置スル北井ニ至ル。

第十八、安東縣圍内ニハ左ノ道路アリ。
(一) 鳳凰廳圍内ニ於テ上記シタル(六)(七)ノ兩路ヨリ組成セラレテ鳳凰門ヨリ出ヅル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

大連池、東溝口、荒溝、高力橋、紅石砬、湯山城、長嶺、黃灣、湯池、此處ヨリ西北柳條邊ニ向ヒ支線(五)ヲ出シ更ラニ五龍背、野豬圈、獨木橋、老古洞、岔路、此處ヨリ東方鴨綠江畔ニ向ヒニ支線(三)ヲ出シ更ラニ羅漢殿、土城、終ニ安東縣市ニ至ル。

- 上記セルニ支線中北部及ビ南部ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
- (二) (北部) 大樓房此處ヨリ新支線ヲ北方寬甸縣ニ出シ、本道ハ更ラニ小樓房、恒道河、九連城、終ニ鴨綠江畔中江台ニ至ル。
 - (三) (南部) 蝦蟆嶺、該邑ヲ距ル少許ニシテ隣村元寶山、沙河鎮ニ支線ヲ出シ、本道ハ鴨綠江畔老龍頭ニ至ル。
 - (四) 上記セル大樓房ヨリ北方寬甸縣ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
青溝嶺、青溝、此ヨリ鑿河ヲ渡リテ寬甸縣ニ至ル。
 - (五) 上記セル湯池ヨリ柳條邊ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
影台、龍泉溝、石牌嶺、石佛咀、前東溝、此處ヨリ南方柳條邊ノ邊リニ支線(六)ヲ出シ、本路ハ更ニ柳條邊馬道嶺ニ至ル。
 - (六) 上記セル前東溝ヨリ南方ニ至ル支線ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
東溝嶺、壓車嶺、三截台、野貓房、長泡子、北礦洞、南礦洞、牛圈溝、赤榆頂、大房身、大泉眼、棋盤山、新溝沿、此處ヨリ東北安東縣市ニ支線(二)ヲ出シ、更ラニ海岸ヨリ遠カラザル太平洋ニ至ル。
 - (七) 上記セル新溝沿ヨリ安東縣市ニ至ル支線ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

榆樹房、石橋崗、前陽山、小影壁山、大影壁山、半拉灣、和清溝、洋子泡、白家堡、石洞子、接梨樹、銅鑛嶺、石道溝、崗石砬、六道溝、七道溝、終ニ安東縣市ニ至ル。

第十九、寬甸縣管内ニ於テ左ノ道路ヲ有ス。

- (一) 安東縣區ニ於テ記載シタル寬甸縣區ニ入ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
楊河口、黃波羅樹、大樺樹、太平川、土門嶺、金廠、紅銅嶺、張堡、土城、望寶甸、葉巴嶺、三道溝、此處ヨリ西方柳條邊ニ支線ヲ出シ更ラニ葡萄架嶺、青衣山、大水溝、大野豬、雙嶺、大漣石河、十八道窪、南嶺、終ニ寬甸縣市ニ至ル。
- (二) 上記セル三道溝ヨリ西方柳條邊ニ至ル支線ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
二道溝、東陽嶺、望寶石、小長甸、轉山子、峰蜜砬、棉花套、終ニ柳條邊ニ至ル。(此道路ハ又鳳凰廳管内ニ於テ記載サル)
- (三) 寬甸縣市ヨリ西北柳條邊靈陽門ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
十八道崗、小車溝、車子溝、老豆排、此處ヨリ東北懷仁縣ニ支線(四)ヲ出シ、更ラニ鴨綠沙、寶和長、長嶺子、龍爪溝、二道溝、八角樓、車軌泡、土門嶺、終ニ靈陽門ニ至ル、更ラニ鳳凰廳管内ニ入ル道路ハ掲載セラレズ。
- (四) 上記セル老豆排ヨリ懷仁縣ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

大拉溝、小拉溝、大川頭、松子嶺、二道溝、三道溝、大耳岔、錯草嶺、錯草溝口、下五道嶺、五道嶺、牛毛塢、土門子、大虎村、坎川溝、而シテ懷仁縣ニ入り、懷仁縣圈內ニ於テ記載シタル(四)線ト會合ス。

(五)寬甸縣市ヨリ東北渾江ノ河岸ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

土門嶺、上岔溝、下岔溝、羅圈甸、五道嶺、鹿亭子、泡子沿、南吊幌、此處ヨリ南方鴨綠江畔ニ向ツテ支線(四)ヲ出シ更ラニ石榴溝、太平哨、桂牌嶺、二龍凌、終ニ渾河々畔、古河臺ニ至リ之レヲ過グレバ懷仁縣ニ入ル。

(六)上記セル南吊幌ヨリ南方ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

連刀彎、大柞樹、柞樹嶺、官道溝、腰嶺、王寶比、般家堡、終ニ鴨綠江畔蒲石河ニ至ル。

(七)寬甸縣市ヨリ南鴨綠江畔ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

楊木崗、樓房、磬兒嶺、團甸、狗魚河、大羊溝、永甸、長甸嶺、長甸城、楊虎嶺、終ニ鴨綠江畔長甸河口ニ至ル。

第二十、承德縣圈區ニ於ケル道路ハ左ノ如シ。

(一)新民廳圈區ニ於テ記載セル承德縣、新民廳二圈區ノ境界老邊ノ郵站ニ至ル道路ハ後チ承德縣ニ入り更ラニ左ノ諸邑ヲ通過ス。

板橋、大房身、馬三家、藍家屯、永安橋、轉灣橋、方士屯、達連屯、下甸、大平庄、金家窪、皇寺、終ニ承德縣市ニ至ル。

(二)鐵嶺縣圈內ニ於テ記載シタル草根泡ヨリ來ル道路(一)ハ同處ヨリ新民廳ニ支線ヲ出シ、遼河ヲ渡リ承德縣ノ境界ニ位置スル石佛寺ニ至リ、更ラニ承德縣圈區內ニ於テ左ノ諸邑ヲ通過ス。
孟家臺、中心臺、興隆台、舊兵臺、尹窩棚、金盛堡、三家、穆窩棚、道義屯、金家窪、四臺、三臺、陵堡、終ニ承德縣市ニ至ル。

(三)鐵嶺縣圈內ニ於テ記載セル承德縣ニ入ル道路(五)ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
寒坡嶺、腰堡、三家、東五旂、孫家窪、蒲河、那家河、三窪、二窪、大窪、魚鱗堡、二臺、頭臺、終ニ承德縣市ニ至ル。

(四)興京廳ニ於テ記載シタル承德縣ニ來ル道路(一)ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
撫順、葛布街、川心甸、下房身、興隆甸、興隆堡、舊站、馬家灣、烟台、七間房、馬家橋、十里橋、東壇、地壇、終ニ承德縣市ニ至ル。

(五)承德縣市ヨリ東南ニ向ヒ弓狀ヲ成ス、道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
木廠、楊家屯、李巴彥、古城、李和屯、常家灣、常王寨、朱家屯、高士屯、山城、太平山、此レヨリ以往地圖ニ記載セラレズ。

- (六) 承德縣市ヨリ東南ニ至リ稍直線ヲナス、道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
黃枯坎、孤家、桑林、班子寨、荒山、黃姑屯、終二溝、小姑屯、劉心台、康梅營、蔡家屯、康大人山(遼陽州ノ境界附近ニアリ)、此レヨリ以往地圖ニ記載セラレズ。
- (七) 承德縣市ヨリ西南遼陽州ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
萬柳塘、渾河堡、五里台、白塔舖、尖白橋、占匠舖、飽家窪、沙河堡、余河窪、長興店、板橋、十里河、終ニ遼陽州ノ境界、十里河ノ郵站ニ至ル。
- (八) 承德縣市ヨリ西南遼陽州ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
八里堡、陳三家、路官屯、鄭家台、干家台、楊士屯、梅官屯、梨木山、得勝營、四方堡、青堆子、馬門子、林家台、潘家台終ニ遼陽州ノ境界新驛站ニ至ル、此レヨリ以往地圖ニ記載セラレズ。
第二十一、遼陽州圍區ニ於テ左ノ道路ヲ有ス。
- (一) 承德縣ニ於テ記載シタル遼陽州ニ至ル道路(七)ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
五里台、山葯堡、烟台、高寶橋、亂泥堡、三道墳、張台子、接官亭、韭菜園、迎水寺(郵站)、此處ヨリ其々廢類セル支線(二)ヲ出シ、後チ龍王廟ニ至リ終ニ遼陽市ニ至ル。
- (二) 前記迎水寺ヨリ支出スル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
東京陵、羅大台、孫莊子、雙廟子、紅土崖、立林溝、達連溝、七台、茨山、錘子嶺、唐家堡、

- 廟兒嶺、山城溝、王高玉嶺、梨樹溝、火連寨、本溪湖、此道路ハ太子河畔ニ及ビ其河畔ニ沿ヘル(四)線ニ至ル。
- (三) 鳳凰廳圍内ニ於テ記載シタル遼陽州ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
柳槎嶺、滴塔、大高嶺、金家咀、甜水站、三道嶺、青石嶺、二道河、浪子山、馬蹄嶺、小石門嶺、大石門嶺、望寶台、高力村、枯榆樹、此處ヨリ東南東ニ支線ヲ出シ後チ鴛房邑ヲ經テ遼陽市ニ至ル。
- (四) 上記枯榆樹ヨリ支出スル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
高城、米家屯、小屯、石咀子、南咀子、南雲梅、耿家屯、湯河沿、參將峪、小安平、大安平、三家子、寒坡嶺、松樹溝、孤家子、寧家寨、榆樹林、(此處ヨリ隣邑ニ支線ヲ出ス)、細河圍(細河々畔ニ位置ス)該河ヲ過ギリ後チ刻家堡、雁家庄、徐家庄、三王坎、此レヨリ地圖ニ記載セラレズ。
- (五) 此州圍區ノ南部ニ於テ(十)道路ノ終端ヨリ遠カラザル上達連河ヨリ東方ニ向フ道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
龍峯寺、營盤、具蔭寨、東升屯、二千嶺、下媽屯、此處ヨリ隣邑邊江灣ニ支線ヲ出シ、更ラニ黃崗子、貨郎溝、樺子嶺ヲ經、此レヨリ地圖ニ見エズ。

- (六)遼陽市ヨリ北方ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
小堡、此レヨリ太子河ヲ涉リ來河心ニ至リ、更ラニ大紙房、上崗子、南荒地、哈針泊、黑山屯、唐家台、小東山ヲ經、此レヨリ地圖ニ見エズ。
- (七)遼陽市ヨリ西北ニ向フ道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス
徐網屯、楊林子、廠房、新立屯、川心店、沙嶺台、徐上堡、黃家屯、二台、頭台、黃泥窪、二道崗、三道崗、此處ヨリ東南ニ支線ヲ出シ、更ラニ淤泥河畔ノ官渡ニ至ル。
- (八)上記三道崗ヨリ支出スル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
二公台、阿老橋、羅家套、泥鰲溝、刻二堡、烟狼寨
- (九)遼陽市ヨリ西南海城縣ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
八里庄、首山堡、土台、沙河、八卦溝、此處ヨリ西南西、海城縣ニ支線ヲ出シ、更ラニ長甸西方台ヲ經テ終ニ海城縣ノ境界安山站ノ郵驛ニ至ル。
- (十)前記セル八卦溝ヨリ支出スル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
八家子、三台子、高庄屯、後チ海城縣ノ境界ニ入ル。
- (十一)遼陽市ヨリ南ニ通スル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
三里庄、八里店、大窪、三塊石、桃園、潘廬、畔軍台、七傾子、廟兒台、老觀(前路)地圖

ニ見エズ)

第二十二、海城縣圈内ニ左ノ道路ヲ有ス。

- (一)岫巖州圈内ニ於テ記シタル海城縣ニ至ル道路(三)ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
姑嫂石、小哈、此處ヨリ東方遼陽州ニ支線(二)ヲ出シ、更ラニ柞木城、缸窰嶺、楊家甸、牌路屯、抄鉄河、英城子、鎮家台、張家園子、腰屯、終ニ海城市ニ至ル。
- (二)前述小哈ヨリ東方ニ支出スル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
老牛寨、接文寨、孫家坎、小嶺、而シテ遼陽州ニ於ケル東向ノ終點ハ地圖上不明ナリ。
- (三)遼陽州圈内ニ於テ記載セル海城縣ニ入ル道路(九)ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
刻家台、湯崗、新台子、湯兒河、甘泉舖、烟台、土河舖、二台子、終ニ海城市ニ至ル。
- (四)遼陽州圈内ニ於テ記載シタル海城縣ニ入ル道路(十)ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
鞍山河、閔家山、將軍屯、金家台、望石山、雙廟子、榆樹台、丁家橋、耿庄子、古城子、大路沿、紙房屯、白旗堡、此處ヨリ海城市ニ連絡スル道路(五)ヲ出シ後チ牛莊ニ至リ、更ラニ四方臺、藍旗堡、孔家屯、二道邊、會家屯、藍旗口、腰屯、滾子泡、連三屯、小高坎、大高坎、風凰甸、石橋子ニ至リ、此處ヨリ海城市ニ連絡スル第二線(六)ヲ出シ更ラニ花烟子、候油房、牛屯、東弓灣、東營、老爺閣、西營(營口)ニ至リ、此處ヨリ二道路ヲ支出ス、即チ一ハ東南

- 蓋平市ニ至ルモノ(蓋平縣圍區一)ニシテ、他ハ北々西、廣寧縣ニ入ル(二)ナリ。
- (五) 上肥白旗堡ヨリ海城市ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
牛二臺、千戈舖、牛三臺、四臺子、海三臺、海二臺、安村堡、終ニ海城市ニ至ル。
- (六) 上肥石橋子ヨリ海城市ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
楊家屯、朱家屯、下十臺、黃家庄、鴨子廠、大威王寨、上夾河、蓋家屯、塚廠、興隆屯、八里河、亮甲山、終ニ海城市ニ至ル。
- (七) 上記セル西營ヨリ北々西廣寧縣ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
下坎子、黑英溝、蝟蛭、田莊臺、剛飄子、高家屯、龐家屯、沙崗、大窪、小窪、此處ヨリ其終端雙臺邑ニ支線ヲ出シ、更ラニ田家屯ニ至リ、再ビ海岸ニ向ツテ支線ヲ出シ、更ラニ田家坑、八里舖、窟窿臺、終ニ雙臺ニ至リ、後チ廣寧縣ニ入り、同縣圍區内ニ於テ記載シタル第二線ト會合ス。
- (八) 上記小窪ヨリ雙臺ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
陳家屯、曲家房、二十舖、終ニ雙臺ニ至ル。
- (九) 上記田家屯ヨリ海岸ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス、
王家窩棚、青堆、終ニ海岸鹽灘、二龍江ニ至ル。

第二十三、蓋平縣圍區ニハ左ノ道路ヲ有ス。

- (一) 海城縣圍區内ニ於テ記載シタル第四線路ノ終端、遼河々口ノ營口ヨリ蓋平市ニ通ズル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
五里橋、大水塘、興隆屯、道溝、黃旗廠、姚家店、紅旗廠、後前新、三塊石、新開嶺、馬溝、終ニ蓋平市ニ至ル。
- (二) 蓋平ヨリ西方海岸ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
袁屯、海山寨、西海山寨、西河口
- (三) 蓋平市ヨリ東北海城縣ニ通ズル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
城後、青石關、青石堡、朱家店、薄洛堡、茶棚巷、橋頭堡、大石橋、岳州(海城縣ノ境界)
- (四) 蓋平市ヨリ東北ニ向ツテ該州内ヲ通過スル道ハ左ノ諸邑ヲ經。
鐵塔嶺、此處ニ於テ第五線ト會合シ、本道ハ更ラニ大八嶺、小八嶺、關家店、團店、高屯、曹屯、二道房、禿老店、招軍嶺、孟屯、編嶺、羊草溝、湯池、老爺廟、塔嶺嶺、葦子峪、望實街、下哈達ニ至リ、此處ヨリ四陣ノ道路(五)ヲ蓋平市ヨリ次ギノ村邑鐵塔嶺ニ出シ、更ラニ上哈達、周家庄、松坨、接官廳、秦家堡ニ至ル。
- (五) 前述下哈達ヨリ鐵塔嶺ニ通ズル道路ハ盛京省東南部中央ノ大野ヲ貫通シ左ノ諸邑ヲ通過ス。

土城、廉家崴、金家坑、岔溝、七盤嶺、白羊堡、富家堡、大房身、大寨、半拉廟、礦洞溝、編嶺、薛屯、靠山屯、東朝陽寺、萬福庄、十棚房、楊木林、白家屯、東荒地、土門子、孟屯、齊屯、四盤嶺、老爺廟、大陽關、羅家哨、滴流堡、白狗庄、終ニ鐵塔嶺ニ至ル。

(六) 蓋平市ヨリ西南復州ニ至ル道路ハ海岸ト相併行シ左ノ諸邑ヲ通過ス。

小米寨、六里庄、二台子、雨霖堡、鳴珂嶺、沙崗台、盧屯、馬圈子、金屯、正藍旗、李屯、果老橋、熊岳、頭道、編坡、西二台、三台、龍脖、後チ復州圈內ニ入ル。

(七) 蓋平市ヨリ南方復州圈區ニ入ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

沙溝、老爺廟、石道口、羊腸屯、小河子、靠山寨、双台、芝蔴嶺、鮑屯、二清觀、北七道河、七道河、此處ヨリ道ハ東南ニ屈折シ更ラニ八道河、二岔店、中岔(復州ノ境界)ニ至ル。

第二十四、復州圈區內ニハ左ノ道路ヲ有ス。

(一) 蓋平縣圈內ニ於テ述ベタル復州ニ入ル道路(四)ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
李官村、西洋台、孤家、岳家店、長嶺、孫家店、焦家店、左屯、嚴家店、池屯、楊家店、馬廠、廟兒山、終ニ復州市ニ至ル。

(二) 復州市ヨリ蓋平縣ニ向フ他ノ道路アリ即チ左ノ諸邑ヲ通過ス。

張屯、八里庄、大房身、管家店、蘇家店、金家店、馬連屯、劉家崴、張家屯、王家店、金斗

房、小龍口、大龍口、得利寺、此處ヨリ南方金州圈區ニ支線(三)ヲ出シ、更ラニ夾心子、牛拉山、松樹咀、獲子口、萬家嶺ニ至リ、此處ヨリ又南方金州圈區ニ向ツテ第二線(四)ヲ出シ、更ラニ溝口、孫家店、終ニ蓋平縣ノ境界老古峪ニ至リ、此處ニ於テ七道河ヨリ轉回シ來ル蓋平縣ノ第七線ト會合ス。

(三) 上陳得利寺ヨリ南金州圈區ニ至ル支線ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

花紅溝、燒窩、回頭河、曲家店、王家店、窪子、祝家店、瓦房店、崗子店、姜家店、拉子山、謝家店、荒地、吳家店、終ニ快長張ニ至ル。

(四) 上記セル萬家嶺ヨリ金州圈內ニ入ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

石灰窰、三道門、此處ヨリ東北東岫巖州ニ支線ヲ出シ更ラニ鮑家溝、沙家樓、四平街、買家店、朝陽坡、架子嶺、四架口、沙包、大堂、曲家店、水門嶺、茂盛店、鄒家店、淺家店、崗子店、終ニ金州圈區ノ境界附近ニ至ル。

(五) 三道門ヨリ東北東ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

耗子房、大刑屯、瓜帶溝、張屯、偏坡、安孝羅湯、分水嶺、夾溝、上八家、中八家、下八家、鍾家嶺、前房身、後房身、終ニ復州、岫巖州ノ境界ヲ組成スル碧龍河畔古樑口ニ至ル。

(六) 復州ヨリ西方ニ通スル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

- 道士屯、傅家廟、刻屯、達子營、溝口、小房申、老達窩、紅海棧(海岸)
- (七) 復州市ヨリ西南ニ通スル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
牌坊溝、二台溝、林家屯、双山、半官堡、鹽廠(海岸)
- (八) 復州市ヨリ西南海岸ニ通スル他道ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
望城崗、黃屯、潮頭、三台、長嶺、孫屯
- (九) 復州市ヨリ南方海岸ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
瓦房、夾河心、新店、富家店、趙家店、馬廠、牛屯、郭屯、賈家店、裴家屯、終ニ拉字。
- (十) 復州市ヨリ東南、金州廳圈內ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
達子營、信屯、前二十里舖、此處ヨリ別ニ該道路ノ終端ニ官廟ニ達スル迂曲的道路ヲ支出シ更ラニ前三十里舖、白石井、拉樹房、樂古城、千家溝、毅家溝終ニ海岸ニ在ル金州廳ノ境界ニ官廟(ポルトアダムス)ニ至ル。
- (十一) 上記前二十里舖ヨリ三官廟ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
馬圈子、光山、吳家店、二道房、三道房、黃家嶺、王屯、姜屯、終ニ三官廟ニ至ル。
- 第二十五、金州廳圈內ニ於ケル道路ハ左ノ如シ。
- (一) 復州圈內ニ於テ記セル金州廳內ニ入ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

- 驛城堡、李蘭堡、此處ニ於テ復州內ニ於ケル(十一)ヨリ成ル三官廟ヨリ來ル道路ヲ合セ、更ラニ李家店、寡婦橋、長店堡、五里店、石河驛、五十里堡、龍口、四十里堡、三十里堡、二十里堡、十二里台、八里庄ヲ經、終ニ金州市ニ至ル。
- (二) 金州市ヨリ東北東ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
羊圈子、南石門、下房申、川心店、關家店、刻家店、陳家店、上店、黃庄子、呂屯、李家店、亂泥坑、金家店、轉角房、沙家屯、寡婦橋、唐和尚廟、窪子店、高屯、廣文、王家屯、滕家屯、姜家屯、紅咀城、干屯、韓家屯、贊子河、馬屯、寧家屯、石家屯、樂家屯、三家店、金廠、柞樹排、終ニ碧流河畔金家哨ニ至リ此レヨリ岫巖州ニ於テ記セル第一線ト合ス。
- (三) 金州市ヨリ東南ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
九里庄、丁屯、馬家橋、二道河、干屯、鞠屯、海青馬、終ニ海岸大孤山ニ至ル。
- (四) 金州市ヨリ西北海岸龍王廟ニ通スル道路アリ。
- (五) 金州市ヨリ西南半島ノ西岸ヲ通スル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。
蘇家屯、毛營子、南崗嶺、此處ヨリ半島ノ東海岸ヲ沿フ支線ヲ出シ、更ラニ姚家屯、三十里舖、葛針堡、辛寨子、北海、牧城驛、營城子、郭家屯、金龍寺溝、双台溝、長嶺、三泗堡、水師營ニ至リ、此處ヨリ東南、沿海諸邑ニ通スル支線ヲ出シ、旅順口灣ニ在ル船岡ニ至リ、

更ラニ西溝、曲家屯、胡屯、潘屯、大潘屯ヲ經、終ニ海岸ノ大羊頭ニ至ル。

(六) 上記南關嶺ヨリ半島ノ東海岸ニ至ル道路ハ左ノ諸邑ヲ通過ス。

甜水眼、三道溝、臭水、山川柳、鵬廠、凌水河、石廟、北河口、孫家咀、終ニ海岸ニ在ル小平島ニ至ル。

第十章 滿洲ノ物産

第一節 農業概説

大興安嶺ノ西方ニ横ハレル北滿洲ノ一部ハ、大概鹽分ヲ含有スル土壤ヨリ成レル高原ニシテ、此地方ニ於ケル農耕業ハ、唯々有機物ヲ包有スル沖積層ノ河谷ニ限ラレ、區域甚タ廣濶ナラス、就中尤モ肥沃ナル地方ハ、豊饒ナル黒土ヲ有スル、「ウヌルゴール」河ノ廣大ナル谷地ニシテ、此地方ニ於ケル農業ハ、専ラ支那人ニ依テ從事セラレ、支那人ハ滿洲ガ其殖民ヲ禁止セラレタリシ時代ニ於テ、既ニ自由ニ此地方ニ移植シタリ、海拉爾ヨリ齊々哈爾濱ニ至ル郵路ニ沿ヘル地方ノ住民ハ、主トシテ諸種ノ業務ニ服シ、農耕ニ從事スルモノ稀レナリ、一千八百八十七年度ノ調査ニ依レハ、呼倫貝爾地方ニ於ケル農民ハ總計三千九百三十戸、三萬一千三百五十八人ナリ、蓋シ此高原ノ大部ハ尙ホ全ク荒涼ナル草原ニシテ、主トシテ牧畜業ニ從事セラルモノト云フ可ク、其最モ廣ク農耕業ニ從事セラル、地方ハ、大興安嶺ノ東部、嫩河谷地ニシテ、就中好ク開拓セラレタル地方ハ墨爾根、齊々哈爾濱市ノ附近ニアリトス、墨爾根ヨリ北方「シマド」村ニ至リシ旅行家ノ言ニ依レバ、此地方ハ實ニ地味肥沃ニシテ五穀豐饒ナリト云フ、墨爾根市ノ西部及ビ東部ニ於ル地ニモ農耕地アリ、庫爾邑ヨリ齊々哈爾濱市ニ至ル間ハ、農耕地漸次擴張シ

豊地邑ヨリハ一面耕地トナリ、石的邑ヨリハ全ク草原地ヲ見ズ、齊々哈爾濱市ヨリ東方瑚裕爾河ニ至ル地方ハ砂土ヨリ成リ肥沃ナラザル土壤ノ延亘スルヲ以テ、農業從テ發達セズ、黑龍江省ニ於ケル農耕業ハ、一千八百八十七年ニ於ケル省内旗人ノ農業ニ從事スル統計表ニ依リテ其一斑ヲ窺フコトヲ得ベシ、即チ左ノ如シ。

- 齊々哈爾ノ管轄區内 一萬八千四百十三戸
- 愛琿ノ管轄區内 十一萬五千四百九十九人
- 墨爾根ノ管轄區内 四千三百二十六戸
- 布特哈管轄區内 二萬九千〇二十九人
- 興安城管轄區内 一千九百五拾九戸
- 上肥地方ノ外、嫩河ノ水域ハ、其農業甚ダ微弱ニシテ、耕地ト稱ス可キモノ皆無ト云フ可シ、
- 布特哈管轄區内 九千三百五十四人
- 興安城管轄區内 四千八百八十八戸
- 興安城管轄區内 二萬四千四百八十八人
- 興安城管轄區内 一千三百十戸
- 興安城管轄區内 四千五百四十八

是レ氣候、土壤等斯業ニ好適セズ、而シテ人口ノ稀薄ナルト共ニ、嫩河ノ漲溢スルアルニ由ル、就中拉哈站驛ノ南ニ延亘スル百露里ノ地方ハ、殊ニ甚ダシキモノアリ、時トシテハ數年間引キ續キ、殆ンド五穀ノ收穫セラル、コトナク、住民ハ之レガ爲メニ他地方ニ移住スルモノアルニ至レリ、清國政府ノ公報ニ依リ、嫩河水域ニ屢々出來スル凶歉ハ、左ノ事實ニヨリ之レヲ窺フコトヲ得可シ、即チ政府ノ土地ヲ耕作スルモノニハ、六割ノ收穫ノ時ニハ、穀物二十二鎰ヲ徵納セシムルモ、三割ノ場合ニハ穀物ノ全部ヲ免除シ、其他各成人ニ對シ月々穀物二斗銀六十仙ヲ給シ、小兒ニハ其半額ヲ與フ、而シテ此ノ如キ政府ノ保護ハ、唯一千八百八十年、一千八百八十四年及ビ一千八百八十五年ニノミ適用セラレズシテ、一千八百七十六年ヨリ一千八百八十七年ニ至ル十二箇年間ニ亘リ、其扶助金ノ價額ハ八萬乃至九萬兩、最少額三萬乃至四萬兩ナリシト云フ。

耕耘ノ隆盛ナラザル嫩河ノ水域ヨリ、松花江ノ水域ニ遷移スル處、即チ瑚裕爾河ノ谷地ヨリ東ニ延亘スル百五十露里ノ地ハ全ク荒涼ナル平野ニシテ、農耕業ヲ見ザルノミナラズ、牧畜業モ亦々微々トシテ振ハズ、蓋シ此地方ノ土壤ハ農業ニ適合セザルニ非ザルモ、勞働者ノ不足ナルコト其不振ノ源ナリ、然レトモ移民ノ支那本土ヨリ移植シ來レルヲ以テ、甚ダ遲緩ナガラ都會村邑ノ附近ハ漸次拓殖セラル、ニ至レリ。

松花江ノ水域ハ全滿洲中最モ肥沃ナル地方ニシテ、唯タニ氣候ノ中和ナルノミナラズ、土層比較的高起セスシテ寒風ヲ防ギ、人民繁殖シテ土壤肥沃ナルヲ以テ、農耕著シク發達セリ、此等繁榮セル農耕地ノ北境ハ殆ント三姓市ニ至リ南ハ輝發江、寬城子、進ンテ奉天市ノ方向ニ達シ、東南ハ小白山脈ノ西方支脈ニ至レリ、就中阿楚喀、伯都納、呼蘭城、白彥蘇々ヲ包括スル、四角形ノ地方ハ播種ノ饒多ナル、秋穫ノ豐富ナル、滿洲ノ穀倉ト稱ス可シ。
農耕業ノ最モ振ハサル地方ハ吉林市ノ附近ナリ、松花江ノ下流三姓市ヨリ河口ニ至ル一帯ハ、江岸ニ住シテ漁業ニ従事スル「ブリド」人ガ、僅カニ菜園ヲ作りテ烟草或ハ種々ノ穀物ヲ栽培スルニ過ギズ。

一千八百八十七年ノ調査ニ係ル松花江水域農耕地ノ統計ヲ擧グレバ

地稅ヲ收ムル 農地ノ數	農夫ノ數		旗ノ數	
	支那人	蒙人	戶數	人口
呼蘭城	三三五、八五七	一〇、五〇九	四、〇一五	二八、二五〇
呼蘭城埠頭	二二四、〇二五	一〇、五五〇	九七二	六、四二五
綏芬	二〇七、五〇九	九、五七〇	四六八	三、七九三
北園林子	一六、一八五	三〇〇		

總計	七七三、五七六	三〇、九二九	五、四五五	三八、四六八
----	---------	--------	-------	--------

小白山嶺ヨリ東方南島蘇里境界ニ至ル樺古塔ヲ中央トスル地方ハ、到ル處、山嶽ニ富ミ樹木密叢シ、加フルニ土壤ハ砂石、或ハ砂石粘土ヨリ成ルヲ以テ、人衆稠密ノ割合ニ農耕業甚ダ微弱ナリ、小白山嶺ト其支脈タル太馬溝ノ間ニ存在スル地方ハ、常ニ旱魃多ク、牡丹江ノ水域ハ此災厄ニ陥ルコト稀レナルモ、洪水ノ患アリ、此地方ニ於ケル農耕地ハ主トシテ、市邑附近ノ住民ノ蟬集セル處ニシテ、河流ノ谷地、大道ノ延亘スル地方、村落ノ基布スル地方モ亦タ少許ノ耕地アルヲ認ム。

殆ンド盛京省ヲ包括スル南滿洲ハ其土壤ノ肥沃、松花江水域ニ及ハス、南滿洲ハ之レヲ三部ニ區別ス可シ、即チ、遼西地方、遼河ノ谷地、及ビ遼東半島是レナリ、遼西地方ハ農耕業ニ適セズ、唯ダ山海關ヨリ奉天市ニ通ズル郵路ニ沿ヘル地方ニ規模小ナル菜園的農耕ノ行ハル、アルノミ、此レ等肥沃ナラザル地方ハ、殆ント布家窩堡邑ニ達シ、此レヨリ以北ハ、農耕次第ニ盛大トナル。

遼河ノ谷地ハ、地方ニ依テ差違アルモ、一般ニ昔時ヨリ耕耘セラレタリ、此地方ハ稍ヤ河流ノ爲メニ運積セラレタル砂土オキニ非サルモ、其地質ハ支那的菜園業ニ好適ス、然レトモ年ヲ經ルニ從ヒ、遼河ノ漲溢頻々トシテ來ル爲メ、耕地ハ一朝ニシテ荒廢シ、農家ヲシテ甚ダシキ窮

境ニ陥ラシム、此地方ノ山地ハ砂土或ハ粘土ヨリ成リ、沃土、瘦土相錯交シ、海岸ノ鹽分ヲ含
有スル地方ハ荒蕪シ、只或ル一部ハ牧畜ノ用ヲナスアルノミ。
此ノ如キヲ以テ遼河ノ谷地ハ支那住民ノ繁殖ヲ盈タスニ足ラス、彼等ハ次第ニ山嶺ニ向ツテ膨
脹シ、其嶺谷ニ居ラ占ムルニ至レリ、然レトモ此等ノ狹隘ナル嶺谷ハ、不毛ノ山嶺ヲ以テ包圍
サル、カ故ニ、特種ノ勢力ヲ扶植スルコト能ハス、遼河ノ東部ニ位置スル肥沃ナル地方ハ、清
河ノ谷地ニアリテ、農耕業之レヲ占ム、此地方ハ松花江上流ノ水域、輝發江地方ニ於ケルガ如
ク一町ダモ空地ヲ見ズ、從テ此地方ニ新タニ移住シ來ル者ハ小作人或ハ借地人ヲ以テ満足セザ
ル可カラス、現今ハ清河及ヒ輝發江間ニ獨立スル峻嶮ナル山嶺地方モ全ク之レヲ耕耘スルニ至
レリ、遼東半島ハ其地質農耕ニ適セサルモ人民ノ饒多ナルト、其勞力ヲ惜マザル結果トニ依リ、
到ル處農耕業行ハル、鴨綠江上支流ノ谷地、朝鮮國ト境界スル地方ハ、農業未ダ大ニ進捗セザ
ルモ、朝鮮人ニ依テ經營セラレツ、アリ。
現今滿洲農民が施行シツ、アル農作ハ變換法ヲ用ヒ、以テ耕地ノ瘦衰ヲ豫防セリ、即チ同耕地
ヲ四乃至五區ニ分テ、毎年一定ノ順序ヲ以テ諸種ノ植物ヲ培植セリ。
今吉林省ニ於テ施行シツ、アル變換法ヲ舉グレバ左ノ如シ

歲	第一區	第二區	第三區	第四區
一 年	稷	稷	稷	稷
二 年	小 麥	煙 草	豆	小 麥
三 年	豆	豆	高 粱	大 麥
四 年	大 麥	玉 蜀 黍	煙 草	煙 草
五 年				高 粱
六 年				玉 蜀 黍

但シ初メテ開墾セラレタル地方ハ、最初ノ四箇年間ハ、何等ノ肥料ヲ施スコトナクシテ煙草
ヲ栽培シ、後チニ至リ肥料ヲ用フ、殊ニ市邑附近ニ於ケル農家ハ庭前ニ河底ヨリ收集セル坭
土ノ堆肥ヲ造リ、該堆肥ニ家畜ノ糞、人糞、厨房ノ排泄物、腐敗シタル木葉等ヲ混交ス。
滿洲ニ於テハ支那本土ニ於ケル耕地ト同ジク勞力ヲ惜マス、極メテ丁寧懇切ニ耕耘シ、畦ヲ作
リ以テ日光ノ照射ヲ多カラシメ、土壤濕氣ノ調和及ヒ雜草ノ摘去ニ便ナラシム、始メテ荒地ヲ開
墾スルニハ先ヅ灌木野草ヲ燒燼スルヲ常トセリ、斯ハ毎年、北滿洲ノ二省及ビ盛京省東部ノ山
地ニ行ハル、モノニシテ、早春ヨリ其燒跡ニ畦ヲ作ル爲メニ、畧一呎ノ深サヲ有スル併行ノ溝

ヲ造ル。

平地ニ於ケル溝ノ方向ハ、其地方ニ於テ起ル可キ風ノ方向ニ從フ、是レ其種子ノ散亂ヲ防グ爲メナリ、而シテ山地ニ於テハ其傾斜ニ從フヲ常トス、是レ驟雨時ニ際シ、其兩畦ノ間ハ雨水ヲ疏通スル溝渠ヲシメンガ爲メナリ。

滿洲ニ於ケル播種ハ地方ニヨリテ一様ナラズ、其最北地方ハ最モ遅クシテ五月中旬ナルモ、南方ハ四月中旬ナリ、播種ハ亂時ニ非ズシテ規則正シク畦上ニ之レヲ布種ス、道路ニ沿ヘル耕地ニハ道路ニ沿フテ畦溝ヲ作り常ニ之レニ麻ヲ植エ、由テ以テ田畠ノ墾墾トナセリ、農夫ハ播種後ハ其萌芽スルニ至ル迄勞務ヲ休止シ、其萌芽スルニ至ルヤ始メテ鋤ヲ以テ大凡深サ半呎許リ畝ヲ耕シテ土ヲ畦ニ盛り、植物ノ成長スルニ從ヒ二三回之レヲ繰返ヘス、是レ其植物ノ根幹ヲ固ムルト共ニ、又大氣中ノ水氣ヲ吸收スルニ易カラシムルナリ、又之レト共ニ植物ノ雜草ヲ除去スルコトニ最モ務ム、而シテ早魃ニ際セハ農夫ハ殆ント晝夜耕地ニアリテ鋤モテ地ヲ軟弱セシムト云フ。

滿洲ニ於ケル收穫ハ常ニ甚ダ遅ク、大概十月下旬ナリ、若シ嚴寒ノ襲來スルコト無カリセハ、十一月ニ入ルコトアリ、唯粟ノ成熟ハ七月初旬ニ於テスルコトアリ。

第二節 稷

滿洲到處培植セラル、穀物ニシテ、播種區域ハ第一位ヲ占メ、食料トシテ甚ダ廣ク用ヒラル、其穀幹ノ高低及ビ色ト穀粒ノ大小ニ依テ種類ヲ異ニセリ、幹莖ノ低キモノハ上種ニシテ、色ノ白キ穀粒ヲ有スル小米子、黄色ノ穀粒ヲ有スル穀子、及ビ稗子ノ三種アリ、就中前二者ハ滿洲貧民唯一ノ食料品ナリ。

上種ノ幹莖ハ之ヲ以テ家畜ノ飼料トナスコトヲ得可シ、殊ニ其最モ柔軟ニシテ、廣ク飼料ニ供セラル、ハ稗子ナリトス。

下等ニ屬スル第四者ハ高粱ト稱シ、其穀粒赤黒白ノ諸種アリ、高粱ハ唯ダ南部滿洲ニ於ケル貧民ノミニ使用セラレ、主トシテ家畜ノ飼料燒酎ノ原料トナセリ、高粱ノ幹莖ハ高サ農夫ヲ沒シ、燃料トナシ又支那家屋ノ天井其他種々ノ器物ヲ製シ、根ハ之レヲ以テ蓆ヲ編ム。

第二節 豆類

稷類ノ次位ヲ占ムルハ豌豆及大豆ニシテ、大豆ハ支那本土地方ニ於ケル範圍甚ダ廣キ需要ヲ充タセル油ヲ製ス、上種類ノ豌豆ハ小豆ト稱スル小粒ノモノニシテ、綠豆ト稱スル綠色ノ小豌豆ト

其ニ、主トシテ支那素麵ヲ製造ス、又綠豆ヨリ何等ノ混淆物ヲ加ヘスシテ乾麵ヲ製ス、蓋シ之レヲ水ニ入レテ夏季冷キ飲料トナセリ、適當ノ飲料水ヲ得ルコト能ハザル旅行ニ際シテハ最モ有益ナリ、豌豆ノ産地ハ奉天附近及ビ盛京東部ノ山地トス。

滿洲ニ於テハ豆ノ種類黒赤等其他種々アリ、就中最モ普通ナルモノハ黄白ニシテ、主トシテ吉林省ノ西部ニ産ス、白豆ハ大豆ノ如キ効用ヲ有シ、黑豆ハ馬匹ノ飼料ニ供セラル、モノ甚ダ多シ。

第四節 粟及ビ阿片

滿洲ノ農植物中第三位ヲ占ムルハ粟粟ナリ滿洲ニ粟粟ヲ移植シタルハ比較的久シカラサル以前ニ屬ス、一千八百六十年ノ交ヨリ數年間ハ其名全ク此地方ニ知ラレサリシト雖トモ、然レトモ次第ニ此地方ニ播植シテ、現今ハ其栽培頗ル盛大ヲ致シ、大ニ印度産ヲ凌ギ、英國ノ産ヲ驅逐スルニ至レリ、粟粟ノ栽培ハ滿洲中到處繁行スト雖トモ、殊ニ吉林ヨリ白彦蘇々ニ至ル間、松江ノ中流ヲ最モ盛シナリトス、此地幾千町歩ノ耕地、滿而諸種ノ粟粟花ヲ以テ蔽ハル、ノ奇觀ヲ呈セリ、其他奉天市ノ附近及ビ該市ヨリ鐵嶺ニ至ル一帶、奉天塔副都統府管轄區内ニハ粟粟ノ播植、歲ト共ニ増殖セラル、ニ至レリ、滿洲ニ於ケル粟粟ノ栽培次第ニ増加スルハ、其原因甚

ダ多々アルモノ、如シ、即チ阿片ノ喫烟次第ニ擴張セラル、コト、効力ニ於テ稍外國産ニ劣ルト雖モ、價格ニ於テ遙カニ之ト競争シ之レヲ驅逐スルヲ得ルコト、直隸省地方ニ向ケテノ輸出次第ニ増加シ、栽培ノ村里ハ大ニ貨殖ノ途ヲ講ジ得ルコト、輕クシテ運輸ニ便利ニ、且粟粟ノ早熟スルコト、粟粟ノ栽培ハ斯クテ滿洲ニ於テ最モ有益ナルコト、粟粟ハ每町ノ純收入二百留ニ達スルコト、其他粟粟ノ收穫後其耕地ニハ秋冷ノ候迄ニ成熟シ得ル蔬菜等ヲ播種スルノ利アルコト是レナリ、滿洲ノ西南部ハ屢々霜害ノ厄ニ逢フ所アルモ、粟粟ハ實ニ降雨期ノ以前ニ成熟ス。

現時粟粟ノ栽培阿片ノ製造ハ、又阿片ノ喫烟ト共ニ滿洲到處、南ハ直隸省ノ境界ヨリ、北ハ黑龍江ニ至リ、西ハ蒙古ヨリ東ハ日本海岸朝鮮境上ニ至リ、踰エテ露領烏蘇里地方ニ至レリ、其露政府ガ嚴重ニ之レヲ監視スルニ係ハラス、「オリギンスキー」管區内ニハ阿片ヲ製造シ、之レヲ「ジャンク」ニ搭載シテ北清地方ニ輸出スルモノアリ、又朝鮮境界地方ニ於テ自治團體ヲ組織シツ、アル遊獵者間ニモ、自家用トシテ阿片ヲ製造セリ、現今蒙古地方ニ流入シテ、半開ノ土族間ニハ、常ニ口、阿片管ヲ放タザルモノアルヲ見ルニ至レリ。

滿洲ニ於テハ阿片ハ金錢ノ代用ヲナシツ、アリ、南方ヨリ北方ニ至ル勞働者ハ、勞働賃トシテ阿片ヲ受クルヲ常トス、蓋シ阿片ハ馬蹄銀、銅貨等ニ比シ、其重量甚ダ輕少ナルヲ以テ、多クノ現金ヲ持テ、溥惡ナル滿洲ノ道路ニヨリ故郷ニ歸來スルヨリハ、唯普通ノ肩ヨリ釣リ下グル

佩囊ニ依リ、多額ノ代價ヲ運搬シ得ルノミナラス、阿片ノ價額ハ南方ニ至ルニ從ヒ漸次騰貴シ、加之金錢ノ價ハ滿洲ノ南方ハ北方ニ比シ低廉ナルヲ以テナリ、此ノ如キヲ以テ滿洲地方ニ出沒スル盜賊ノ團體ノ如キハ、富人ヲ掠カスニハ必ス重クシテ煩ハシキ馬蹄銀等ヨリハ、寧ロ到ル處直チニ之レヲ金銀ニ交換スルヲ得ル阿片ヲ強取スルヲ常トスト云フ、滿洲ニ於ケル阿片產地ノ中心點ハ、察哈爾站(阿楚喀ノ北方)村附近一帶及ビ呼蘭城全管區ナリトス、現今ニ於ケル此地方阿片産額ハ其詳細ナルヲ知ルコト能ハスト雖トモ、一千八百九十四年ニ於テ、白彥蘇々ノ稅關ヲ通ジテ南方ニ輸出シタル阿片ノ其價額ノ一割ノ税金ハ二萬留ナリシト云フ、然レトモ是レ此地方ニ於テ使用スルモノヲ計算シテ、大凡白彥蘇々地方ニ於テノミ産出スル阿片ハ、毎年四十萬留ト見テ大差ナカル可シ。

昔テ一千八百七十四年「ウエニス」氏ハ論シテ曰ク、唯遼東ニ於ル毎年ノ阿片産額及ビ需要ハ四、千、布ニ達ス云々、又他説ニ呼蘭城、黑龍江城兩市ニ於ケル一千八百八十七年ノ阿片稅ハ總計二萬五千五百十三兩ナリシト、而シテ營口港ニ於ケル爾來二十年間ニ於ケル輸入統計表ニ依テ之レヲ見ルニ、滿洲ニ於ケル舶來阿片ノ輸入ハ、其喫用者次第ニ増加セルニ係ハラヌ、著シク減少シツ、アリト云フ。

一千八百八十六年滿洲ヲ探險シタリシ「セームス」氏ハ嘆シテ曰ク、今ヤ滿洲ニ於ケル喫飲ノ風

滔々トシテ全土ヲ歴シ皆其惡烟ニ醉フノ害毒ヲ知ラス、阿片ヲ以テ恰モ酒ノ如キ功德ヲ有スル天然物ノ如ク思惟スルニ至レリ、蓋シ此ノ如キ威ヲ有スル者ハ實ニ清國ニ此ノ如キ有害ナルモノヲ輸出スルヲ懲シタル賤奴、英國人ヲ頌歌スルニ何ゾ擇ハンヤト、近時佛國ノ宣教師ノ誘勸ニ依リ、滿洲ノ上流社會兵士ノ間ニハ、稍々其害毒ニ染ムモノ薄ラキタリト雖ドモ、然レドモ此惡毒ハ滿洲ニ於ケル下流社會及ビ婦人ノ間ニ急劇ニ傳染スルニ至レリ。

清國政府ハ國民ノ阿片喫飲ノ害毒ナルヲ察シ、屢々訓令シテ之レガ喫烟、罌粟ノ栽培ヲ禁止シ、或ハ嚴重ニ之レヲ取り締リタルコトアリキ、一千八百七十五年ノ如キハ、或ル官吏ハ罌粟島ノ全部ヲ滅シ、一千八百八十三年ニハ北京ノ官報ニ於テ高級官吏ノ阿片ヲ喫スルヲ禁シ、之レガ害毒ニ染ムルモノアルガ如キニ至ラバ、之レヲ嚴罰ニ處スルノ詔勅ヲ載セタルコトアリキ、其他宮殿ニ於テ阿片ノ喫烟室ヲ開キタル宦官ヲ刑罰ニ處シタルコトアリキ。

現時ニ至ル迄阿片ノ製産ニ關聯スル有ラユル勞作ハ、滿洲ニ於テハ法律ニ抵觸スルコトナシ、然レドモ斯ハ唯地方官ノ囊中ヲ肥ス手段ニ依リ、其製産ハ公然ノ秘密的ニ默許セラル、ナリ、即チ各地方官ハ、罌粟栽培人或ハ之レヲ卸賣スル商店、或ハ阿片小賣人等各方面ヨリ騙取の税金ヲ徵集スルナリ、而シテ是レ等徵集額ハ地方ニ依リ甚ダシキ差異アリ、呼蘭城管轄區内ニ於テハ其購求者ニ對シ、其價額ノ五分ヲ仕拂ハシムト雖ドモ、寬城子地方ニ於テハ一割ヲ收メシム。

地方農家ハ罌粟ノ栽培ハ國法ニ違フヲ知ル、然レドモ地方官ハ此ノ如ク不正ノ課税ニ依リ之レヲ默許スルノミナラス、他ノ穀物蔬菜ノ耕作ニ比シ遙カニ收入多キヲ以テ、其業次第ニ擴張セラル、ニ至レリ。

滿洲ニ於ケル阿片ノ採收ハ極メテ幼稚ニシテ、左ノ方法ニ依ル、即チ罌粟ノ實頭ガ綠色ノ種子ヲ以テ充塞シ、其幹莖ノ成長其極度ニ達スレバ、支那人ハ特種ノ披針(外科用小刀)及ビ大ナラザル器具ヲ備ヘ、先ツ罌粟ノ頭ヲ水平ニ淺ク横截シ、直チニ指頭ヲ以テ湧出スル乳狀ノ液汁ヲ拭キ取り、之レヲ其器具ニ爬キ入ル、此ノ如クシテ全莖ヲ通ジテ此ノ如キ白キ液體ヲ採取スルナリ、之レ即チ乾燥シテ阿片トナルモノナリ、翌日其截面乾燥スルニ至ラバ、又再ビ之レヲ横截スルコト舊ノ如ク、此ノ如クシテ實殼ノ乾燥スルニ至ル迄、毎日之レヲ繼續スルナリ、此ノ如クシテ採收シタル綠色ノ液體ハ、之レヲ濾シテ空氣ニ放晒セバ、次第ニ濃厚トナリ最モ下等ノ阿片トナル。

一般ノ意見ニ依ルニ、滿洲産ノ阿片ハ、近時外人ニ依リテ滿洲ニ輸入セラル、舶來品ニ比シ良好ナルモノ、如シ、營口ニ於ケル前稅關長「エダガル」氏ノ説ニ依ルニ、一千八百八十六年ニ於ケル印度産ノ阿片ノ該港ニ於ケル相場ハ五十「オンス」十五兩ニシテ、該斤量ヨリ四十五「オンス」ノ整頓シタル阿片ヲ稜ルコトヲ得、當時地方産ノ阿片同斤量ニ付十五兩半ニシテ、之レヨ

リ唯三十「オンス」ノ出來上リタル阿片ヲ稜ルニ過ギズ、此ノ如ク後者ノ價額比較的高貴ナルニ係ハラズ、地方人民ノ之レヲ賞味スル所以ハ、其殘灰ハ十度ビ煙管ニ載セテ之レヲ用ヒルコトヲ得可シト雖トモ、外國産ハ僅カニ三度ヲ過グル能ハザルニ由ル、是レ後者ノ混淆物ヲ有スル所以ナリ。

地方阿片ノ價額ハ其收穫時期、輸入ノ外國産ノ價額如何ニ依リ著シキ變動アリ、然レトモ平時ハ一般ニ「オンス」ニ付キ三百五十吊乃至五百吊ノ間ヲ昇降ス、秋時ハ二百乃至二百五十吊ニ下落スルコトアリ。

滿洲ノ阿片ハ近時北清地方ニ漫延シ、主トシテ呼蘭城地方ヨリ輸出セラル。

毎年秋期ニ至レバ此地方ニ商賈ノ群集スルコト夥シト云フ。

第五節 重ナル穀類

穀物中路領及ビ滿洲ニ栽植セラル、モノハ小麥、大麥、燕麥、蕎麥、玉蜀黍ナリ、然レトモ是レ等ハ前者ニ比シ甚ダ寥々タリ。

小麥

主トシテ吉林黑龍江ノ二省、殊ニ穆古塔地方ニ多シ、滿洲ノ南部並ニ直隸省地方ニ輸出セラル。

大麥

其耕作甚大ナラズ、多クハ支那酒ヲ作ル酒母ヲ作ルニ用ヒラル。

燕麥

滿洲地方ニ培植セラル、ト雖ドモ、然レトモ土人ハ之レヲ以テ牛馬ノ飼料ニ資セズ、之レヲ他地方ニ輸出ス。

蕎麥

柳條邊ノ北部ニ於テハ、到ル處之レヲ培植ス、然レドモ農家ハ各自ノ需要ニ應ジテ、之レヲ播種スルニ過ギズ、市場ニ出ヅルモノ甚ダ稀ナリ。

玉蜀黍

到ル處ニ之レヲ見ル、其他滿洲ニ産スル穀物中尙ホ米ヲ栽培ス。

高地ニ栽植セラル、米ハ、其形狀中央亞細亞地方ニ産スル有名ナル陸稻(Oryza montana)ノ如シ、滿洲米ハ支那ニ於ケル最良ノ種類ニ屬ス、其産地ノ北境ハ伯都納市地方ニアリ、又遼河々畔ノ砂土ヨリ成ル、平地ニハ普通ノ稻ヲ植エ、米ハ又支那本土ヘノ輸出品ノ一ニ屬ス。

蘇子 其穀粒ヨリ日用食料ニ供スル油ヲ製搾スル爲メニ栽培ス。

大麻

支那音「ツンマ」「シヤンコ」ノ二種アリ「ツンマ」(Cochuing)ハ其種子ヨリ油ヲ搾リ、後者ハ細引キ大綱ヲ造ル、性甚強韌好ク水氣ニ堪フルヲ以テ漁網ヲ作ルニ適ス、北滿洲ノ二省ニ産ス。

第六節 煙草、藍、綿、蔬菜

煙草

滿洲到ル處ニ産ス、就中松花江ノ中流最モ多シ、最良ナル栽培地ハ阿楚喀市附近ニアリ、滿洲煙草ハ其質良好ニシテ、支那本土ニ於テモ其價亦高貴ナリ、滿洲ニ於ケル喫煙ハ實ニ歐羅巴地方ニ夢想ダモスルコト能ハザルモノアリ、此地方ニ於ケル住民ハ、九歳ニ至レバ喫煙ニ習ヒ成人ニ至リテハ男女ノ別ナク口烟管ヲ捨ツルノ時ナシ、良好ナル煙草ハ、肥料ヲ要セザル新墾地ニ栽培シ、肥料ヲ施ス耕地ニ産スルモノハ既ニ下等ニ屬ス、此地方ニ於テハ烟草ヲ刈リ聚ムルノ後チ、其畠地ニ穿チタル穴ニ堆積シ、苦蘆ヲ以テ之レヲ蔽フ而シテ葉ノ充分ニ凋ミ、煉瓦石色ニ變彩スルヤ、之レヲ束チ、低キ杙ニテ牽張ラレタル繩ニ吊リ下ゲ、夜ハ蓆ヲ以テ露ヲ防ギ、斯クシテ全ク乾燥スルニ至レバ、之レヲ低價ニ賣却ス、即チ半布一千文ニテ購フコトヲ得可シ。

黒龍江、吉林兩省、殊ニ松花江ノ中流ニ産シ南方ニ輸出スルコト巨額ニ上ボレリ。
 「ウイリヤムソンガ」氏、嘗テ滿洲ニアリシトキ、奉天府ノ北部ニ於テ藍ヲ滿載シタル支那貨車
 ノ三十乃至四十ノ群ヲナシ通過スルニ會ヒタルコト六週間ニ及ベルヲ見テモ、其産出ノ如何ニ
 多大ナルカヲ窺ヒ知ルコトヲ得可シ。

多クハ遼東灣ノ沿岸蓋平縣、海城縣、營口、金州廳地方ニ産シ、又其最北部ハ開原市ノ附近ニ
 アリ、綿ハ四月下旬ニ播種シ、十月ニ至リテ之レヲ收ム、種子ハ薄肥ニテ、水ニ浸シテ之レヲ
 蒔キ付ケ、「エーカー」ヨリ二百「ケツタ」ノ綿ヲ産ス、色澤ノ良好ナルハ「ケツタ」二百吊ヲ
 價ス、種子ハ油ヲ搾リ、根莖枝ハ之レヲ燃料ニ供ス。

此他滿洲ニハ人參、筵麻子油ヲ製スル植物大黃草等ノ藥草ヲ産ス。
 又滿洲ニハ農業ノ大ナル輔佐トシテ、菜園業到ル處ニ從事セラル、各農家ノ所有スル菜園ニハ、
 又露國農家ニ於ケルガ如キ蔬菜ヲ栽培スト雖トモ、唯其異様ナルハ殊ニ葱、胡、胡椒ヲ多ク培
 植スルコト是レナリ、蓋シ支那人ノ嗜好ニ依ルニアラズンバアラズ。
 吉林市附近ニハ葱、胡等ヲ多ク栽培ス。

滿洲ノ菜園内ニハ大根、蕪、甜菜、胡瓜、豆、諸種ノ「チシヤ」、蠶豆、豌豆其他ヲ目撃シ、滿

洲ノ南方ニハ南瓜、甘瓜等モアリ。
 馬鈴薯

到ル處栽培ス、然レトモ其最モ盛ナルハ滿洲ノ北部及ビ松花江ノ西部地方ナリ、其最モ好良ナ
 ルモノヲ産スルハ十三山邑附近ニシテ、營口地方ノ歐羅巴人ハ皆此地ヨリ購求ス。
 滿洲ノ蔬菜類ハ甚タ多ク、人民ノ供給ヲ充タスニ餘リアリ、其價モ亦極メテ低廉ナリ。

第七節 諸農作物收穫表

穀物ノ收穫高ハ土壤ノ性質、緯度、土地ノ高低ニ關スト雖トモ、主ニ氣候ノ如何ニ係カルモノ多
 シ、是等ニ對シ精確ナル表ヲ掲クルコト困難ナリ、然レドモ左記「バラバス」氏ニ依テ調査セラレ
 タル統計表ハ、滿洲ニ於ケル諸地方穀物ノ收穫ノ平均ヲ窺知スルニ近カラン乎。

第一、蒙古搭地方

(搭拉站)

播種	種	收	種	收穫ノ割合
穀子	十斤	四擔半	或ハ千七百七十斤	百十七

第二、「デヤングワツアイ」嶺(小白山脈) 老爺嶺山脈間ニ於ケル地方

播種	收穫	收穫ノ割合
小米子 二十斤	三擔半 或ハ	九百十斤
高粱 二十斤	五擔半 或ハ	一千四百八十五斤
蘇子 八斤	四擔半 或ハ	六百七十五斤
豆 百二十斤	五擔 或ハ	一千五百斤
小麦 百二十斤	四擔半 或ハ	一千三百五十斤
大麥 百二十斤	五擔 或ハ	一千斤
燕麥 百五十斤	七擔 或ハ	一千五百四十斤
		十、四分一

第二、「デヤングワツアイ」嶺(小白山脈) 老爺嶺山脈間ニ於ケル地方 (窩集站)

播種	收穫	收穫ノ割合
穀子 十斤	四擔 或ハ	一千〇四十斤
小米子 二十斤	三擔半 或ハ	九百十斤
高粱 二十五斤	四擔半 或ハ	一千二百五十斤

第三、吉林市、老爺嶺山脈間ニ於ケル地方 (双岔堡)

蘇子 十斤	五擔 或ハ	六百七十五斤	六十七 二分一
稗子 二十五斤	六擔 或ハ	五百二十五斤	二十一
豆 百二十斤	四擔四分一 或ハ	一千三百五十斤	十一、四分一
小麦 百三十斤	三擔二分一 或ハ	千〇五十斤	八

第三、吉林市、老爺嶺山脈間ニ於ケル地方 (双岔堡)

江 密 峰

播種	收穫	收穫ノ割合	
穀子 十斤	五擔 或ハ	一千三百斤	百 三十
高粱 二十五斤	四擔半 或ハ	一千二百五十斤	四十八、四分三
蘇子 十斤	五擔 或ハ	七百五十斤	七 十五
豆 百二十斤	四擔半 或ハ	一千三百五十斤	十一、三分一
穀 十斤	四擔 或ハ	一千〇四十斤	百 〇 四

小米子	二十斤	三擔半 或ハ	九百十斤	四十五半
高粱	二十五斤	五擔半 或ハ	一千四百六十五斤	五十九、四分三
蘇子	十斤	四擔半 或ハ	六百七十五斤	六十七、二分一
豆	百二十斤	四擔半 或ハ	一千三百五十斤	十一、四分一
大麥	百二十五斤	四擔 或ハ	八百八十斤	七、

第四、額木索市、哈爾巴嶺山脉間ニ於ケル地方

(楊家店)

穀子	十二斤	十擔 或ハ	二千六百斤	二百十六、四分一
高粱	百五十斤	十擔 或ハ	二千七百斤	十八、
豆	七十二斤	九擔 或ハ	二千七百斤	三十七、二分一
小麥	百二十斤	九擔 或ハ	二千七百斤	二十二、二分一
大麥	百三十斤	十四擔 或ハ	三千〇八十斤	二十三、二分一

第五、哈爾巴嶺山脉琿春地方露領間ニ於ケル地方

(寬道口)

播種	種	收	穫	收穫ノ割合
穀子	十斤	九擔半 或ハ	二千四百七十斤	二百四十七
高粱	百五十斤	八擔半 或ハ	二千二百九十五斤	十五、四分一
蘇子	十斤	七擔半 或ハ	千二百二十五斤	百十、二分一
豆	七十斤	八擔半 或ハ	二千五百五十斤	三十六、二分一
小麥	百二十斤	七擔 或ハ	二千百斤	十七、二分一
大麥	百二十五斤	十一擔 或ハ	二千四百三十斤	十一、二分一

(艾河)

穀子	十斤	十二擔 或ハ	三千百二十斤	三百十二
高粱	百五十斤	十二擔 或ハ	三千二百四十斤	二十一、四分三
蘇子	十斤	十擔 或ハ	一千五百斤	百五、十
稗子	十五斤	十二擔 或ハ	一千八百斤	百二十

豆	百二十斤	十擔 或ハ 三千斤	二十 五
小麥	百二十斤	十一擔半或ハ三千四百五十斤	二十八、四分一

鐵嶺市附近ニ於ケル米ハ二十八斤ヨリ平均三百斤ヲ收穫ス、粟粟ハ其播種最モ有益ニシテ稔熟豆ノ五倍ノ收穫アリ。

第八節 穀倉

支那農耕業ニ關シ最モ留意ス可キモノ、一ハ穀倉ナリ、滿洲ニ於ケル穀倉ハ、愛親覺羅ガ支那本土ニ君臨セシ時ニ設定セラレタリ、支那本土ニ於ケル穀倉ハ、支那ノ歴史ニ依テ之レヲ稽フルニ既ニ耶蘇紀元以前ニアリ、滿洲ニ於ケル穀倉ノ設立ハ尙ホ支那本土ニ於ケルガ如キ趣意ニヨリテ創設セラレタリ、穀倉ハ官有、共有或ハ村里ニ區別セラル、官有ハ第一、凶歲ニ際シ首都ニ於ケル貧民ヲ救恤スル首府ノ穀倉、第二其目的ヲ以テ各州郡地方ニ設立セラル、モノニ區別セリ、村里穀倉ハ毎村落ニ設置セラル。

穀倉ノ監視者ハ村長ノ監督ノ下ニ村民ヨリ選舉ス、官有ノ穀倉ニ納ム可キ穀物ノ數量ハ、地方知事ノ意見ニ依リ、共有穀倉ニ於ケル納收額ハ、各村邑ニ於ケル收穫高ノ如何ニ依リ之レヲ定ム、普通收穫歲ニ於ケル納收額ハ各畝ノ收穫高ヨリ播種ニ使用スルモノ等ヲ計算シテ一割ヲ超

エズ。

共有穀倉ニ穀物ヲ納收スルハ全村民盡ク其義務ヲ有スルモノニシテ、若シ特種ノ原因ナクシテ一定ノ穀物ヲ納收セザルモノハ、該穀物倉ノ扶助ヲ享クルノ權利ヲ失ス、官有穀倉ハ毎年其豫備セル穀物ヲ賣却シテ、新ラシキ穀物ト交換シ、而シテ時トシテハ縣知事ノ認メテ凶歉ト思惟セバ、之レヲ市場ノ價額ニ比シ低廉ニ拂ヒ下グ、若シ豐年ニシテ市場ノ價額著シク低減スルトキハ、穀倉ヲ充盈スルノ必要ナル穀物ヲ購求ス、蓋シ此ノ如キ手段ハ、屢々支那官吏ノ注意ノ如何ニ依リ、甚ダシキ政府ノ穀物金錢ニ損失ヲ招クコトアリ、嘗テ或ル地方ノ凶歉ニ際シ、官有ノ穀物無ク、唯ダニ其價額ヲ調和スルコト能ハザリシノミナラズ、飢民ヲ救助シ能ハザル場合ニ逢迎シタルコトアリキ、清國ニ於ケル官有穀倉ノ整理ハ、全ク地方官ノ意向ニ關係スルモノニシテ、殊ニ滿洲ノ如キ離隔スル地方ニ於テハ其手腕畫策ニ待タザル可カラズ。

村里共有穀物ノ整備ハ、尙ホ鞏固ニシテ其規定等ハ全ク自由ニ多數村民ノ公平ナル贊同ニ依テ成立シ、専ラ村長ノ管轄ニ屬ス、穀物ノ需要者ニ對スル配布ハ、村長ノ意向、村民一般ノ協贊ニ依ル、各農夫ハ毎年收穫シタル新穀ヲ穀倉ニ收メ、之レト同量ノ穀物ト交換ス。

第九節 地租

昔時滿洲ニハ地租ナルモノナク、唯毎年一定ノ穀物(二十二莖)ヲ貢賦スルニ過ギザリキ、支那人移植ノ公開セラレテヨリ始メテ地租ヲ課スルニ至リシナリ、然レトモ現時寺院ノ所有ニ屬スル地ハ免除セラレ、又舊キ都邑ニ屬スル地方ハ種々ノ名義ノ下ニ之レヲ免カル。

何人ト雖トモ規定セル地稅ヲ收メテ無所屬ノ土地ヲ占有スルコトヲ得、地方官ハ又其認可ヲ得ルトキハ其占右ヲ默許スルノ義務ヲ有ス。

地方官ハ其地所ヲ測量シテ之レヲ帳簿ニ登錄シ、移住者ニ官符ヲ交付スルナリ、滿洲ノ北部ニ於テハ、登簿料トシテ一家族一千元ヲ徵收スト雖モ、松花江ノ水域ハ「マテノニユレ」氏ノ説ニ依レバ、六百文ヲ收メシム、此ノ如クシテ一定ノ土地ヲ領有スルニ至レバ、後チ二年ヨリ五年ニ至ル間ハ、地質ノ如何、家屋ノ設立、荒地ノ開拓ニ關スル各種ノ支出ヲ辨ズル爲メ、毎頃六十文ヲ收メシム、而シテ此期限ヲ經過スレバ、一頃ニ付六百六十吊ヲ徵集ス、「デシヤーチナ」〔我が一町許〕六十乃至八十哥〕「ゼームス」氏ノ説ニ依レバ、其一頃ハ其地質ノ如何ニヨリテ、其面積ヲ異ニセリ、即チ最良ナル土地ノ一頃ハ、劣等ニ比シ三分ノ二ニ縮少シ、中等ハ劣等ノ二分ニ縮少スト云フ。

地租ハ之レヲ地方ノ州郡長ニ收メ、州郡長ハ之レヲ道臺ニ交付シ、道臺ハ其受領セシ計算書ヲ將軍ニ致ス、地稅ハ毎年八月、即收穫後ニ於テ一時ニ收メシム、然レトモ若シ遲滯スルトキハ、罰金ヲ課スルノ規則ヲ以テ、十月迄延期スルヲ得ルノ權利ヲ有ス、天災ニ依リ其收穫地主ノ食料ガモ充タスコト能ハザルトキハ、本人ノ願ニヨリ其地稅ヲ免除ス、若シ六年間地稅ヲ收メザルトキハ、其土地ハ再ビ官有ニ歸スト云フ、又土地ガ個人ノ所有ニ歸シテヨリ、三箇年ヲ經ルモ尙ホ其耕作ニ從事セザルトキハ、又之レニ準ズ、是等ノ規定ハ實ニ廣大ナル土地ヲ一私人ノ有ニ歸スルヲ妨碍スル所以ナラスンバ非ラザルナリ。

第十節 養蠶業

滿洲ノ斯業ハ南部盛京省遼河ノ兩側、遼東半島、東朝鮮ニ接スル地方、即チ東西百二十露里、南北二百二十五露里ノ間ニ於テ從事セラル、就中最モ斯業ノ盛シニ行ハル、地方ハ、遼東ノ西岸ニシテ、南ハ復州、蓋州、北ハ岫巖、海城ノ各都邑ニシテ、絹布ノ製産貿易ノ中心點ナリ、養蠶業ハ又遼西ノ大部分ニ行ハル、然レトモ産額著大ナラス、其大部ハ斯業ニ從事スル住民ノ自家用トナレリ、遼西ニ於ケル養蠶業ノ中心點ハ義州市ニシテ、「アイラントス」ト稱スル樹ニ依テ飼養セラル、蠶ヨリ製スル或ル一種ノ絹布ヲ産ス、滿洲ノ絹布ハ Bombyx Pernyi ト稱スル樹

樹、支那榭 (*Quercus sinensis*)、蒙古榭 (*Quercus mongolica*) 及び闊葉ヲ有スル榭 (*Quercus dentata*) ノ葉ヲ以テ飼養スル蠶ヨリ取ル、以上ノ三種中蒙古榭ハ最も多ク使用セラレ、若シ其需要ニ不足ヲ來ストキハ、土人ハ他ノ二種ヲ採收シテ之レヲ補フ、桑樹ハ滿洲ニ生植スルナキニ非ラズト雖モ、甚ダ僅少ニシテ、養蠶業ニ對シ何等ノ裨益ヲ與フルコト能ハス、桑樹ノ培植、蠶兒ノ飼養ハ、殆ト唯富家ノ婦女子ノ職業トナス、然レトモ之レヲ目スルニ甚ダ有利ヲ以テセリ、依テ以テ獲タル絹絲及ビ織物ハ殆ント自家用トシ、之レヲ市場ニ鬻クコトナシ。

上陳セル蠶兒ノ外、尙ホ遼西地方ニ於テハ *Bombyx eyahia* ト稱スル *Ailanthus grandioza* 樹葉ニ依テ飼養スル一種ノ蠶ヲ飼養ス、然レトモ其產出額著大ナラス。

蠶兒ヲ飼養スル爲メニ要スル榭樹ヲ培植スルニ良好ナル土壌ハ、支那人ハ粘土或ハ砂石ヲ混ゼザル沃土ナリト爲ス、是等ノ地方ニ生長スル樹葉ハ形大ニシテ水分ヲ含ミ、且ツ柔軟ナリ、栽培スル榭樹ハ其成長甚ダ遅緩ニシテ、七年ヲ經過スルニ及ンデ始メテ蠶兒ヲ飼養スルコトヲ得、是レヨリ以後屢々之レヲ剪斷シテ、六呎以上ニ高カラザラシム、是レ蠶ヲ養フニ便宜ナルノミナラス、又幼葉ノ多量ヲ得ンガ爲ナリ、又蠶兒ヲ飼養センガ爲メ、特異ノ榭樹ノ栽培地ヲ造ルモノアリ、該榭樹ハ完ク地上ヨリ之レヲ切截シテ、根株ヨリ生ジタル萌芽ニ依リテ之レヲ養フナリ。

孕胎セル雌蝶ハ殊ニ用意セラレタル切レ地或ハ厚紙ニ産卵セシム、其數最も秀逸ナルモノハ五百五十個、普通ノモノニテ二百乃至三百、支那人ハ是等卵子中羸弱ナルモノヲ淘汰センガ爲メニ分類法ヲ行フ、該法ハ卵子ヲ鹽分ノ溶解液ニ浸セバ羸弱ナルモノハ爲メニ死滅スルニ至ル、而シテ殘留セル壯健ナルモノハ、後チ空氣ノ流通良キ、温カニシテ濕氣ヲ帶ブ強風ナキ所ニ安置ス、此ノ如クスルコト六七日ニ至レバ、卵子ハ解シテ細微ナル黒色ノ毛蟲ヲ生ズ、而シテ直チニ之レヲ降雨、濕氣、空氣ノ流動等ヲ防護スル安全ナル場所ニ於ケル幼柔ナル榭樹葉ニ移ス、三日乃至五日ヲ過ギ蟲ハ成長シ、且ツ壯健ナルニ至レバ開展セル地上ニ生スル榭樹ノ葉ニ移ス、之レヨリ種々ノ小鳥ノ來襲ヲ防グ爲メニ有ラユル警護ヲ施シ、而シテ漸次成長シテ數度其皮ヲ脱シ解生シテヨリ、五六十日ヲ經ルニ至レバ、既ニ成熟シテ長サ三「ダユイム」(「ダユイム」ハ「インチ」ニ當リ我八分三厘) 半乃至四「インチ」半ニ達スレバ、口中ヨリ絹絲ヲ出シ、葉上ニ繭ヲ編ミ造ル。

滿洲ニ於ケル絹布製織業ハ地方殖産業ノ一ナレドモ其事業未ダ振興ノ域ニ達セズ、各自自家用ノ絹布ヲ紡織スルニ止マルガ故、分業法ニ依ルコトナク、大資金ヲ消費スルコトナキヲ以テ、寧モ斯業ノ發達進歩ヲ催スコトナシ、然レトモ絹布ノ性質山東産ニ比シ平等ナルノミナラズ、又著シク光澤ヲ存スト云フ、長サ二十三「アルシン」(「アルシン」ハ我二尺三寸四分餘) 幅十

「ウエルシヨウク」(「ウエルシヨウク」ハ一寸四分餘)ヲ有スル地方ノ織機ニ依テ紡織スル該絹布ノ一卷ハ、春産ノ繭四千五百乃至五千個、秋産ノ繭四千二百個ニテ製作スト云フ、此レニ依テ之ヲ見レバ、春産ノ繭ハ秋産ニ比シ、絹絲ヲ出スコト稍劣ルト雖モ、然レトモ春産ノ繭ニ依テ造リタル絹布ハ、絹絲ノ太サヨリ色澤ニ至ル迄、其性質秋産ニ勝レリ、故ニ春産ノ絹布ハ殆ンド他方ニ輸出スルナク皆地方ノ需要ニ供ス、滿洲ニ於ケル養蠶業ノ統計ハ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ、英國領事「ミードウ」氏ノ一千八百六十年代ノ調査ニ依レバ、唯遼河ノ谷地ニ於ケル繭産額ハ、一萬二千立方呎ナリト、同氏ハ説ヲナシテ曰ク、此地方ニ於ケル繭ノ産額ハ、若シ外國人ニシテ該商貨ノ貿易ニ關係スルニ至ラバ、大ニ産額ヲ増加シ、地方ノ山嶺ハ檉樹ノ培植ヲ以テ蔽ハル、ニ至ルヤ疑フ可カラスト、現時ニ至ル迄、滿洲ヨリ絹布ヲ輸出シタルハ専ラ營口ヨリ支那ノ諸港ニ出シタルニ止マリ、一千八百八十年ヨリ一千八百九十年ニ至ル總輸出額ハ、四萬七千布(一布ハ我四貫三百六十匁)其價額百六十三萬九千布ナリト云フ。

第十一節 藥草藥根採集

往時滿洲ニ於テハ莫大ナル諸種ノ藥品即チ草木ノ根或ハ皮等(或ハ六十種ト云ヒ或ハ二百種ト云フ)ノ採集及ビ採菌業、甚ダ盛シニ行ハレタリキ、滿洲ニ於ケル是レ等ノ物産殊ニ人參採集

業ハ、支那本土ヨリ移動シ來レル最モ貧窮セル住民ノ速カナル富裕ヲ渴望スル者ノ間ニ從事セラル、現今滿洲ニ於ケル斯業ハ、此地方ノ行政ノ普及スルニ從ヒ、漸次衰退セリ、然レトモ人參即チ清語「ファンツイ」及ビ木菌ノ採集ハ尙ホ重要ナル事業ノ一ニ屬セリ。

第十二節 人參及「ファンツイ」

支那植物中著明ナルモノ、一ニシテ、滿洲語之レヲ「オルホイダ」ト稱シ、草ノ頭ト云フ意ナリ、北京ニ於ケル醫國教會ノ附屬醫師「キリローウイ」氏多年攻究ノ結果ニ依レバ、亞細亞ニ産スル人參ハ、其産出スル地方ニ依テ之レヲ三種ニ區別スルヲ得ベシ、滿洲人參ハ只滿洲及ビ朝鮮ニ産ス(「Panax ginseng Meyer」)日本人參(「Panax japonicus Mey」)唯日本諸島ニ生ジ、及ビ類似人參(「Panax pseudoginseng」)ハ「チバル」地方ニ發見セラル、滿洲人參ハ該三種中最モ卓逸ニシテ、其幹莖二呎ヲ超エズ、其中部ニ平等的ニ十字形ニ配置スル四個ノ葉ヲ以テ輪狀ヲナシ、葉ハ集合體ニシテ、皆五個ノ長橢圓ノ條裂ヨリ成ル、就中其中央ニアルモノ最モ大ナリ、根ハ紡錘狀ヲナシ、甚ダ亂雜粗笨ニシテ汁液多ク、其太サ二分「デニウム」ニ達スルモノ稀レニ、長サ二乃至三「デニウム」ニ及ブ、春、幹莖頂ニ傘狀ノ如ク紫色ノ花開ク、夏紅トナリ實ヲ結ブ。人參ノ生産スル地方ハ甚ダ制限セラレ、滿洲ニ於テハ北ハ四十七度ニシテ、西ハ奉天ヲ通スル

子午線ヲ踰ニス、然レトモ朝鮮半島ニハ培植セラル、此地方ニ於ケル野生ノ人參ハ、深山幽谷
人跡ノ及バザル地方、落葉ノ腐敗シテ氣孔アル土壤、殊ニ菩提樹ノ下ニ多シ、野生人參ノ重要
ナル産地ハ、納丹哈達拉山脉ナレトモ、現今甚タ減少セリト云フ。

清國ノ醫學者ハ人參ヲ以テ諸種ノ疾病ニ對シ最モ有効ニシテ起死回生ノ藥料トナセリ、然レト
モ歐羅巴ノ醫師ハ屢々諸種ノ實驗ヲ試ミタレトモ、何等ノ著ルシキ藥療的資質ノ存スルヲ發見
スルコト能ハザリキ、佛蘭西ノ植物家「リチャード」ハ曰ク、該植物ハ歐羅巴ニ生スル有益ナル
百種ノ草ト相匹敵ス可シ、然レトモ斯ハ人參ニ比シ甚ダ低廉ナリ。

野生人參ノ有ユル産地ハ、現時ニ至ル迄清國帝室ノ所有トナシ、往時其採集ハ唯政府ノ經營ニ
委シ、諸種ノ手段ニ依リテ此貴重ナル草根ノ窺取的採集ヲ豫防シテ、其滅絶ヲ防ギタリ、人參
ノ探索者ニハ、昔時ヨリ毎年一定ノ鑑札ヲ交付セリ、「イアキンバ」ノ說ニ曰ク、當時盛京省ニ
於テハ四人ノ勞働者ヲ附帶スル一人ノ採集者ニ一個ノ鑑札ヲ交付シ、吉林省ニ於テハ五人ノ勞
働者ヲ有スル四人ノ採集者ニ一個ノ鑑札ヲ給與シタリ、是等ノ鑑札ハ盛京省中ニ於テ一千七百
五十二、吉林ニ於テ四百六十五、寧古塔百九十六、伯都納三十二、阿楚喀二十七、三姓三十三、
而シテ地方官ハ鑑札ヲ給與セラレタルモノニハ、皆賞典ヲ給シタルヲ以テ、十九世紀ノ前半期
ニハ公然人參ノ採集ニ從事シタルモノ、各年九千人ノ多キニ達シタリ、而シテ該事業ハ嚴重ナ

ル監督ノ下ニ立チ、山地ニ於ケル陸軍哨兵隊ノ下ニ行動シ、哨所ヲ設ケ、採集ノ場所、時期等ヲ
確定セリ、食料ノ給與ハ一定ノ數量(未或ハ稷ヲ六斗宛)ヲ限リテ、山中ニ越年スル能ハザラシ
ム。

山地ヨリ歸著スル採集者ハ、哨所ニ檢閲ヲ受ケ、其鑑札ニ採集シタル人參ノ數量ヲ記入シ、鑑
札ヲ返付スル監督官ニ至ル、此處ニ於テ採集者ハ貢賦的人參ヲ納入ス、即チ盛京省ニ於テハ每
鑑札ニ對シ乾人參五斤、(一斤ハ百六十二匁餘)吉林省ニ於テハ五斤、及び各附屬の勞働者ニ對
シ二兩(十匁餘)ナリ、是等ノ收納セル人參ハ、皆北京ノ宮廷ニ送付セラレ、宮内省ニ於テハ人
參每兩ニ對シ銀五兩ヲ採集者ニ給與ス、租税ヲ納メタル殘額ハ採集者ノ商店ニ賣却スルコトヲ
許可セリ、然レトモ是等ノ人參ヲシテ支那ニ輸送スルニハ、必ズ官有ノ人參輸送ノ後ヘニ從ヒ、
長城ヲ經テ毎斤銀五兩ノ厘金税ヲ仕拂ハザル可カラズ。

宮廷ニ於テハ是等ノ人參ニ對シ、最モ嚴重ナル區分法ヲ行ヒ、之レヲ五級ニ區別シ、最良ナル
人參ハ一斤二十七根タラシメ、下等ハ三十七根トス、其中四等ニ至ル迄ハ宮中ノ需要ニ充シ、
五等ハ又之レヲ四分シテ、之レヲ賣却スト云フ、現今是等規定ノ大部ハ、大概ヲ遂行セラレズ、
採集者ニ對スル監督モ亦甚シキ履行ヲ見ザルモノ、如シ、故ニ野生人參ノ秘密採集買賣ハ、滿
洲ニ於テ今尚ホ嚴重ニ禁止セラレツ、アリト雖モ、此地方ニ於ケル人參採集ニ從事スル草賊ノ

徒黨増加セルガ故ニ、政府ノ掌中ニ入ル人參ハ著シク減少セルヤ疑フ可カラス、方今北京宮廷ニ入ル人參ノ數量ハ左ノ報告ニ依テ之レヲ窺知スルコトヲ得ヘシ。

一千八百八十四年一月北京京報ハ十二個人參、其價格一千二百六十兩、宮廷ニ捧納セラレタルヲ報セリ、一千八百八十五年ニハ吉林省ニ於テ人參九「オンス」半ヲ發見シ、之レヨリ以後一千八百八十六年十二月二十日ヨリ、一千八百八十八年三月十七日ニ至ル間ニ、吉林將軍ハ北京朝廷ニ大ナルモノ八個、普通ノモノ十四個、其總量八「オンス」ヲ献セリ。云々、人參ノ宮廷ニ入ルモノハ皆該京報ニ依テ公表セラル。

野生人參ノ價額ハ非常ニ高價ニシテ、最モ高貴ナルモノハ最モ古クシテ肥大ナルモノナリ、「イアキンバ」氏ノ説ニ依レハ、第四級ノ人參ノ一兩ハ、純銀四百兩、五級ハ三百兩、破壊セラレタル人參ハ百五十兩、細微ナルモノ百兩ナリト云テ。

此ノ如ク野生人參ノ高貴ナルガ故ニ、現時之レヲ栽培スルノ法ヲ攻究スルニ至レリ、十九世紀ノ前半紀ニハ、野生人參ノ困難ナル採集ヲ保護スル爲メニ、其栽培ヲ嚴禁シタリキ、然レドモ現時滿洲ニハ甚ダ多大ナル人參ノ栽培地ヲ有ス、其地積ハ地方官之レヲ規定シ、人參ノ耕作ハ藥草ノ如ク、政府之レニ對スル租税金ヲ課付スルニ至レリ、一千八百八十六年十一月二十一日發表セラレタル、一千八百八十年十一月ヨリ一千八百八十五年ノ終リニ至ル該税金ノ徵收額ヲ舉グ

レバ左ノ如シ。

一千八百八十年	九千二百二十仙
一千八百八十一年	二萬三千〇三十九仙
一千八百八十二年	一萬五千四百一十一仙
一千八百八十三年	一萬〇七百七十七仙
一千八百八十四年	一萬三千七百二十七仙
一千八百八十五年	一萬五千三百四十四仙
總計	八萬七千三百七十八仙

即チ一萬七千五百兩也

滿洲中人參栽培地ノ最モ多キハ朝鮮ノ國境ニ接スル處、十湖邑ノ南六十浬里、朝兒山山脈ノ起伏スル山地ニアリ、人參ヲ栽培スルハ新タニ森林地ヲ開拓セザル可カラサルヲ以テ、甚ダ勞力ヲ要シ、土壤ハ非常ニ孔隙ニ富ム鬆軟沃土ナラザル可カラズ、又極メテ灌溉ヲ好クシ、日光ノ直射ヲ防ギ、低キ日覆ヲ設ケテ側面ヲ開放ス。

是等ノ蓋被ハ長サ四十三「サーシン」(「二」サーシン)ハ我七尺餘(幅三「アルシン」)(「一」アルシン)ハ我二尺三寸餘)人參ノ種子ハ該地陽ヲ以テ蔽ハル、長クシテ且ツ狭キ畦上ニ播種ス、規模大ナ

ル栽培地ニハ毎年三十七布(一布ハ我四貫三百餘)ヲ産ス、「セームス」氏ノ説ニ依レバ、人參ハ播種後五乃至六年ヲ經過シテ之レヲ收穫ス、其最モ肥大ナルモノニシテ一根四「オンス」ヲ超過スル能ハズ、人參ノ收穫ハ秋季ニシテ、即チ九月上旬ヨリ十月二十日ニ至ル、其莖葉ヲ除去シ、其根ヲ熱湯ニ浸シ、或ハ之レヲ蒸セバ、始メ白色ナリシモノハ紅色ヲ帶ブルニ至ル、若シ透明ナルモノアラバ、之レヲ卓逸セルモノトナス、若シ又蒸シテ其固有ノ色澤ヲ失ハザルモノハ最モ高價ナルモノトナセリ、蒸熟シタル根ハ之レヲ日光ニ晒シテ乾燥セシム、蒸熟シタル水ハ後チ其莖葉ヲ交ヘテ再ビ之レヲ煎煮シ、香錠(薰物)ノ用ニ供ス、栽培スル人參ノ醫藥上ノ効能ハ、支那人ハ野生ニ比シ遙カニ劣等ナルモノトナセリ、故ニ價額モ亦從テ廉ナリ、人參ノ種子ハ難産等ニ用ヒテ効力アリト云フ、吉林省ニ於ケル栽培人參ノ集散地ハ、吉林市ニシテ營口ニ輸出セリ。

「フアンツ」

滿洲東部ノ幽谷ニハ滑語「フアンツ」ト稱スル他ノ草根アリ、ト劑ニ用ヒテ有効ナルヲ以テ、支那藥品ノ重要ナル一部ヲ占ム、故ニ此地方該植物ノ發生スル山地ニハ、採集者隊伍ヲ組ミ、小屋ヲ編ミ、諸方ニ轉遷シテ之レガ採集ニ從事シ、其附近ノ市場ニ出シテ之レヲ鬻グ、該草根ノ貿易ノ中心點ハ遼古塔市ナリ。

第十三節 採菌業

現時ニ至ル迄、尙ホ滿洲ニ於ケル少ナカラザル住民ノ依テ以テ生計ノ資トナスモノナリ、然レドモ之レガ爲メ大ニ樹樹ヲ則滅スルニ至レリ、採菌業ハ巨大ナル樹ヲ伐倒シテ、二乃至三年ヲ經過スレバ、引火木(ホクチ)ニ屬スル黄色ノ木屑ヲ發生ス、此菌ハ方言「ムエル」ト稱シ、支那食料調味物ノ一トナル、菌ヲ食料ニ供スル以前ニ之レヲ水中ニ浸シテ、單寧ノ渣滓ヲ採取ス、該渣滓ハ上等ナル絹布ヲ製造スル爲メニ、支那織工者ノ間ニ需要セラレ、蓋シ此渣滓ハ織物ノ光澤ヲ添ヘ、又之レヲ強固ナラシムルノ功アリ、該業ハ綽丹哈達拉山脈及ビ朝兒山山脈ニ最モ盛ニシテ、主トシテ遼古塔市ニ出シ、(一斤畧十五哥)之レヨリ吉林市ニ輸送シ、後チ全滿洲ニ輸出ス。

第十四節 樵業

「ツングース」語ニテ窩集ト稱スル翁鼈トシテ往時滿洲山嶺ノ全部ヲ蔽蓋セル森林ハ、近時人々ノ増殖ト共ニ、漸次伐盡スルニ至レリ、現ニ大興安嶺、長白山脈及ビ其支脈、殊ニ朝鮮境界附近地方ニハ尙廣漠無盡ノ森林地アリ、滿洲ニハ未ダ正規的ニ限界セラレタル樵業ナシ、樵業ハ

主トシテ樹木ノ伐採、及ビ材木ノ流下、木炭ノ燃燒及ビ木器ノ製造等ナリ、該業ハ指令セラレタル地方ヲ除キ、到ル處禁止セラレズ、而シテ何等ノ租稅ヲ徵集セラル、コトナシト雖ドモ、唯建築材ノ購買者ハ、其價額ノ三分ヲ官ニ仕拂フ、大興安嶺ヲ覆蓋スル樹木ハ、稀薄ナリト雖ドモ大概チ巨大ナリ、就中最モ巨大ナルモノハ柏樹ニシテ、高サ十二乃至十五「サージン」太サ二十乃至三十「ウエルシヨウク」榲櫚樹、黑樺ハ之レヨリ少ナク、此ノ如キ巨木ハ「デシヤーチカ」我一町一反餘内ニ三十乃至四十本ニシテ、其ノ軀幹ノ大部ハ朽枯ス、興安嶺ニ於ケル樹木ノ六割ハ皆腐朽セリ、是等ノ木材ハ燃料トシテ不適當ナルヲ以テ、興安嶺ニ於ケル樵業ハ甚ダ發達セズ、唯嫩河ノ沿岸ニ「ダウル」人ノ從事シテ布特哈、齊々哈爾地方ニ輸出スルアリ、就中「ダウル」河最モ熾ナリ、嫩河ノ全谷地ニ於テハ燃料トシテ薪材ヲ使用セス、蘆葦、獸糞等ヲ用フ、小興安嶺ニ於テ伐採スル材木ハ、呼蘭河ニ依テ之レヲ輸送ス、黑龍江省ニハ樺樹ノ皮ヲ以テ、帽子、靴、器具小屋、舟等ヲ造ル一種ノ樵業行ハル。

樵業ノ盛ナルハ、長白山脈及ビ其支脈ニシテ、就中其首位ヲ占ムルハ、鴨綠江ノ上流及ビ其支流渾河ニシテ、該河流ニ依リ夥多ノ建築材ノ筏ヲ流下ス、建築材ハ主トシテ樺樹ニシテ、長サ十呎直徑大ナルハ三呎ニ達スルモノアリ、筏ニ依リテ流下スル者ハ、其上ニ小屋ヲ作り、其内ニ起臥シ、河口ニ至リテ賣却スルノ後チ、徒歩ニテ再ビ上流ニ歸ル。

長白山脈ノ北側面及ビ其北支脈地方ニ於テ伐採スル材木ハ、松花江及ビ其右支流拉林河、大古東、小古東、大拉拉米河、小拉拉米河、瑪顏河、牡丹江ニ依リ輸送セラル、良好ナル建築材ハ松花江ノ上流ニ於テ伐採シ、吉林市ニ流下ス、木材貿易ノ最モ盛ナルハ伯都訥ニシテ、其對岸筏ニ依テ充塞ス、筏ハ皆其上ニ長サニ依テ配置セラシタル長圓形ノ小屋ヲ造ル、其骨格ハ大ナル針葉樹ノ枝ヲ彎曲シテ之レヲ編ミ造ル、其他建築材ハ三姓市ノ附近ニアル古東山及ビ大拉拉米河、小拉拉米河、瑪顏河ノ上流ニアリ、牡丹江ハ唯薪材ノミヲ流下ス、松花江ニ於ケル重大ナル材木ノ集散地ハ伯都訥、三姓、白彥蘇々ナリ、白彥蘇々ノ埠頭ハ白彥蘇々、呼蘭城管區ノ薪材ノ供給場ナリ、挽木所ハ大古東河、及瑪顏河河口、其他各地ニアリ、松花江ノ下流ニ於ケル建築材ハ、大概樺樹ニシテ、甚タ太ク、七乃至八「ウエルシヨウク」ニ長サ三「サージン」ヲ有ス、其價ハ十哥乃至一留ナリ、薪材ハ榲櫚、榆、樺、赤楊、其他ノ雜木ナリ、薪材ノ大サハ長サ略十一「ウエルシヨウク」太サ二乃至三「ウエルシヨウク」ニシテ百個乃至百二十個ヲ以テ一敷キトナシ、其價三姓ニ於テ四十二吊、樹木ナキ地方ニ於テハ燃料トシテ大概松花江其他ノ河岸ニ繁茂スル柳樹ノ小枝ヲ用フ、是等細枝ノ百個ハ六十五哥ヲ價スト云フ、「ブテヤータ」氏ノ調査ニ係カル吉林市ニ於ケル建築及ビ薪材ノ價額ハ左ノ如シ。

長サ十五呎幅三呎ノ丸太 五吊五百文

天井及び屋根ニ用フル丸太

二吊五百文乃至二吊

細キ竿材

四百乃至三百五十文

厚サ一「ウエルシヨウク」四分三幅二「ウエルシヨウク」四分一長サ十五呎ノ板

厚サ八分六「ウエルシヨウク」幅及び長サ前者ト同ジキ板

三吊乃至二吊五百文

割碎セザル薪材百斤

五百文

割碎セル薪材百斤

三百文

樹木ニ饒カナル地方ニ於ケル都會村邑ハ、其單調ナル形骸ヲ失ヒ、土壁ト木塀ハ代柵ヲ以テ之レヲ繞ラス、其他木材ハ狹隘ナル地方ニ於ケル道路修葺ノ材料ニ供シ、又屋根天井ヲ造ル、滿洲ノ或地方ニハ貨車車輪ノ製造盛ナリ、「セームス」氏ノ説ニ依レバ、斯業ノ分派ハ就中呼蘭城市其發達ノ絶頂ニ達ス、滿洲ニハ到ル處指物細工業アリ、木具、箱、棺柩、嵌工等其他優美ナル細工物ヲ製造ス。

樵業ノ一種トシテ滿洲ニハ胡桃、樅實、榛實ノ採集ニ從事ス、是等ノ果實ハ食品ノ調味料ニ供シ輸出品ノ主要ナル一部ヲ組成ス。

支那人ハ家屋ノ周邊ニ樹木ヲ培植スル習慣ヲ有スルニ關セス、滿洲ニ於ケル園藝業ハ甚タ幼稚ニシテ、職業テフ形體ヲ具ヘス、果樹ノ重ナルモノハ梨子杏櫻ニシテ、又林檎ヲモ散見ス、瑛奉市ニ於テハ懸鉤子ヲ栽培ス、就中滿洲梨子ハ其質最モ好良ニシテ、盛京省ニ於テハ之レカ栽培甚ダ盛シ、此地方ヨリ北京宮中ニ奉納セララルト云フ、葡萄ハ唯盛京省ノ山地ニ生ス。

第十五節 牧畜業

滿洲ニ於ケル牧畜業ハ、唯農耕業ニ適セザル廣漠タル平野ヲ有スル呼倫貝爾高原地方住民ノ主要ナル職業ヲ組成ス、此ノ地方ノ高原ハ其ノ廣袤ト云ヒ、殊ニ其野草ト云ヒ、比較的水流ノ富饒ナル點ヨリ論スルモ、牧畜業ニ有望ナリト云ハザル可カラズ、該高原ニ於ケル牧畜業ハ單ニ平原地方ヲ占有スルノミナラス、河流ノ谷地ニ沿ヒ、或ハ山嶺地方ニ於テモ從事セラル、馬群或ハ羊群ハ依奔河ノ上流地方ニ於テ散見シ、林地ニ近ヅクニ至リテ減セリ、蓋シ該谷地ニ於ケル野草ハ、極メテ水分ニ富ム沃土ニ發生スルヲ以テ、甚タ水氣ヲ帶ビ、莖莖ニ乏シ、故ニ鹽質ヲ含ム野草ノ如ク家畜ニ適セス、故ニ此地方ノ牧畜業ハ早晚衰退ヲ免レス、此地方ニ於ケル牧畜業ハ遊牧的民族ニ依テ經營セラレ、之レニ依テ貿易ヲ營ム、此地方ニ於ル家畜ノ種類ハ、鹽分ヲ含メル野草及び鹽分ヲ含ム飲水ニ慣レタル北蒙古地方ニ産スルモノト同種ナリ、牛ハ其體軀大ナリト

雖モ馬ハ矮少ナリ、然レドモ堪忍力ニ富ム、該高原ニ於ケル家畜ノ數總計一百万頭ト稱ス、終歲放牧ナルヲ以テ、終始水草ヲ逐フテ轉遷ス、夏季ハ昆蟲類ヲ見サルノ平原ニ依テ、冬ハ雪少キ高原ニ秣フ。

滿洲其他ノ地方ニ於ケル家畜ハ夏春ノ地方農耕業、晚秋及ビ冬期ノ運輸業ノ需要ヲ充タスニ足ルベキ制限セラレタル數ニ依テ所持セラル、是レ地方ノ平野ニ乏シキト、滿洲人及ビ支那人ガ殆ント牛乳牛肉ヲ需要セザル爲メナリ、而シテ後者ハ唯回々教徒ノ食料ニ充ツルニ過ギズ、然レドモ松花江ノ谷地ニ於テハ、現時冬季牛肉ヲ使用ス、此地方ニ於ケル牧畜業ノ盛ナルハ、嫩河ノ下流及ビ松花右岸ノ廣漠ナル低地ニシテ、牛、馬、騾ノ群諸方ニ秣フヲ日撃スルヲ得、家畜ハ又搾油釀酒所ニ於テ使用セラル、此地方ニ於ケル農夫ハ之レヲ自家ニテ生育スルヨリハ、主トシテ蒙古及ビ朝鮮ノ一部ヨリ輸入ス、滿洲ノ家畜中最モ廣ク飼養セラル、ハ牛ニシテ、其體軀長大蒙古種ニ屬ス、唯寧古塔地方ニ於テ朝鮮地方ヨリ輸入スル牝牛ハ農耕業殊ニ小農家ニ使用セラル、馬ハ矮少ナリト雖モ堪忍力ニ富ミ、素封家ガ主トシテ馬ヲ以テ耕作業ニ使用ス、重貨ヲ輸送スルニハ牛馬ノ外、尙ホ騾驢ヲ用フ、騾ハ其形馬ヨリ大ニシテ、且ツ強キヲ以テ挽曳ニ供シ、殊ニ最モ駄駕ニ適ス、馬及ビ驢ノ交尾ニ依リ、好良ナル騾ヲ産出ス、時トシテハ一見馬ト識別スルコト能ハザルモノアリ、好良ナルモノハ八百兩ヲ價スルモノアリ、吉林市ニ沿フ地方

ハ駱駝ヲ産ス、羊ハ唯ダ地方ノ需要ヲ充タスニ足ルヘキ最モ制限セラレタル數ニ依テ保有セラル、其毛皮ハ伯都訥市ヲ經テ南方ニ輸出ス、豚ハ住民食料ノ唯一ノ肉類ナルヲ以テ其飼養モ亦盛シナリ、搾油釀酒所ニ於テハ其飼養、時トシテ一千頭ノ多キニ達スルコトアリ。

黑龍江省ニ於テハ家畜トシテ鹿ヲ飼養ス、土人ハ鹿肉ヲ乾燥シテ之レヲ食料ニ供ス、就中其尾ハ最モ美味スル所ナリ、鹿ノ毛皮ハ之レヲ以テ衣服ヲ造ル、呼倫貝爾、布特哈、興安城地方ニテハ之レヲ用ヒテ袋ヲ作り、夜中其中ニ入りテ睡眠シ、以テ風寒ヲ凌クト云フ。

家畜ノ飼料トシテ冬季ニ於ケル秣ノ貯蓄ハ、唯黑龍江ノ一部ニ限り行ハル、是レ羊草ト稱スル野草ニシテ、終冬其青色ヲ保有シ、其柔軟ヲ違ヘス、該草ハ四月ニ萌芽シ、七八月ニ至リテ凋枯ス、此時ニ至レバ之レヲ刈リ集メ、屢狀ニ堆積シテ冬期ニ至ル、其他ハ通例冬季野草ノ剩餘スルニ至レバ、穀子、稗子、小米子、豆、玉蜀黍ノ莖莖ヲ以テ之レヲ飼養ス、而モ近時滿洲ニ於テハ、豆糟、油糟ヲ以テ家畜ノ飼料ニ供スルニ至レリ。

冬季窩柵ナルモノハ、家畜ハ覆蓋ヲ有スル小屋或ハ土壁ヲ繞スノ牧場ニ入レ置クト雖ドモ、貧者ハ唯杭材ニ之レヲ繫グノミ。

獸疫ハ滿洲ニ於テ毎年發生シテ家畜ヲ斃スコト夥シ、蓋シ其猖獗ヲ極ムル所以ノモノハ支那人ノ不注意ニ依ルモノ多キニ居ル、例セバ斃獸ヲ河流ニ放棄シ、或ハ其皮ヲ剥キ取ルガ如キ、比々

皆然ラザルハナシ。

家禽業中最モ盛ナルハ鶏ニシテ、家鴨、鴨、之レニ次グ鹽漬ノ鶏卵ハ、支那人ノ最モ好嗜スル食料品ナルハ、世人ノ知ル所ナリ。

近時滿洲ニテハ養蜂業興起シ、南部諸地方ニ於ケル丘陵ノ林地ニハ、該業甚タ廣ク行ハル。

第十六節 獸獵業

滿洲中吉林、黑龍江省ノ北滿洲ニハ、獸獵業ニ好適スル山嶺、森林、饒多ナリト雖ドモ、住民稀薄ニシテ、且ツ道路ノ好良ナラザル等、適宜ノ販路ヲ得ル能ハザルトニ依リ、斯業ノ妨碍ヲ惹起スルコト少ナカラズ、滿洲ニ於ケル斯業ハ主トシテ種々ノ土族ニ依テ經營セラル、就中三姓市ノ管轄ニ屬スル「ゴリド」人、齊々哈爾濱市ノ管領ニ屬スル土人ノ大部ハ獸獵者ノ責務ヲ有スル一種ノ階級ニ屬シ、毛皮ノ貢賦ヲ政府ニ納ム、獸獵業者ノ輝發江ノ南ニ住スルモノハ、各畧二百平方哩ノ區域ヲ占ムル三四ノ獨立の遊獵團體ヨリ成リ、彼等ハ首長ヲ選ビ、一種ノ法則ヲ制定シテ之ニ從事スト云フ。

獸獵者ハ晩秋ヨリ山地ニ入りテ斯業ニ從事シ、春季之レヲ湖賣センガ爲メニ家ニ歸ル、又終歲斯業ニ從フモノアリト云フ。

獸獵者ノ重要ナル獲物ハ、黑貂、西比利亞栗鼠、鹿(メジカ)、狐、虎、靈貓、熊等ニシテ、是等ハ皆多少ノ價額ヲ有スル商貨タラズンバ非ラズ、就中殊ニ意ヲ用フルハ鹿、虎ナリト云フ。

鹿ハ幼クシテ柔軟ナル鹿角ヲ有スルモノヲ最モ高貴トス、其辛ウジテ發生シタル鹿ノ角ハ、甚ダ柔弱ナル壺狀ヲナス薄キ骨膜ヲ以テ之レヲ包ム、此時ニ際シ鹿ハ樹枝灌木ニ抵觸スルヲ恐レテ平原ニ來ルヲ以テ、獵者ノ掌中ニ入ルコト多シ、後チ數箇月ヲ經レバ、骨膜ハ漸次強固トナリ、次イテ角枝ヲ生ジ、愈々發達シテ愈々強固トナリ、極度ニ達スレバ後チ落チテ新者ト交代スルニ至ル、其交代ハ四歳ヨリ開始スト云フ、該鹿角發達ノ初期、殊ニ六七月ノ交ニ捕獲シタルモノハ、支那藥種中強壯劑トシテ最モ有効ナルモノトナセリ、藥料トシテ之レヲ煎煮シテ用テ、該鹿角ハ近時博士「ベリ」氏ガ左ノ効用ヲ證明スルニ至リテヨリ、支那人ハ愈々其効能ヲ確信スルニ至レリ、即チ血液ヲ含包スル該鹿角ハ、元氣ノ衰弱シタル者ニ與ヘテ甚ダ有勢ナル反撥力ニ富ム白血球ヲ以テ充塞ス、故ニ強壯劑トシテ最モ有益ナル醫療的元質ヲ有ス云々。

鹿角ハ其形狀其色澤完備ナルモノヲ最モ貴シトス、故ニ獸獵者ハ鹿ヲ捕獲スルニ當リ、鹿ガ自ラ逃避ヲ試ミル爲メ其角ヲ損傷センコトヲ恐レ之レカ爲メ頗フル苦心スト云フ。

南部烏蘇里地方ニ於ケル該鹿角ノ價額ハ一對三百留ニシテ、黑龍江省地方ニハ一個三十乃至八十兩ヲ價ス、主トシテ廣東、山西地方ニ輸出セラル、故ニ鹿角ノ獸獵ニ從フ者ハ甚ダ多ク、隊伍ヲ

組ミテ地方ノ山地ニ入ル、就中吉林地方最モ盛ンニシテ、價モ從テ廉ナリト云フ。
鹿ノ外、麝香獸モ吉林省ノ東北地方ニテ獵捕セラル、該雄獸ノ腹部ニハ粒狀ノ物質ヲ包メル直徑「デニウム」半ヲ有スル囊アリ、其色稍赤キ肉桂色ヲ帶ビ、此囊ノ重量ハ四乃至八「ドラム」(通例七「ドラム」)アリ、畧ニ「ドラム」ノ麝香ヲ含有ス、接尾期ニ捕獲シタルモノハ最モ好良ナル麝香ヲ産ス、甚幼稚ナルモノハ囊中麝香ヲ含包セス、然レトモ老若ハ下等ナルモノヲ保有ス、麝香獸ハ常ニ春夏兩季ニ捕獲ス、然レトモ該獸ニ對スル専門的獵夫ナク、唯他獸ト共ニ之レヲ獵ス。

虎ハ毛皮、爪ヲ以テ尊ハル、滿洲産ノ毛皮ハ長クシテ、絹絲狀ノ毛ヲ有シ、印度産ニ比シ甚ダ美麗ナリ。

野獸ハ鐵砲、弓箭或ハ諸種ノ係蹄ヲ以テ之レヲ捕獲ス。

黑貂ヲ捕フルニハ一種ノ係蹄ヲ以テシ、鹿ヲ捕フルニハ十呎ノ深サヲ有スル穴ヲ造ル、穴ハ彼等ノ通過スル徑路ニ當リ之レヲ穿テ之レヲ蔽フニ小枝木葉ヲ以テス、此穴ニ於テハ他獸ノ陥落スルコトアリ、就中熊最モ多シ、又鐵齒ヲ以テ造リタル一種ノ係蹄ヲ用フ。

虎ヲ捕フルニハ大ナル木或ハ鐵製ノ獸籠ヲ造リ、之レニ豚兒ヲ容レテ誘拐ス、昔テ「ゼームス」氏ニ三人ノ獵夫語ツテ曰ク、周圍十里ノ地方ニ一千ノ黑貂ノ係蹄、六十個ノ鹿穴ヲ造リ、一期

中九十ノ黑貂、二匹ノ柔角ヲ有セル鹿ヲ捕ヘリ云々。

滿洲獵獸者ノ依テ以テ捕獲シタル獲物ノ一部ハ、之レヲ政府ニ納メ、他ハ之レヲ賣却シテ需要品ト交換ス、是等ノ集散地ハ、吉林、齊々哈爾、齊古塔、三姓等ナリ、滿洲ノ黑貂ハ東部西比利亞産ニ比シ稍劣レリ。

獸獵業ハ他ノ事情ニ依リ經營セラル、モノアリ、即黑龍江省ニ於ケル全遊牧者「ダウル」、「ソロン」、「オロチヨン」及ビ「マチーグル」、吉林省ニ於テハ「ゴリド」(一千八百八十年清國ノ國籍ニ入リシ松花江、黑龍江「ゴリド」ヲ除キ)「ギリヤーク」及松花江及ビ同河口、黑龍江烏蘇里江ニ住スル他種族等ハ男一人(成年者)ニ對シ、黑貂皮一枚ノ貢賦ヲ收ムベキ法律ノ規定アリ、是等毛皮ノ貢賦ハ、三姓及ビ齊々哈爾市ニ持來サル、其賠償トシテ彼等ハ各黑貂皮ニ對シ、皇帝ヨリ衣服ノ一組、帶ニ要スル絹布、櫛四個、絲、火酒及ビ煙草等地方相場略十八留ヲ價スルモノヲ下賜セラル、其他省ノ將軍ハ毎年皇帝ノ名義ヲ以テ、集合シタル全土族ノ爲メニ酒宴ヲ張ル責務ヲ有ス、之レガ費用トシテ毎年國庫ヨリ五十留ヲ支出スト云フ、是等ノ毛皮ヲ貢賦スル土族ハ、齊齊哈爾市ノ管轄内ニ住スル者五千五百人、三姓市ノ管轄内ニ住スルモノ二千三百人アリ、蓋シ黑龍ノ左岸一帶ノ地ガ露領ニ歸スルニ至リ、土人遊獵區域ノ縮少セラレタルヲ以テ、土人ノ其義務ヲ遂行スルコト甚ダ困難トナリ、毛皮ヲ貢賦スルコト減少セリト云フ、「ルビノーワ」氏ノ

說ニ依レバ、黒龍江畔「ハバロフスク」市ノ下流及ビ烏蘇里江畔ニ住スル土族中、清國政府ニ貢賦スルモノ三百乃至四百人アリ、黒貂皮ノ不足額ハ、地方行政官ガ土人ニ仕拂フ可キ金額ヲ以テ之レ（下等ナルモノ）ヲ購求ス、一千八百八十八年「ハバロフスク」市ニ於テ、清商紀鳳泰ノ媒介ニ依リ、購求シタルモノ一枚四留五十哥宛ニテ、一千二百枚ニ達セリ、貢賦トシテ徵集スル最モ好良ナルモノハ、常ニ之レヲ賣却シテ、其金額ヲ以テ下等ナルモノヲ購求シテ、北京朝廷ニ送付ス、一千八百八十八年、黒龍江省ニ於テ北京朝廷ニ發送シタル黒貂皮ノ數ハ

- 一等 七十二枚
- 二等 百七十三枚
- 三等（上）四百三枚
- 同（中）二千五百〇七枚
- 總計 三千百五十五枚

清國法律ニ依テ規定セラレタル毛皮貢賦者ニ對スル物品ノ給與ハ、現今大ニ減少シテ半「アルシン」乃至「アルシン」下等絹布二枚、葉烟草、粗製ノ櫛トナリ、又往時ハ酒宴ヲ張リシカ、今ハ變ジテ生肉及ビ稀薄ニ爲シタル火酒トナレリ。

黒貂皮ノ徵集ハ朝廷ヨリ派遣シタル使節、土族ヨリ貢賦シタル毛皮ヲ机上ニ載セ皇帝ノ如ク南

面跪座ノ禮ヲ以テ之レヲ受ク、朝貢者ニ對スル儀式ノ終ルヤ、將軍ハ酒宴ヲ張リテ高估ヲ招待ス、使節ハ是等ノ高估ヲシテ其貢物ノ價格ヲ付セシメ、其最モ高價ナルモノヲ以テ現金ニテ即坐ニ賣却ス、將軍ハ其賣買ニ依リ毎年三萬五千留ノ收入ヲ得、該收入ハ其幾分ヲ使節ニ與ヘ、餘ハ自己ノ囊中ニ入ルト云フ、「ハバロフスク」市ノ下流黒龍江畔ニ住スル「ギリヤーク」人ハ自ラ清國ノ臣民ト思惟セザレドモ、其一部ハ北京朝廷ニ秘シテ自己ノ利益ヲ謀ル、三姓市ノ支那行政官ニ黒貂皮ヲ貢賦スルモノアリ。

毛皮ノ外土族ハ尙ホ其地方ノ物産ヲ北京朝廷ニ納ムルノ義務アリ、即チ地方ニ於テ捕獲セル鹿ヲ獻ズルガ如キ是ナリ、斯ハ盛京省ニ於テハ一千二百頭、他ノ二省ハ各六百頭然レドモ實際北京ニ送ラル、モノハ甚ダ少數ナルヤ疑フ可カラズ、北京報ニハ該獸ノ定數ヲ充タスコト能ハザル辯明書ヲ掲載シタルコトアリ、或ハ云フ宮廷ニ入ルモノハ、唯其最モ美味ヲ有スル脂肪アル鱈尾ニ過ギズト、黒龍江省ヨリ毎年宮廷ニ入ルモノハ左ノ如シ。

- 野猪 二頭
- 雉 二百羽
- 鱈魚 三十尾
- 小麥粉 四十袋

火絨 二十箱

竹 箭 四百及ビ膽寫ニ要スル樺木ノ槍棒

其他往時人參眞珠等ヲ貢獻セリ。

第十七節 眞珠ノ採集

支那歴史ニ依テ之レヲ見ルニ、滿洲ハ古代ヨリ眞珠ノ產地ヲ以テ著明ナリキ、主トシテ松花江及ビ其支流齊々哈爾、呼蘭城及ビ愛琿城等ノ管轄ニ屬スル沼澤ニ産ス、即チ眞珠ハ此地方ニ産スル貝類中ヨリ採集セラル、ナリ、「イアキンハ」氏ノ説ニ依レバ、小ハ粟粒狀ヨリ、大ハ直徑略半「デユイト」ニ至ルモノアリ、滿洲ニ於テ眞珠ヲ合メル貝類ノ捕獲ハ、政府ノ專業ニ屬シ、個人ノ營業ヲ嚴禁セリ、然レドモ往時一定ノ規程ニ依リ「ソロン」其他ノ土族ニ之レヲ許可セリ、皇室ノ眞珠採集トシテ一團體三十人ヨリ成ルモノ五十九、滿洲朝、親王家ニ屬スルモノ三十九アリテ各年五月ヨリ九月ニ至ル間之レガ採集ニ從ハシム、一團體ハ十六個ノ眞珠ヲ採集スルノ責務ヲ存スルヲ以テ、皇室ハ毎年九百四十四個ヲ收ムルコトヲ得ト云フ、然レドモ眞珠採集ハ現今停止スルニ至レリ。

第十八節 漁業

滿洲ニ於ケル河流ハ諸種ノ魚族ニ富ミ、漁業ニ從事スル住民モ亦極メテ多シ、「ゴリド」人ニ在テハ斯業豐獵業ト共ニ其生計ノ支柱トナレリ、三姓市ノ上流、松花江ノ兩岸ハ支那人ノ漁家諸方ニ散點セリ、彼等ハ間々四十人ノ多キニ達スル團體ヲ造リ、首長ヲ設ケテ斯業ニ從事ス、漁業ハ主トシテ秋冬ノ兩季、農業ノ閑散ナル時期ヲ利用スル附近ノ住民ニ依テ經營セラル、就中最多ク漁家ノ散點スルヲ見ルハ、嫩河畔ノ農耕業ニ適セザル地方ニアリ。

此地方ノ漁業ハ郵遞業ニ從事スル支那人ニ依テ營マラル、其他ノ河流ニ於テハ其地方ノ需要ニ應ジ、地方農民之レニ從事ス、政府ハ一千八百八十年度ヨリ是等漁業團體ヨリ税金ヲ徵集スルコトヲ規定セリ、一千八百八十七年呼蘭城ノ管轄内ニ於ケル、十二組ノ漁業團體ヨリ徵收セル金額ハ二百二十兩ナリシト云フ。

團體ニ於テ漁捕シタル魚類ハ之ヲ賣却シ、其利益ハ首長ヨリ之ヲ各團體員ニ等分スト云フ、「ゴリド」人ハ主トシテ鱒魚、鮭、及ビ諸種ノ小魚ヲ漁ス、就中最多キハ鮭ナリ、鮭ハ毎秋群ヲナシテ海ヨリ黒龍江及ビ其支流ニ溯ル、此時ニ至レバ「ゴリド」ハ男女老幼ノ別ナク之ニ從事シ、男子ハ之レヲ漁シ、女子ハ乾魚ヲ作ル、之レヲ網シテ二千尾ノ多キヲ獲ルコトアリ、鮭ハ

又漁又ヲ以テ之レヲ捕フルコトアリ、此ノ如キ時ニハ小河ニ於テ柳枝ヲ以テ堰堤ヲ作り、其下底ニ二個ノ間隙ヲ作り、其後ロニ桶狀ノモノヲ置ク、間隙ヲ通シテ入り來ル魚類ハ、其前路ヲ遮ラル、ヲ以テ水ノ上流ニ向ヒテ進行スルヲ待ツテ之レヲ漁又ニテ打ツ、此ノ如クシテ實ニ巨額ノ鮭ヲ漁スト云フ、女子及ビ小兒ハ臟腑ヲ去リ、之レヲ日光ニ乾カシテ乾魚ヲ作り、之レヲ貯ヘテ一箇年ノ食料ニ供ス、鮭皮ノ柔軟ナルハ衣服ヲ作り、強靱ナルハ履物トス、「ゴリド」人ノ使用スル舟ハ、丸木舟ニシテ樺樹皮ヲ以テ之レヲ造ル、嫩河ハ實ニ魚族ニ富ミ、若シ河水ノ漲溢シテ一度減少スルニ至レバ、無數ノ魚族河畔ニ潑刺トシテ銀河ヲ流スガ如キ觀アリト云フ。

第十九節 製鹽業

滿洲ニ於テモ亦支那本土ノ如ク、政府主權ノ下ニ屬ス、即チ政府ハ一定ノ制限セラレタル商人ニ特許權ヲ與ヘ、嚴重ナル監督ノ下ニ斯業ニ從事セシム、特許ヲ得タルモノ、其製産額ニ制限ヲ付セラル、コトナシト雖モ、其鹽ヲ輸送スルニハ一定ノ輸出額ニ對シ、新タニ之レガ許可ヲ得ザル可カラズ、而シテ其輸送セラル可キ地方ニ於テ、又諸種ノ規則ヲ設定セラル、是等ノ特許權ニ對シテ、製鹽者或ハ其商店ハ一定ノ税金ヲ支辨ス、而シテ是レ等ノ法則ニ違背シ、或ハ之レガ密貿易ヲ爲ス者ハ嚴重ナル國法ニ問ハル、鹽稅ノ價格ハ地方ニ依リ差違アリ、是レ地方

官ガ皇帝ノ命ズル中央國庫金ノ定額ヲ充サ、ル可カラザルト、又地方需要ノ如何ニ依ル、然レドモ平均ニ英斤ニ對シテ四分片(片ハ我ガ二錢ニ當ル)其實價ハ、其性質ニヨリニ英斤十六分五「ペンズ」ヨリ二分ニ「ペンズ」ニ至ル、内地ニ於テハ其運賃厘金稅ニ依リ、漸次其價額ヲ高騰ス、支那ニ於ケル厘金稅ハ一英斤ニ付四分三「ペンズ」ナリ。

滿洲ニ於ケル製鹽業ノ大部ハ、半莊、蓋州兩市間、遼東灣ノ沿岸、及寧遠地方ニ於テ經營セラル、皆鹽田法ニ依ル、呼倫貝爾ノ兩湖ハ鹹水湖ナレドモ、其性有機物ヲ含ミ、辛味ヲ帶アルヲ以テ、唯其附近住民ニノミ需要セラル。

第一節 滿洲ノ採金業及産金地方

之レヲ諸種ノ方面ヨリ觀察調査スル時ハ、滿洲ハ實ニ世界中高級ノ地位ヲ占ム可キ合金地層ヲ有スト雖モ、其富源ノ開發タルヤ、尙ホ未ダ幼稚ナルヲ免レズ、蓋シ合金地層探査ノ甚ダ微々タル所以ノモノハ、清國政府ガ國法ニ依テ金礦ノ探掘ヲ禁ジ、金礦探險家ハ其罪盜賊ニ準ジ之ヲ死刑ニ處シタルヲ以テナリ、然レドモ從來滿洲ニ於テハ實際金礦探險者ト盜賊ハ大概テ同一人之ヲ兼テタリシガ、近時ニ至リ金礦探險者ノ狀態全ク一變スルニ至レリ、嘗テ北清日報ハ北京政府ノ發布シタル滿洲ニ於ケル礦山探掘ニ關スル左ノ法律ヲ轉載シタリ、曰ク「滿洲到ル處金銀礦探掘ニ從事セント欲スルモノハ何人ニ論ナク免許狀ヲ受領スルコトヲ得、若シ其合金地層ニジテ他人ノ所有地ニ屬スルトキハ、其所有者ハ先企業者ニ向ツテ相當ノ價額ヲ以テ之ヲ讓リ渡スノ義務ヲ有ス、礦山ニ屬スル地區ハ之ヲ無報酬ニテ使用スルコトヲ得、免許狀ヲ交付シタル日ヨリ三箇月間ハ探索設計時代トシテ税金ヲ課セス、該期限ヲ經過シテ若シ其選定區域ノ有用ナルヲ認定スルニ於テハ、礦主ハ免許料トシテ毎年銀百兩及ビ銀ハ其產出額十分一、金ハ五分ノ一ヲ國庫ニ收メザル可カラズ」

蓋シ上陳ノ如キ嚴酷ナル負擔ナルニ係ラス、滿洲ノ金礦ハ探險者ノ掌中ニ落チテ探掘ニ從事セラル、モノ漸次増殖シ來リ、合金地層ノ新ニ發見セラル、ヤ貧窘困苦ヲ意トセザル經營者爭フテ之ニ當ルニ至レリ、然レドモ其中ニハ或ハ冒險者流ノ投機的ノモノアリ、時トシテ地方生活ノ淘汰ヲ受テ故國ヲ脱シタル貧窮者ノ一擲千金ヲ夢想シテ之ニ當ルモノナキニ非ラス。

滿洲ニ於ケル是等種々難多ノ人種ヨリ成ル冒險者ハ、正規的機關ヲ有スル獨立の社會ヲ造リ、採金業ヲ經營スト雖モ、是等ノ團體ハ其情態順境ニ進ムニ至レバ漸次地方開拓ノ中心トナリ、其威勢四方ニ普及シ、又其團體ノ安寧ヲ保持センガ爲メニ嚴苛ナル法律ヲ制定シテ、多數ナル賊黨ガ清國賣官者流ト氣脈ヲ通ジテ一大勢力トナレリ。

此ノ如キ組織ヲ有スル團體中最モ著大ナルモノハ夾皮溝ナリ即チ團體員中最モ信賴スル人物ヲ選ビテ首領トナシ、之ヲ大頭目ト稱シ、其補佐ニ二頭目ヲ置キ、又必要ニ應ジテ三頭目ヲ置ケリ、大頭目ハ團體員中犯罪者ニ對シ管刑ヲ施スノ專權ヲ有ス、又生者ヲ地下ニ埋メ或ハ絞罪等流血ナキ方法ニ依テ死刑ニ處スルヲ得ルノ權利ヲ有ス、大頭目ハ病者孤獨者ヲ保護スルノ責務ヲ帶ブ、何人ト雖モ自由ニ其團體ヲ去リ他ニ加盟スルヲ得ト雖モ、然レドモ再ビ元ノ團體ニ復歸スルノ權利ヲ失ス、凡テ探掘シタル金ハ皆之レヲ大頭目ニ交付シテ各團體員ニ分與セララル、金礦ノ探掘方ハ、最モ簡易ナル方法ニ依リ、廣クシテ且ツ深キ穴ヲ開鑿シ、之レヨリ採取シタ

ル合金土ハ、一輪ノ手車ニテ、後壁全ク無ク前壁比較的側面ニ向ス桶内ニ運搬ス、若シ土塊ノ桶中ニ充塞スルニ至レバ、此桶ヲ水門ヲ以テ貯フル水中ニ入レ木篋ニテ之ヲ搔廻ス、此ノ如クスルトキハ金ハ其重量ニ依リテ器底ニ沈澱シ、土ハ水ニ溶解シテ泥水トナリ器中ヨリ脱出ス。金礦ノ所在地

現時ニ至ル迄滿洲ニ於ケル金礦所在地ノ著明ナルモノハ左ノ如シ。

第一、露領ニ接シタル地方

(一)舊「ツルハイ」邑ノ下流十二露里「アルグー」河ニ注グ「ガジ」河ノ支流「ウルガ」河ノ流域ニ

ハ其ダ好望ナル砂金地アリ、「ドウゴ」レーウエチ「氏」ノ旅行日記ニ露國ノ哈薩克兵ノ團體「ウルガ」河畔ニ於テ多額ノ砂金ヲ採集シツ、アリ云々ト。

(二)莫河水域ニ於ケル金礦ハ滿洲中最モ盛大ニシテ且ツ有望ナル礦區ナリ、其採掘ノ模範沿革等ハ後項ニ於テ之レヲ説ク可シ。

(三)「ブラゴウ」エンチエンスク「府」ノ附近「イグナ」チウスカヤ「邑」ノ對岸ニ於テ黑龍江ニ入ル「ハビラ」河畔ニ於テ、一千八百九十年ノ頃五百人ノ團體ヨリ成ル密掘者アリテ採集ニ從事シタリシガ、清兵ノ爲メニ掃討セラレ、現今該地ハ哨兵ニ依リテ警護セラレツ、アリ。

(四)黑龍江畔露領「ラツデ」邑ノ對岸ニ北金城ト稱スル金礦區アリ、清國政府ノ許可ヲ得タル個人

ノ資金ニテ經營セラル、三姓副都統ノ説ニ該礦區ニ使役スル礦夫二千餘人、一千八百九十四年ノ收額七十二布ナリ、松花江大呑河ノ會合スル所ヨリ該礦區ニ通ズル徑路アリ、蓋シ興安嶺狹條谷ノ黑龍江ハ其水流極メテ急劇ニシテ、「ジャンク」ノ往來極メテ困難ナルヲ以テ、滿洲内地トノ連絡ハ此徑路ニ依レリ。

(五)三姓市ノ東南二百露里舊古塔ノ管轄内ニシテ該市ヲ去ル殆ンド同距離ノ地ニ金礦アリ、該礦區ハ清國政府ガ草賊輩ノ採掘ヲ防衛センガ爲メ諸方ニ哨所ヲ設置シ、又極メテ之ヲ穩密ニ附スルヲ以テ、其何レノ處タルヤヲ知ル能ハズト雖モ、大佐「ブテヤ」タ「ノ説ニ依レバ、稔稜河ノ上流興凱湖畔「トウソ」、「ローグ」驛附近カ、或ハ「ウー」ジャン「河」(或ハ「ウー」コン「河」)ノ上流タルヤ疑フ可カラスト。

(六)綏芬河ノ谷地ニ於ケル金礦ノ所在地ノ著名ナルハ

(イ)王龍河ノ谿谷ニハ一千八百六十年度ノ末葉ニ於テ、大規模ヲ以テ經營セラレタル金礦區アリ、「バラ」バス「氏」ノ説ニ依レバ、一千八百七十四年ノ頃清人ハ之レヲ老金田ト稱シ、其事業ハ停止セラレタリト雖モ、其廣大ナル區域内ニ於テ諸方ニ礦穴堆土ノ散點スルノ狀、往時ノ如何ニ隆盛ナリシカヲ追想セシム、現時尙ホ地方ノ流浪者密カニ之レカ採集ニ從事スルモノアリト云フ。

(ロ)「バラバス」氏ノ説ニ、一千八百七十二年巴道河子河ノ流域老金田ノ東三十露里ニ於テ新金田開發セラレ、「モドシ」河ノ東方ニ於ケル農民ハ皆採金業ニ従事シメリ、然レドモ其産額著大ナラザリキ。

(ハ)上陳ノ如キ金礦ハ小綏芬河ノ谿谷ニ發見セラレ、一千八百九十五年ニハ採金業ニ従事スルモノ二百人アリタリ。

(七)圖們江支流ノ水域ニ存在スル金礦地ノ著大ナルモノハ左ノ如シ。

(イ)琿春河ノ流域ニ幾多ノ礦地アリ、「マテユウニン」氏ノ言ニ依ルニ、大概皆賤民ノ小團體ニ依リテ採掘セラレツ、アリト云フ。

(ロ)勸特河ノ谷地ニ於テハ、北京官報ノ報スル所ニ依ルニ、千八百九十三年ヨリ一千八百九十四年ニ至ル二箇年間、琿春ノ副都統某、礦夫數組ヲ使役シテ秘密ニ金礦採掘ニ従事シ、吉林市ニ商賈ヲ設ケ之レヲ賣却シツ、アリシガ、同氏ハ此事業ニ由リテ巨利ヲ博シ、軍事費トシテ一萬兩ヲ獻納シタリト云フ。

(ハ)「マテユウニン」氏ノ説ニ依ルニ、近時額木索ヨリ琿春ニ通ズル道路ニ沿ヘル三道溝ノ谿谷ニ於テ金礦地發見セラレ、一千八百九十六年政府ノ許可ヲ得、公然之レガ採掘ニ従事シツツアル者アリト雖トモ規模大ナラズ。

第二、松花江ノ水域

(八)「バラデー」氏ノ旅行日誌ニ曰ク、吉林ヲ距ル五百乃至四百五十清里、夾皮溝ト稱スル地方ニ畧百三十年間採掘ニ従事セル有名ナル金礦地アリ、其合金額ハ甚ダ富饒ナリト、又此金礦地ハ彼ガ滿洲ヲ旅行セル百年以前ヨリ大頭目ノ首領ヲ有シ、一定ノ規則ノ下ニ組織ヒラル、團體ニ依リテ採掘セラレ、團體員ハ主トシテ支那人ヨリ成リ、遠ク三千里ノ外ヨリ來ルモノアリト云フ、「バラデー」氏ノ旅行シタル當時ハ、採掘者ノ數一萬人ニ達シ、其團結甚ダ強固ニシテ志操ノ薄弱ナルモノハ絶對的ニ其加入ヲ拒絶シ、金礦探險者ハ皆銃器ヲ以テ武装シ、他ノ強奪的採金業者ニ對シ自己ノ礦區ヲ防護ス、地方官ハ是等ノ團體ノ優勢ナルニ辟易シ、之レヲ解散スルコト能ハズ、彼等ハ自己ノ位置ヲ強固ナラシメンガ爲メ、嘗テ左ノ手段ヲ取リタルガ如キコトアリ、即チ嘗テ夾皮溝ノ團體ハ己レニ反抗スル敵意ヲ有スル團體ニ出會シタリキ、該首領「ハオカ」絶倫自己ノ礦地ヲ蠶食スルニ至リシヲ以テ、密カニ吉林將軍ノ名義ヲ詐リテ招待狀ヲ認メ、其陣中ニ送リテ巧ミニ之レヲ誘出シ、以テ之レヲ包圍セシガ、當時吉林將軍ハ夾皮溝ノ團體ト協力セシヲ以テ、彼ノ團體ハ馬賊等ト聯合シタリシト雖モ、其數七八千人ニ滿タス、遂ニ大ニ敗走シタリ、此應援ニ依リ夾皮溝ノ大頭目ハ、頂兒(帽ニ戴ク珠)ヲ受領シ、其團體ハ政府ノ採金者テフ名稱ヲ付セラル、ニ至レリ。

金礦ニ於ケル勞働ハ團體者ノ共同事業ニ屬シ、大頭目ハ之ヲ各自ニ等分ス、金ハ吉本市ニ賣却シ、其價一兩ニ付一萬五千文ニ達シタルコトアリ、團體ヨリ分離シテ採掘ニ從事スルヲ希望スルモノハ之レヲ許可スト雖モ、大頭目ノ規定シタル法則ヲ遵守セザル可カラズ、若シ何等モ採集スルコト無キモノハ、大頭目無報酬ニテ之レヲ養フ、大頭目ハ、礦區ニ於ケル全主人公ニシテ、團體員ノ間ニ起ル爭論ヲ裁判シ、又病者ヲ保護ス、若シ團體員中清國行政官ニ捕ハル、コトアレバ、大頭目ハ其家族ヲ保護シテ後顧ノ患ヒ無カラシム、又礦區ニハ商舖ヲ設ケ各自ノ需要ニ應ス、「バラデー」氏ノ旅行シタル當時是等ノ商舖ハ總計十八個所アリキ。「マテユウニン」氏ノ説ニ依レバ、夾皮溝ノ礦區ハ實ニ其繁榮ノ絶頂ニ達セリ、而シテ斯ハ實ニ大頭目韓邊外ノ手腕ニ待ツモノ多カリキ、彼ハ幼ニシテ甚タ放蕩、父ノ怒ヲ蒙リ夾皮溝ヲ去ラザル可ラザルニ至リタルコトアリキ、後數年ヲ過キ三人ノ首長中ノ一トナリ、而モ彼ハ漸次其勢力ヲ己ノ掌中ニ收ムルコトヲ得、他ノ二人ノ首長ヲシテ、現時彼ガ設立シタル中央政廳ニ於ケル補佐役ヲシムルニ至レリ、後チ又韓邊外ハ漸次其勢力ヲ四隣ニ擴張シ、現時ハ松花江、穆離河ノ會合スル上流一帶ニ於ケル全松花江畔ノ事實上ノ主權者タルニ至レリ。現時ニ於ケル該團體ノ組織ハ大略左ノ如シ、中央政廳ハ韓邊外ノ選定スル二人ノ補助者ヨリ成ル、松花江ニ入ル各谷地ハ獨立的、一行政體ヲ組成シ首長韓邊外ノ任命スル總辦之ヲ統轄

シ裁判權ハ專ラ政廳ニ屬シ死刑ノ宣告ハ韓氏ニ依テ決定セラル、農夫ハ地稅ヲ韓氏ニ納入スト雖モ、韓ハ其半額ヲ吉林將軍ニ交付ス、商估、製造業者、職工等ハ、滿洲ノ他地方ニ於ケルガ如キ税金ヲ仕拂フ、團體ニ依テ、勞役ニ服スル採金業者ハ其產額ヲ政廳ニ收ムト雖モ、其二乃至三分ハ各自ノ所有ニ歸スルヲ得、殘餘ハ各自ノ希望ニ依リ銀或ハ手形ニテ之ヲ仕拂フ。韓邊外ハ好ク訓練セラレ且ツ武裝セル兵士ヲ有ス、其他各團體ニ區分シタル各區ニハ一定ノ兵員駐屯シアリ、必要ニ應ジ命令セラレタル地方ニ派出スルノ義務ヲ有ス。

吉林省ノ行政官ハ久シキ以前ヨリ是等團體ヲ服從スルノ意ヲ斷テ、將軍ハ常ニ韓邊外ノ大ナル贈物ニ依テ満足セリ、日清戰爭ニ際シテ韓ハ政府ニ應援シテ三個ノ精銳ナル軍隊ヲ送り、其孫ヲ長トシテ日軍ニ反抗セシメタリ「マテユウニン」氏ノ説ニ依レバ韓ハ此ノ如キ非凡ナル行政的才能ニ依リ、礦區ニ於ル諸種ノ人種ヲ、規律アリ整頓セル社會ニ糾合シ、其區域ヲ擴張シ能ク其秩序安寧ヲ保持スルコト、滿洲中管テ其比ヲ見ザル所ナリ、其德望亦甚大ニシテ其團體ニ屬セザル村民ノ乞ニ依リ、屢々兵ヲ送り、暴虐ナル地方官ヲ膺懲シ、以テ蒼民ヲ救助シタルコトアリ、現時韓ハ壽七十五ニ達シ、尙ホ鏗鏘タリ、彼ガ死後ハ其主權ヲ嗣子ニ讓ルト云フ。(九)掖肯河谷地ニ於ケル金礦ノ所在地ハ昔時ヨリ著名ナルモノニシテ三姓支隊ノ巡邏警衛スルニ係ハラス、尙ホ少數ノ密掘アリト云フ、一千八百八十九年吉林將軍長宋、三姓副都統ニ令シ

テ其採集額ノ一割ヲ行政費トシテ罰金的ニ徵收シ、其採掘ヲ放任セシメタリ。蓋シ其處置ノ實施セラレテヨリ密掘者ノ數著シク増加シ、掖青河ニ集ルモノ六千人ノ多キニ及ベリ、多數ノ支那人ハ浦鹽斯德、「ニコリスク」其他南部烏蘇里ノ諸地方ヨリ「トゥリロー」ヲ經テ此地方ニ入り込ムモノ踵ヲ接セリ、其數ハ明カニ之レヲ算定スルコト難シト雖モ、南部烏蘇里地方ヨリスルモノ毎年畧一千五百人ニ達セリ、彼等ハ常ニ數十人ノ隊伍ヲ組ミ、米占山子ノ哨所ヲ過ギ、穆稜河ニ依リ、老爺嶺ニ達シ、此レヨリ北折シテ掖青河ニ至ル、吉林將軍ガ此ノ如キ許可ヲ與ヘタルノ報北京ニ達スルヤ、三姓ノ副都統ハ其事情ヲ辯明スルガ爲メニ首都ニ召喚セララル、ト共ニ、政府ハ其採掘ヲ停止セシムルニ至レリ、當時採金勞働者ハ極メテ憐ム可キ悲境ニ沈淪シ、衛生ノ不良ナル礦區ノ勞働者ハ爲メニ腸窒扶斯亦痢病ヲ發生シ、一千人ヲ病歿セシメタル等ノ事情アリタル爲メ、北京政府ノ命令ニ依リ、三姓ヨリ派遣セラレタル軍隊ハ、大ナル抵抗ニ逢遭セルコトナクシテ之ヲ掃討スルコトヲ得タリ、而シテ礦區ヨリ追ヒ拂ハレタル者ハ陸續三姓市ニ入り、其附近ニ於テ盜賊ノ團體ヲ組織シテ吉林、寧古塔、呼蘭城地方ニ向ヘリト云フ。

密掘者ヲ掃討セルノ後チ、礦區ハ二箇月間三姓副都統ノ直接監督ノ下ニ二百人ノ雇人ヲ以テ之ガ採集ニ從事セシガ、總計六百四十五兩（一兩ハ我十匁許）ノ金ヲ採集シタルヲ以テ、中五

十兩之ヲ分析セシガ爲メ海軍省及ヒ北清地方ノ商店ニ送り、諸雜費百三十兩ヲ除キ、四百五十五兩ハ之ヲ將來ニ於ケル礦山業ノ準備金トナセリ、一千八百八十九年ヨリ掖青河ハ又密掘者ノ侵入スル所トナリ、一千八百九十五年「マテニウニン」氏ノ傳フル處ニヨレバ、五千人ノ多キニ達セリト雖モ、地方官ハ彼等ヲ追窮スル何等ノ手段ヲ施スコトナカリシト云フ、砂金ハ三姓ニ輸出シ商估ニ賣却セラル。

一千八百九十五年三姓市ニ入りタル砂金額ハ六十布ニ上リシガ、一千八百九十六年ニ至リ密掘ハ全ク阻止セララル、ニ至レリ。

漠河ノ採金會社長宋氏ハ吉林省ニ於ケル採金權ヲ得直チニ二千人ノ勞働者ヲシテ掖青河ノ採掘ニ從事セシメタリ、然レドモ採金器ノ完備セザル爲メ好果ヲ得ルコト能ハザリキ。

第三、鴨綠江、松花江ノ分水嶺ヲ組成スル長白山脈ノ一部ハ金礦地ニ富メリ。

(十)「ゼームス」氏ガ昔テ朝兒山老爺嶺間ニ横ハル地方ヲ過キリシ時、採金業ニ從事スル夥タシキ勞働者ニ出會シタリキ、彼等ハ歐羅巴人ヲ以テ清兵ノ來ルト誤認シ諸方ニ逃走シタリ。

「ゼームス」氏ハ遠征隊ノ一人「フリホルド」氏ガ、該遠征ニ於ケル密掘者ニ逢遇シタル當時ノ詳細ヲ書シテ曰ク、吾人ハ北方ニ向ヘル此旅行中、朝兒山ノ附近鴨綠江ニ注ク小支流ノ谷地ニ於ケル採金者ノ群ニ突入セリ、吾人ハ實ニ地方官ノ駐劄地タル朝兒山邑ヲ距ル十六哩、其採掘

ヲ禁止スル處ニ於テ、不意ニ八人ヨリ成ル密掘者ニ逢遭セリ、吾等ハ狹隘ニシテ羊腸ナル徑路ニ由リ車馬ノ音喧々トシテ進ミシカ、彼等我一行ノ近ヅクヲ知ルヤ、皆山林ノ間ニ逃走セリ、諸種ノ情態ヨリ之ヲ認定スルニ、採金者ハ最モ慙然ナル生活ヲ營ム者ノ如シ、此地方ニ於ケル金ハ砂土ヨリ成ル土壤内ニ含有セラレ、畧十呎ノ深サニ至ル迄鐵ヲ以テ之ヲ掘リ、小桶ノ中ニ入レ小川ヨリ通スル水溜ニテ洗滌ス、獸獵者ノ說ニ、此地方ハ實ニ糧食ヲ得ルニ困難ニシテ、殊ニ採金業者ノ如キハ辛ウシテ餓死ヲ免ルト云フ、獸獵者ノ採金業ニ從事スル者皆無ナルハ、主トシテ右ノ理由ニ因ル、然レドモ此地ハ採金業トシテ滿洲ノ他地方ニ比シ最モ好望ナリ。

(十)「ブリホルド」氏ハ朝兒山ノ西南程遠カラザル通化縣管内ニ於テ、「ミヤオエーケン」ト稱スル河畔ニ於テ金鑛ノ舊跡ヲ實見シタリ、蓋シ該鑛區ハ地方行政ノ普及スルニ及ビテ中絶スルニ至リシモノニシテ、二十年前以前ニハ支那ノ普通拙劣ナル採金法ニ由リテ採掘シ收穫甚タ乏シカリキ、其附近ニ銀鑛區アリ、然レドモ其採掘有望ナラス收支相償ハスト云フ。

第四、遼東半島

(十一)遼東半島ノ東部ニハ「ブテヤータ」氏ノ說ニ依レバ畢利河ノ流域ニ金鑛地アリト云フ。

(十二)「ゼームス」氏ノ說ニ依レバ大莊河ノ附近、チャンチュン」地方ニ廢積ニ屬スル金鑛アリ、該金地府ハ皮子窩ニ通ズル道路ヲ横斷スト。

(十三)齒賽馬集ノ南ニ金鑛地アリ其產額著大ナラス。

滿洲ノ採金業中最モ著明ナル漢河金鑛ノ沿革ヲ舉グレバ左ノ如シ。
 一千八百八十三年北滿洲ノ露領ニ接スル地方ニ於テ開設セラレタル露名「ゼルトウーガ」ト稱スル金鑛ノ名四方ニ赫灼タル所以ノモノハ蓋シ合金地層ノ豐饒ニシテ有望ナルニ依ルノミナラズ殖民地ノ興起組織ニ關スル原始的歴史ヲ有スルニ由ル。

第二節 「ゼルトウーガ」金鑛ノ詳況

ニシテ、該河流ニ於テ金鑛ヲ發見シ、其採掘ニ從事セル露人ハ此河ヲ「ゼルトウーガ」(黃色ノ義)ト稱名シタルニ起源ス、同河ハ源ヲ著大ナラザル山嶺ヨリ發シ、西南ヨリ東北ニ向ヒ、與安嶺ノ二個ノ並行セル支那ノ間ヲ貫流ス、此支脈ハ延長三十露里廣三露里ヲ有シ、高サ三四千呎、楡縱、樺樹ヲ以テ蔽ハル、「ゼルトウーガ」河ノ延長ハ二十五露里、廣サニ「サーシン」、水深半乃至一「アルシン」、河畔ハ一面沼地ニシテ交通甚々困難ヲ極ム、只冬期間ハ楡ノ交通稍ヤ便ナリ。

此地方ニ於ケル採金業ハ一千八百六十年露國哈薩克兵ノ爲メニ開設セラレ、爾來一千八百八十三年ニ至ル間、此地方ニ規模大ナラザル密掘行ナハレタリシカ、當時一人ノ「オロチヨン」人ハ

母ノ遺骸ヲ葬ラントテ該巖谷ニ幾多ノ金塊ヲ發見シタリ、露人「セレトキン」ナル者、之ヲ聞キ、礦山技師「レベドキン」氏ヲ派シ、勞働者ヲ率テ之レガ探險探掘ニ從事セシメタリシガ、其成績甚ダ良好ナルヲ見ルニ及ンデ、露境ノ少壯哈薩克ハ之レニ赴クモノ從テ多キヲ致スニ至リ、而シテ是等哈薩克ニ依リ未開ノ良金礦ノ開設セラレタル報諸方ニ傳ハルニ及ンデ、近隣ヨリ集リ來ルモノ亦甚ダ多ク、一千八百八十三年ノ六七月頃ハ其風聞已ニ全黑龍江、後貝加爾州ニ傳播スルニ至リ、短日月間ニ五千乃至七千人ニ達スル勞働者ヲ見ルニ至レリ、就中最モ多數ヲ占メタルハ露人ニシテ、西比利亞ノ諸地方ニ從事セル礦夫ノ逃走者、懲役人、勞働者ノ外尙ホ哈薩克、退役官吏、商人等アリ、之ニ次グ者ハ支那人ニシテ「オロチヨン」人、猶太人、佛蘭西人、和蘭人、亞米利加人、西比利亞土人亦之レニ次グリ。

該礦區ニ於ケル人口ハ終始變動シタルヲ以テ、其精細ナル調査ヲ遂グルコト能ハザリシト雖モ、勞働者ハ一千八百八十三年春ヨリ一千八百八十四年ノ初葉間ニハ俄カニ増加シテ、五千乃至七千人トナリ、一千八百八十四年間ニハ更ニ増加シ、一千八百八十五年ノ初葉ニ至リテ一萬人ヲ越エタリ、「スベリ」新聞ノ掲載セル處ニ依レバ、一千八百八十五年ノ一月ニハ其數一萬五千人内露人九千人清人六千人ナリシト云フ。

是等ノ礦夫ヲ養フ糧食ハ、初ハ露領兵村ニ於ケル哈薩克兵ニ依リテ供給セラレタレドモ、其人員

ノ愈々増加スルニ及ンデ諸方ヨリ幾多ノ商估來集シテ乾麵粉、肉、穀物、酒類、器具等ヲ輸入シテ商舖ヲ開キ其需要ニ應ジテ甚ダシキ奇利ヲ博スルモノアルニ至レリ、例ヘバ「ブラゴウエン」チエンスク「市」ニ於テ一布四留ニテ販賣スル牛肉ハ此地方ニ於テ十留乃至十五留ヲ價シ、二布三留二十哥ノ乾麵粉ハ十二留、一挺五留ノ斧ハ十二留、火酒一壺一留五十哥（通例五六十哥）蠟燭一斤四留（通例二三十哥）ノ價ヲ保チタリキ、此ノ如キ物價高貴ノ報諸方ニ傳ハルヤ、大ニ後貝加爾地方ノ商估住民ヲ賑起セシメ、「イルクツク」人ノ如キハ、或ハ家屋什器ヲ鬻ギ、諸種ノ製造品食糧等其他ノ商貨ヲ携ヘテ此地方ニ來ルモノアルニ至レリ、就中最モ多キハ「ウエルフチウ」ジンスク、「チルチンスク」殊ニ「チタ」市ノ府民ナリキ、一千八百八十四年ニハ三十ノ雜貨店、毎日二百乃至四百留ノ收入ヲ得ル諸種ノ興業店、娯樂所等百三十二達セリ、就中多クノ收入額ヲ得タルハ酒類ナリ、此地方ニ於テ紙幣ノ極メテ缺乏セルノ結果、皆金塊ニテ賣買セラレタリ、當時其價額ハ一定セズト雖ドモ要スルニ牛肉一布ハ金塊七「ゾロトニク」（「ゾロトニク」ハ我一匁一分除）ヲ價シ乾麵粉、火酒等皆之レニ準ゼリ、此ノ如ク貨幣ノ無キ結果ヨリシテ金塊ヲ以テ支拂フガ爲メ、便利ナル單位ヲ選定スルノ必要ヲ生ゼシガ、「ゾロトニク」ハ該礦區ニ於テ個數テフ名稱ヲ受クルニ至リ、其分數量ハ骨牌「マツチ」ヲ以テ計算セリ、即チ四個ノ骨牌或ハ九十六個ノ「マツチ」ヲ以テ「ゾロトニク」ニ代フ、而シテ商貨トシテノ金ハ金塊「ゾロ

トニク」ニ付キ三留五十哥ノ御合ヲ以テ賣買シ、買占人ハ大概子愛理市ニ於テ之ヲ「ゾロトニク」ニ付四留以上ニ交換セリト云フ。

商人ハ始メ専ラ「マラカン」人ノ掌中ニ歸シタリシガ、後優劣ナル猶太人ガ直接漢儀地方ヨリ有ラユル商貨、例ヘバ諸種ノ贅澤品、酒類、衣服、器具、銃砲、火藥其他ヲ「デクソン」商會ヲ經、汽船ニ搭載シテ「イグナ」シナ(漢河ノ對岸ニアリ)ニ輸入スルニ至レリ。

商店興業等ニ次ギテ、又諸種ノ投機者等相踵イデ來リ、幾多ノ大規模ナル旅館、其ノ他湯屋、麵麩製造所、遊戯店等設立セラレ、又戲術師、輕業師、俳優、樂隊等モ來集シテ、朔漠タル荒野ハ俄ニ喧嘩繁華ノ巷ト化スルニ至レリ、是等ハ規模大ナル木造ノ建築ナルガ、労働者ノ全部ハ斯ル贅澤ヲ極メタルモノニアラス、多クハ二列ノ街衢ヨリ成ル越年小屋ニ集合ス、コノ住家ハ丸太造リノ純然タル露國風ニシテ其數四百戸アリ、市街ノ中央ニ長キ一家屋アリ、「セルツ」ガ採礦事務所ノ看板ヲ掲ケ、其前ニ高キ鐘樓ヲ設ケ、鐘樓ノ兩側ニ大砲二門ヲ備ヘ、其前ニ砲彈ヲ積ミ、其右ニ耶穌教堂ヲ建テ、寺僧常ニ經ヲ誦シ、其左ニハ共同倉庫ト火藥穴倉アリタリ、又規模大ナル病院アリ、醫師ヲ聘シ藥局ヲ設ケ、病者ノ收容ニ便ニセリ。

該越年小屋ハ一萬人ノ住民ヲ收メ秩序整然タル一ノ社會ヲ組織セリ、其組織ヲ立テタルハ採金業ニ従事スル各住民ヲ統合スルニ出デタルハ勿論ナリト雖モ、又鑛地住民ノ一部タル不確實ノ

他種族ニ對シ有ラユル事業ニ於テ其一致及ビ團體的秩序ヲ愛スル露人ノ特性ヲ發揮シタルモノナリ、蓋シ此組織ハ此地方ニ種々ノ人種アリ、種々ノ企業ニ當ル外人ノ居住スルニ係ラス、只僅カニ露國人ニ依リテ創立セラレタリ、住民ハ初メ全ク婦人ノ住居ヲ禁止シタルヲ以テ皆男子ヨリ成リ、組ニ分レテ業務ニ従事シ、一組ハ十人乃至十五人ヨリ成リテ、一千八百八十四年及五年ノ冬季ニハ其數七百ヲ超過セリ、始メ労働者ノ數未タ増加セザル時ニ常リテヤ、鑛地ハ三區ニ分チ各區ニ一人ノ首長ヲ選ビ、無報酬ニテ團體ノ秩序ヲ保チ公共事務ヲ囑托セリ、首長ハ屢々草賊ノ來襲ヲ受ケ、團體ハ或ハ諸方ニ散亂シ、或ハ殺戮ニ逢遭スルコトアルヲ以テ、久シク其位置ヲ保ツ能ハズ、此ノ如キ場合ニハ又新タニ之ヲ選舉ス、首長ハ稍々輕小ナル事務ヲ裁決シ、其重大ナル事務ハ一般ノ議決ニ依リ之ヲ處理ス、該鑛地開掘ノ初期ニハ爭鬪、盜掠、其他種々ノ襲撃ニ出會シタルコト屢々ニシテ、嘗テ百人以上ノ逃亡因徒此地ニ侵入シタルコトアリキ、又労働者間ニハ賭博盛ニ行ハレ、労働ニ依リテ獲タル收入ヲ悉ク消失スルモノアリ、此ノ如クニシテ遂ニ紛争ヲ惹起シテ有ラユル罪惡ヲ犯シ紛亂止ム時ナカリシヲ以テ、其反應トシテ住民ハ地方ノ秩序安寧ヲ保持スルノ必要ヲ感ジ、自ら相警醒セザル可カラザルニ至レリ、一千八百八十四年十二月團體員中ノ料理人金槌ヲ以テ、甚ダ殘酷ナル手段ニ依リ殺戮セラレタリ、此椿事ハ大ニ團體ヲ刺撃シ、集會ヲ開始シ、六日間討議ノ末、鑛地ニ於ケル紀律秩序ヲ整

頓センガ爲メ一首領ヲ選舉シ、礦地及ビ其附近一帯ニ存在スル全住民ノ管轄權ヲ委ヌルニ決セリ、而シテ其選舉セラレタル人ハ森嚴自重公平無私ヲ以テ事ヲ處理シ、之ヲ「セルトウ」ガ「礦山首領ト稱シタリ、此ノ首領ハ新法規ヲ制定實施シタリシガ、其重ナルモノハ(第一)組合ノ組織、(第二)首領選舉法、(第三)社會ノ秩序紊亂ニ對スル苛酷ナル罰則是ナリ。

司法及ビ勞働規則 礦區ニ於ケル守兵屯營所ヲ五區(就中一區ハ支那人ヨリ成ル)ニ分チ、每區首領ノ補佐タル可キ監督二人ヲ選舉ス、而シテ是等ノ選舉セラレタル首領監督ニ依テ礦山事務所ヲ組織ス、月給ハ首領ニハ毎月四百留、監督ニハ二百留ヲ支給ス。

彼等ハ礦區内ニ於ケル行政、裁判ノ兩權ヲ掌握ス、首領ハ礦區行政及ビ重大ナラザル犯罪事件ニ對シ獨裁權ヲ有ス、區ノ監督ハ其區内ノ管理權ヲ有シ、又區内ニ於ケル重大ナラザル犯罪(百笞刑以下)ノ裁判權ヲ有スト雖ドモ、豫メ之レヲ首長ニ報告スルノ義務ヲ有ス、而シテ最モ重大ナル犯罪、例ヘバ殺人罪ノ如キハ住民總會ノ決議ニ依テ之レヲ裁定ス。

諸種ノ犯罪ニ對スル刑法ハ左ノ如シ。

殺人罪ハ「モーゼ」ノ法律ニ依テ之レヲ決定シ、其他ハ笞刑ヲ以テ罰ス即チ

盜掠ハ五百

姦通其他不義ノ犯罪ハ五百

泥酔シテ武器ヲ携帯セルモノハ五百

廢造ノ砂金ヲ使用セルモノハ五百

承認ナクシテ礦區ニ侵入スルモノハ五百

以上ノ犯罪ハ釘ヲ以テ打チ付ケラレタル棒ヲ使用シ殆ド死刑ト同等ナルモノナリ

勞働者ノ器具ヲ質入シタルモノハ杖刑三百礦山ニ婦人ヲ誘引シタルモノハ笞刑四百

夜中喧噪シタルモノハ杖刑二百

泥酔セルモノハ鞭刑一百

其他探掘場所ノ選定及ビ其境界ニ關スル規定アリ。

是等ノ規則ハ實地ニ適用セラレ、礦區ノ秩序整頓シテ生命財產ノ安寧トナリタルノ報、後員加爾地方一帯ニ傳ハルヤ、短日月ノ間ニ此地方ニ來リ集ル商賈三百ニ達シ、其他附近ノ村落ヨリ肉類其他ノ貨物ヲ輸入スルモノ續出シ、物貨ノ價額著シク低減スルニ至レリ、礦區ニ住スル商人ヨリ肉、麵麩ヲ除クノ外、其他ノ貨物ニ對シ、價額ノ一割丈ノ税金ヲ徵收シ、酒類ヲ販賣スルモノハ二割五分ヲ納メシメ、割烹店、娛樂所ヨリハ毎月收入高ノ二割ヲ徵シ、一時的商賣ハ全ク之レヲ禁止セリ、此ノ如クシテ徵收シタル金額ハ、探金業團體ノ一般ノ資本金トシテ、會計員ヲ選舉シテ之ヲ取扱ハシメ、毎月計算書ヲ造リテ之レヲ一般ニ報告セシム、團體員ハ何時ニ論

金礦地ハ「ゼルトウーガ」河ノ兩岸延長十二乃至十五露里、幅僅カニ二十乃至百「サーヂエン」ヲ出デザル濕土ノ澗谷ニシテ、上部ハ厚ク「アルシン」半乃至二「アルシン」半ヲ有スル、坭炭地層ヲ以テ蓋ハレ、其下ニ厚サ三乃至十「アルシン」ノ砂石ヲ混ズル粘土層アリテ、之レヨリ厚サ二乃至三「アルシン」ヨリ成ル合金砂層トナル、此地方ノ土壤ハ到ル處水氣ヲ含ムヲ以テ、其採掘ハ冬季土壤凍結シタル時節モ進捗スト云フ、嘗テ排水運河ノ計企セラレタルコトアリト雖モ、遂ニ實行セズシテ止ミタリ、採掘ハ皆正式ノ方法ニ依ラズ、凍結シタル土壤ニ穴坑ヲ穿テ、單純ナル採掘ヲナスニ過ギズ、即チ坑坑ハ長サ二「サーヂエン」幅二「サーヂエン」ニシテ其深サハ到ル處略オ相同ジ、始メ各坑坑間ノ距離ヲ六「サーヂエン」トナセシガ、後チ漸次縮小シタルヲ以テ「ゼルトウーガ」團體ノ規則トシテ三「サーヂエン」トナシ、每坑ハ其周圍一「サーヂエン」半ヲ限リ、他ノ坑區ニ及ブコト能ハザラシメタリ、而シテ該規定ニ背クモノハ二十五留以上ノ爵金ニ處ス、採掘シタル合金砂土ハ、夏季ハ馬背ニ依リテ「ゼルトウーガ」河ニ至リテ之レヲ洗滌シ、冬季ハ左岸ヨリ該河ニ會合スル泉流ヲ利用シ、或ハ石ヲ暖メテ鎔解スルナリ。

「ゼルトウーガ」ニ於ケル金礦ハ塊狀ヲナシテ存在シ、只屯營所ノ設立セラレタル「オルリイヌイ」ノ谷地ニハ平等ニ金ヲ含有スル廣大ナル砂層アリ、此地方ハ百布ノ砂石ヨリ最モ粗畧ナル洗滌法ニヨリ二十「ゾロトニク」ノ金塊ヲ產出ス、其他ノ場處ニ於テハ大概チ塊狀ヲナシテ諸方

ニ散在スト雖モ、其伏在所ハ豫メ表面ヨリ之レヲ認識スルヲ得ズ、天然的金塊ハ甚ダ稀レナリト雖モ時トシテハ甚ダ著大ナルモノアリ、「セメイスカヤ」組合ノ如キハ五「フント」ニ「フント」ハ我ガ百九(九餘)ノ金塊ヲ採集シタルコトアリ、塊狀ヲナシテ伏在スルノ結果、合金量最モ豐富ナル坑坑ハ全ク金塊ナキ坑坑ト併立スルコトアリ、「ゼルトウーガ」ノ礦區ハ百布ノ砂土中五「ゾロトニク」ノ金塊ヲ包含スルヲ以テ有利ナラザル採掘トナセリ、幸運ナル組合ハ一日百五十「ゾロトニク」ヲ採集スルコトアルモ、十乃至十五「ゾロトニク」ハ其通常ナルモノナリ、始メ該礦區ノ労働者未ダ數百人ニ滿タザリシ時代ハ、毎日三十「フント」乃至一布(我ガ四貫三百六十(九餘)ヲ採集シ、百布ノ砂土ヨリ一乃至二「フント」半ノ金塊ヲ採集シタリ、該礦區ニ於ケル金質ハ七十乃至九十金ナリ。

自由金礦成立時代(即チ一千八百八十三年春ヨリ一千八百八十六年ノ始ニ至ル)ニ採集シタル金ノ全產出額ハ之レヲ算定スルニ困難ナリ、其最モ多量ノ採集額ヲ出シタルハ一千八百八十三年ノ春及ビ一千八百八十四年ノ冬ニシテ、一千八百八十五年ニ至リテハ春秋ニ於ケル河水ノ漲溢及ビ露漕兩政府ノ干渉等ニヨリ衰退スルニ至レリ、然レドモ吾人ハ若シ一千八百八十五年ノ三月中、露國政府ガ黑龍江「アルグーニ」河ノ左岸ニアル哈薩克兵村「アマザル」、「イグナーシナ」、「ユナシノナヤ」、「ゴルビツア」其他ノ地方ニ於テ、偶マ「ゼルトウーガ」ノ礦地ヨリ出テ來ル者ノ

所有セル金塊ヲ官金ニテ「ゾロトニク」ニ付三留六十哥ニテ購求シタルハ、六十六布程アリタルニ徴シテモ、如何ニ該礦區ノ有望ナリシヲ想像スルニ足ル可シ、吾人ハ一千八百八十三年ノ秋ヨリ一千八百八十五年ノ春ニ至ル迄、百布ノ金塊ヲ採掘シ、及ビ自由礦區成立時代ニ於テハ總計五百布ニ達セシヲ想定スルヲ得。

然レドモ是等ノ金塊ノ一小部ハ労働者ノ手ニ殘留セラレタリシト雖ドモ、其大部ハ勿論貿易商酒商及ビ種々ノ投機者流ノ掌中ニ落テ、彼等ヲ經テ「ブラゴウエンチエンスク」府ノ對岸ニ設立セラレタル滿洲ノ大薩哈連島喇及ビ賣買城ニ住スル清人ノ手中ニ落テタリ、露國政府ハ該礦區ノ金塊ヲ買收セント欲シ、「チタ」、「ハバロフスク」ノ官吏ヲシテ「ゾロトニク」ニ付キ三留四十哥乃至三留ニテ買收セシメタリシガ、露國政府ノ規定シタル此低廉ナル價額ハ遂ニ大ニ成效スルコト能ハザリキ、何トナレバ薩哈連島喇ノ商人ハ之レヲ四留ニテ買收スルノミナラズ、該礦區内ニ於テ既ニ三留五十哥乃至三留八十哥ニテ賣買シ得ルヲ以テナリ、後チ「イグナトシナ」邑ニ於テ、金塊ヲ買收スル事務所ヲ設ケ、個人ノ賣買ヲ禁ジ、該邑ヲ通過スルモノハ悉ク之レヲ點檢シテ、若シ金塊ヲ所有セルモノアラバ、「ゾロトニク」ニ對シ、三留四十哥乃至三留六十哥ヲ以テ官沒セシメタリ、然レドモ不正ナル官吏輩ハ或ハ自ラ金塊ヲ竊取シ、或ハ高價ヲ以テ支那人ニ賣却シ、國庫ニ入ルモノ甚ダ少額ナリキ、此ノ如ク露國々庫ハ僅カニ沒收的方法ニ依リ

故郷ニ歸來スル労働者ノ所持セル少額ナル金塊ヲ收メ「マラカン」人ニ依テ購求セラレタル大部ハ皆清國ニ入レリ。

「セルトウーガ」ノ露國沿界地方ニ對スル影響

露國ノ境界附近ニ於テ「イグナトシナ」大邑ヨリ三十露里「アマザル」邑ヨリ二十五露里、此ノ如キ著大ナル金山ノ存在シタルハ沿界露領ニ影響スルハ勿論ナリ、況ンヤ其労働者ノ大部ハ露人ナリシニ於テオヤ、實ニ黑龍江ノ「カリホルニヤ」テフ名稱ハ全黑龍江、後貝加爾州一帯ノ地ニ傳播シ、幾千人ノ住民ハ諸方ヨリ此地方ニ來集シ、管ニ一定ノ職業ヲ有セザルモノ、ミナラズ、工業家、農民、私設礦山ノ労働者ニ至ル迄、此地方ニ入り來ルモノ踵ヲ接スルニ至リタル結果、露領ノ沿界地方ハ著シク労働者數ヲ減ズルニ至レリ、是ヲ以テ農耕業ヲシテ著シク縮少セザルノ止ムヲ得ザルニ至ラシメ、又哈薩克兵村ノミナラズ農村ニ至ル迄金礦熱ノ胃ス處トナレリ、露領私設礦山ニ於ケル労働者ノ如キハ、前金ヲ受取り乍ラ其義務ヲ履行セズシテ之レニ赴クモノ比々皆之レナリ、而シテ此莫大ナル團體ヲ養フ可キ食料品ノ需要ハ、又諸種ノ糧食ノ供給熱トナリ、穀物ハ其對岸四百露里ニ亘ル一帯ノ地ニ於テ、或ハ播種ニ要スル種子ヲモ殘サス全ク之レニ供給セラル、ニ至レリ、其結果必要物品ノ暴騰ヲ招キ、「チタ」府ニ於ケル牛肉ノ如キ當時、通例一布二留五十哥乃至三留二十五哥ヲ價シタルモノ、之レガ爲メニ五六週間内ニ五留五十

哥トナレリ、牛疫ニ際シタル時ト雖ドモ此ノ如キ暴騰ヲ呈シタルコトアラズ、「チルチンスク」市ノ如キハ最モ甚ダシク、牛肉一布五留二十哥、小麦一布二留五十哥トナリ、到ル處人ヲシテ凶獸ヲ危ブマシムルモノアルニ至レリ。

「ゼルトウーガ」鑛山ノ露領ニ及ボシタル此ノ如キ強大ナル影響ハ、實ニ露國地方行政官ヲシテ注意セサルヲ得ザラシムルニ至レリ、始メ採金業者ノ清領ニ入ルニ當リテヤ、露國政府ハ布告スルニ、露國臣民ニシテ「ゼルトウーガ」鑛區ニ至ルモノハ、露國法律ノ保護ヲ得ルコト能ハザルノミナラズ、清國政府ノ嚴罰ニ處セラル可キヲ以テセリ、然レドモ此布告ハ何等ノ効力ヲ見ルコト能ハザリシヲ以テ、黑龍江州ノ行政官ハ、該鑛區ニ於ケル労働者ノ濫溢ヲ停止スルノ策ヲ講ジ、新聞紙ヲシテ該鑛區ノ廢類及ビ労働者ノ大多數ガ悲境ニ沈淪セシヲ掲載セシメ、「アムール、カリホルニヤ」ノ附近ニ於ル哈薩克兵村即チ「アマザル」、「イグナーシナ」、「ユナシーナヤ」、「スビグレイワヤ」、「ゴルヒツア」其他ノ地方ニ採金者ノ渡航ヲ禁止シ、加之彼等ノ所持セル金塊ヲ相當ノ價額ヲ以テ官沒スルノ哨所ヲ設立シタリ、然レドモ是等ノ計企ハ皆其目的ヲ達スルコト能ハザリキ、一千八百八十四年該哨列線ノ設立ヲ委任セラレタル故ノ黑龍沿道總督「パロンコ」ラウイテゲンシテイン」公ノ發表シタル訓令ハ、労働者ノ「ゼルトウーガ」ニ入ルヲ禁止セリト雖モ、然レドモ該鑛區ニ住スル労働者ニ供給スル糧食ノ輸送ヲ制止セザリキ、其外ニ遞信省

ハ「ボグロウウスカヤ」驛ニ至ル沿道地方ニ馬匹ヲ供給スルヲ禁止シタリ、是單ニ該鑛地ガ此地方ニ於ケル多數ノ馬匹ヲ拉シ去リテ、郵遞業ニ影響スル所アリシヲ以テナリ。

此ノ如ク露國行政官ハ終始清領ニ於ケル露民ノ移殖ヲ防止シタルニ係ハラス、該鑛區ノ首領輩ハ益々事業ノ發達ヲ計リ、益多數ノ探掘業者ヲ招致セント欲シ、一千八百八十五年ノ初メニ當リ、團體共有ノ資金ヲ以テ、諸方ヨリ該鑛區ニ綿亘スル幽谷ニ探險隊ヲ派シ、此ノ如クシテ發見セラレタル地方ニハ、二千人宛ノ労働者ヲ派遣シ、以テ其鑛區ノ擴張ヲ計リ、更ニ又其事業ノ盛大ヲ期スルガ爲メニ、鑛區ニ於ケル資本案ニ布告スルニ、若シ自己ノ資金ヲ以テ探險隊ヲ組織シ、金鑛地ヲ發見シタルモノハ、直チニ其ノ探險隊ニ支給シタル經費ノ賠償トシテ、四箇年間其鑛區ヲ自己ノ所有ニ歸シ、自由ニ之レヲ探掘シ得ルノ權利ヲ與フルコトヲ以テセリ、但是等ノ鑛區ハ其持主ヲ通ジテ首領及ビ監督ノ支配ノ下ニ屬スル「ゼルトウーガ」鑛區ト密接ナル聯結ヲ付セシメタリ、該計畫ハ著々トシテ好成績ヲ表ハシ、諸方ニ鑛區ノ設立セラル、モノ續出スルニ至レリ、即チ(第一)「ゼルトウーガ」河ヲ距ル入露里「サボーデク」河畔ニアル、薄キ泥炭層ヲ以テ蓋ハル、合金地層ニシテ其金分ノ含密、ゼルトウーガ」ニ讓ラズ、(第二)二千八百八十四年十月露領「ビ、コーツヤ」驛附近ニ發見セラレタリ、然レドモ其探掘有利ナラザリキ、(第三)露領「スポテーナヤ」驛附近「クマル」河畔ニ在リテ延長一露里、幅百五十「サーヂエン」ノ廣袤ヲ

有スル甚ダ富裕ナル金鑛地、(第四)「アルバージン」驛ヲ距ル五十露里「ベイトノール」、「ベケット
 ーワ」兩驛間、(第五)「アルグーニ」河畔ニ於テ河ヲ距ル六十露里、(第六)「アルグーニ」河ノ支
 流「アラカン」河畔、ボクローウスカヤ」驛ヲ距ル百露里ノ地ニモ豐富ナル金鑛地發見セラレタ
 リ、該鑛地ハ「アルグーニ」河ニ依リテ糧食輸送ノ利アリ、探掘業ニ甚ダ便宜ナリシヲ以テ、一
 千八百八十五年ノ終ニハ此地方ニ集マルモノ八百人、而シテ十人ヨリ成ル組合ハ毎日二百五十「ゾ
 ロトニク」ヲ採集セリ、此地方ニ於ケル金塊ノ合蓄ハ甚ダ富裕ナルドモ多ク他金ト混合セリ。
 支那政府ノ「セルトウーガ」ニ對スル計企 以上ノ計畫ハ「セルトウーガ」ノ探掘業ヲシテ益々旺
 盛カラシメタリ、然ルニ此天然ノ富ヲ採收シツ、アル彼等ニ對シ、從來寛大ナリシ支那政府ハ遂
 ニ嚴酷ナル處置ヲ取ルニ決スルニ至レリ、蓋シ清國政府ハ是ヨリ先キ既ニ之レヲ思ハザルニア
 ラズト雖モ、唯地勢上其處置ヲ實行スルニ不便ナルト、露國當局者ト葛藤ヲ生ズルヲ好マザルト
 ニ由リ之ヲ決行セザリシノミ、愛理ノ副都統ハ屢黑龍沿道總督ニ公文ヲ送リテ兩帝國間ノ隣交
 ヲ修シ、清領ヨリ露國人ヲ撤退センコトヲ請ヘリ、然レドモ黑龍沿道總督ハ其請求ヲ以テ彼我ノ
 條約ニ戻ルモノトシ、清國政府ガ臨機ノ手段ヲ取り、露國政府ノ許可ヲクシテ、其境内ニ入リタ
 ルモノヲ放逐スルノ全權ヲ有スルモノナルコトヲ以テ之レニ回答シタリ、此ノ黑龍沿道總督ニ
 依テ呈出セラレタル自由行動ハ實ニ副都統ヲシテ困難ナル位置ニ立タシムルニ至レリ、蓋シ「ア

ムール、カリホルニヤ」ノ位置タル、愛理ヲ距ル五百露里ノ外ニアリテ森林鬱蒼トシテ繁茂シ、
 夏ハ濕澤ヲ成シ、冬ハ雪深クシテ、少數ノ軍隊ト雖ドモ容易ニ通過スル能ハザルヲ以テ、愛理副
 都統ハ黑龍江航行ノ開始(一千八百八十五年春)ヲ待テ、舟楫ノ便ヲ精リテ軍隊ヲ輸送セザル可
 カラザルニ至レリ、然レドモ愛理副都統ハ自國政府ヨリ其緩慢ナルノ責ヲ受クルヲ危ミ、速ニ軍
 隊ヲ送ラントシ、先ヅ測量隊ヲ派遣シテ地位ヲ調査セシメタルニ、意外ニモ此地方ハ黑龍根副都
 統ノ管領内ナルヲ發見スルニ至リタルヲ以テ直チニ該副都統ニ通牒スルニ、速カニ偵察隊ヲ派
 スベキヲ以テシタルニ、該副都統ハ畧百人ヨリ成ル歩兵隊及ビ三十六人ノ騎兵隊ヲ派出シタル
 ニ、同隊ハ一千八百八十五年ノ初秋黑龍江ヲ航シ、「イグナーシナ」邑ノ附近ニ屯營セリ、該派遣
 隊長ハ「セルトウーガ」ノ首領ト談判ヲ開始セント欲シ、先ヅ彼等ニシテ其事業ヲ視察スルヲ妨
 ゲザルトキハ、決シテ敵對ノ舉ニ出デザルベキヲ以テセリ。
 「セルトウーガ」ノ團體ハ之レヲ許可シタリ、派遣隊ハ「セルトウーガ」ノ武備ナキヲ看破シタル
 ヲ以テ退陣シタリ、此事件ハ蓋シ大ニ「アムール、カリホルニヤ」人ヲシテ驚駭セシメ、多數ノ逃
 走者ヲ出シ、加フルニ比年河水ノ氾濫スルアリテ業務ヲ妨グルアリ、是等ノ事情相湊合シタルヲ
 以テ勞働者ノ數過半ヲ減ゼリ、然レドモ河水ノ凍結シテ交通ノ便開クルニ及ンデ、又此地方ニ蝟
 集スルモノ踵ヲ接スルニ至リシガ、茲ニ該鑛區ニ於ケル最モ悲ム可キ時代ハ創始セラレタリ、他

ナシ當時後貝加爾地方凶賊ナリシガ爲メ、地方穀物ノ境外輸出ヲ禁止シタルヲ以テ、該礦區ニケル糧食甚シク高騰シ、乾麵麩一布十八留、黑麥粉七乃至八留トナリ、人民甚ダ困窘セシコト其一ナリ、然レドモ此禁令ハ十二月十六日ニ至リテ解除セラレ、穀物ノ輸送陸續開始セラレ、從テ採掘業モ復タ舉行セラレタリシガ、其際當業者ガ少シモ氣ツカザル間ニ強大ナル支那軍ハ既ニ「ゼルトウーガ」ニ向ツテ二道ヨリ進ミ、約二百ノ騎兵隊ハ「アルバージン」邑ヲ通過シ、二個ノ野砲ヲ有セル約一千ノ歩兵ハ「アルグーニ」河方面ヨリ進撃セリ、其ノ墨爾根ヨリ發シ、徐々トシテ「アルグーニ」河ノ豁谷ニ沿フテ進軍シタル一隊ハ、先ヅ「アラカン」河畔ニ於ケル採金業者ノ執業中ナルヲ窺ヒ、不意ニ之ヲ圍ミ、住民狼狽成ス所ナキニ乘ジ、凡テノ建築物ヲ燒燬シ、糧食ハ之レヲ奪掠シ、十五人ノ露人ヲ捕虜トシテ「ゼルトウーガ」ニ向ヘリ。

清國軍隊ノ「ゼルトウーガ」ニ著シタルハ、一千八百八十六年一月六日ナリシガ、同隊長ハ住民ニ對シ四日間ニ全ク此地ヲ撤退スルヲ命ジタリ、(後該期限ヲ以テ六日間トナセリ) 茲ニ至リ該礦區ノ已ニ我有ニ非ザルヲ信ジタル智慮アル露國人、及ビ清人ハ衆ニ先チテ潰散セシガ多クノ露人ハ、全ク清軍ノ意嚮如何ヲ知ラズ、單獨ニ退去セバ殺戮ノ不幸ニ逢遭センコトヲ恐レ、百名ヅツ九隊ニ分レ首領監督ニ率ヰラレ一團トナリテ引拂ヒタリ、而シテ彼等ハ五百ノ速射銃及ビ幾多ノ短銃ヲ所持シ大ニ警戒ヲ加ヘタリシガ、露人ハ「アマザル」ノ方向ヨリ退去シ、清軍ハ反對ノ

方向ヨリ「ゼルトウーガ」ニ進軍シタルヲ以テ衝突ヲ見ルニ至ラザリキ、支那ノ労働者ハ始メ旗旌堂々之レニ抵抗シタレドモ遂ニ敗走シタレバ清軍ハ其逃ルヲ逐フテ之ヲ殺戮シ其數三百人ニ達セリ。

「ゼルトウーガ」労働者ノ大部ハ清軍ノ未ダ來タラザル時ニ於テ礦區ヨリ逃走セリ、然レドモ只彼等ノ一小部ハ採掘シタル金塊ノ貯蓄ヲ故郷ニ持テ歸リタルニ止マリ、其大部ハ最モ哀ム可キ悲境ニ沈淪シ、夥多ノ商品ヲ所有シタル商估ハ僅カニ身ヲ以テ脱スルガ如キ比々皆然ラザルハナカリキ。

「ゼルトウーガ」ヨリ露人ノ撤退セル後チ、清人ハ悉ク屯營所ヲ燒滅シ露人ノ再來ヲ慮リテ五百ノ守兵ヲ駐屯セリ、而シテ清人ノ此ノ憂慮ハ實ニ無益ナラザリキ、其撤退シタル多數ノ労働者ハ、邊界地方ノ兵村ニ殘留シテ職ヲ得ルニ由ナク、甚シキ窘境ニ陥リタリシガ、遂ニ彼等ノ間ニ「ゼルトウーガ」ノ清人ヲ掃討シ、武力ヲ以テ之ヲ回復セントスルノ議熟スルニ至レリ、就中此計畫ノ實行ニ向ツテ畫策シタルハ「クレーテル」ト稱スル露人ニシテ、彼ハ嘗テ該礦區ニアリシ労働者ヲ集メテ二個ノ軍隊ヲ組織シタリ、其二百五十人ヨリ成ル一隊ハ「イグナーシナ」邑ヨリ進軍シ、四百人ヨリ成ル一隊ハ「アマザル」ヨリ進ミ、後チ二隊ハ合シテ一トナレリ、然レドモ彼等ハ大概子火器ヲ備ヘザリシヲ以テ、清人ト相對スルヤ「クレーテル」ハ何處ヘカ逃走シ、

全軍瓦礫スルニ至レリ。

此ノ如クシテ新「カリホルニヤ」或ハ「アムール」カリホルニヤ「テフ名稱ノ下ニ後貝加爾地方其
他附近ノ住民ノ腦底ニ刻マレ永ク其記憶ヨリ没却スルコト能ハザル」セルトウーガ「團體ハ終局
ヲ告グ、而シテ採金業ニテ容易ナル生活ニ慣レタル労働者ハ其舊業ニ復スルコト能ハズ、遂ニ
相率テ草賊トナリ、窃盜掠奪ヲ業トシ、地方ノ良民ヲ窘ムルニ至レリ、蓋シ此地方ニ於ケル
最モ慘澹タル時代ハ此時代ナリシト云フ。

「セルトウーガ」金礦ノ現状

一千八百八十八年直隸總督李鴻章ノ發起ニ依リ漠河(セルトウーガ)金礦採掘ノ爲メ二千萬兩ノ
資本金ヨリ成ル會社ヲ設立シ其資本金ヲ總計二千株(一株百兩)トナシ、支那固有ノ風習ニ從ヒ
一株ニ付キ年利七分ノ配當ヲ付シ、殘餘ノ純收入ハ之ヲ二十二等分シ、其中十ヲ以テ株ニ對ス
ル追加配當金トナシ、六ヲ以テ黑龍江省將軍ノ資金ニ供シ、殘餘ノ四ヲ以テ鑛務ニ從事スル事
務員労働者ノ賞與金トナスノ制ヲ立テタリ、又タ金匪防禦ノ爲メ五百ノ兵士ヲ漠河邑ニ駐屯セ
リ、然レドモ金塊ハ既ニ密掘者ノ爲メニ掘リ盡サレタル後チナリシコト、清人ノ採掘方法宜シ
キヲ得ザルコト等ヨリ事業ハ好望ナラザリキ、一千八百九十年ニ於ケル金ノ採集額ハ清人ノ説
ニ依レバ二十五布ナリシト云フ、採鑛事務所ハ官吏ニ費ヲ給シ滿洲ノ各地ヲ巡回シテ鑛夫ヲ募

集シ一組ノ鑛夫ハ事務所ヨリ給與セラル、器具ヲ用フ、十「オンス」ノ金塊ヲ採集スル時ハ其六
「オンス」ヲ自己ノ所有トシ四「オンス」ハ之レヲ事務所ニ納ム、而シテ永ク從事スル労働者ハ
月給トシテ十五留乃至三十五留ヲ支給セラル、労働者ノ食料ハ一箇月六留乃至八留ニシテ日用
品ハ會社ニテ之ヲ買入レ置キ、需要者ハ會社ヨリ之ヲ求ム、労働者ニ對スル待遇ハ極メテ嚴酷ニ
シテ體刑履行ハル、又適當ナル食料品、衛生事務ノ不完全ナルガ爲メ労働者ノ健康ヲ失シ諸種
ノ疾病ヲ發生シ、一千八百九十年ノ如キハ毎日五乃至十人ノ死者ヲ出セリ、鑛山ニ於ケル勞夫
ハ一千五百乃至二千人ニシテ、鑛山事務ハ漠河ニアリ。

該事業ノ創立者ハ直隸總督李鴻章ナルヲ以テ、鑛山ニ於ケル事業ノ總監ノ任モ亦同大臣ニ歸シ
タリシガ、李鴻章ハ道台李金袁ヲシテ之ヲ管理セシメタリ、李金袁ハ熱誠事務ヲ執リシト雖モ、
一千八百九十四年咯血病ニ罹リテ歿セシヲ以テ、袁某ヲ新ニ任命シタリシガ、氏ハ官金ヲ私シタ
ル等ノ罪ニ訴ヘラレ、近時趙勉ナルモノ其任ニ就キタリシガ、彼レハ好ク從來ノ亂雜ナル計算書
ヲ整理シ、之ヲ直隸總督王文韶ニ呈出シタリ、總督ハ趙勉ノ作リタル數字の報告ヲ骨子トシタル
一種ノ意見書、即チ該鑛山ノ國家ニ甚ダ利ナル所以ヲ北京京報ニ掲載シタリ、之ニ據ルトキハ千
八百九十五年ニハ有ラユル諸經費ヲ支辨シ、株主ニ配當シタル外、殘餘ノ純收入三十萬兩ニ達
シタリ、此金額ハ皆黑龍江省將軍ニ收メ該省ノ軍務費ニ充テタリト云フ、尙ホ此ノ如キ著大ナル

利益ハ王文韶ノ意見書ニ依テ之ヲ見ルニ、漠河ノ金礦ハ最近時ニシテ一千八百八十九年及比九十年ノ度ニハ黑龍江省ノ軍事費トシテ僅ニ九千兩ヲ支給スルニ過ギザリシガ、一千八百九十一年ニハ一萬五千兩、一千八百九十二年ニハ一萬二千兩、一千八百九十三年ニハ一萬五千兩、一千八百九十四年ニハ一萬八千兩ニ及ビタリ、是等ノ數字ハ漠河金礦ノ豐富ヲ示スモノニシテ、從來同礦ノ發達上ニ唯一ノ障礙トナリタルハ礦區監督官吏ノ私曲タルコト明白トナレリ。

近時清人ハ大ニ該礦區ニ於テ採集シタル金塊ヲ支那本土ニ送附スルニ安穩ナル方法ヲ講究スルニ至レリ、即チ滿洲ヲ經テ之ヲ輸送スルハ彼等ノ安セザル所ナルヲ以テ、清國政府ハ露國政府ノ許可ヲ得、黑龍江附近ノ礦地ニ於テ採掘シタル金塊ハ、露國政府ノ保護ノ下ニ「ブラゴウエニチエンスク」、「ハバロフスク」ヲ經テ浦爾斯德ニ送り、夫ヨリ海路ヲ經テ支那ノ港口ニ輸送ス。黑龍沿道州報（一千八百九十六年第一號）ノ報道ニ依ルニ、支那政府ノ觀音山、「ジャトーイン」及ビ「ヒルツツガ」ノ金礦ヨリ愛理城ニ輸送シタル金量左ノ如シ。

輸送票交付日	採金場	輸送地	積荷場所	荷卸場所	金量
一八九三年十二月七日	觀音山	愛理	ラツテ	愛理	六
一八九四年一月二十日	ジャトーイン				二
一八九五年二月廿八日	ゼルトウーガ		イグナシノ		三二七

一八九五年三月十一日 ジャトーイン

ラツテ

三三〇

第三節 採銀業

「ゼームス」氏ノ説ニ曰ク、通化縣市ノ附近ニ銀礦アリ然レドモ不幸ニシテ之レヲ踏査スルコト能ハザリシト、口碑ノ傳フル處ニ依レバ、昔時鐵嶺市ノ附近ニ當時銀州ト稱スル銀ノ採掘所開設セラレタリト、「マテユウニン」氏ノ傳フル處ニ依レバ一千八百九十年長白山脈ノ支脈布爾哈圖（圖們江ノ支流）河畔、琿春ヲ距ル百五十露里、老頭溝ノ附近ニテ銀鉛礦發見セラレ、當時株式會社ヲ組織シテ之ヲ採掘セシガ、其主ナル株主ハ吉林將軍、琿春副都統等以下諸官吏ニシテ李鴻章モ該礦成功ノ爲メ盡力スル所アリ、初メ二百人乃至三百人ノ礦夫ヲ使役シ、其日給露貨ニシテ四十五哥乃至七十哥ナリキ。

精良ナル器械技術ノ皆無ニシテ最モ幼稚ナル方法ニヨリ採掘スルヲ以テ、事業ノ成功困難ニシテ、穫ル所失フ所ヲ價フコト能ハザリキ、一千八百九十一年鑿岩機械及ビ二個ノ鉛礦爐ヲ輸入シタル時、勞働者ノ數五百ニ達セリ、當時機關ニ要スル燃料ノ問題起リタリシガ、數箇處ニ於テ石炭府發見セラレタルモ、其炭質甚ダ好良ナラザリシヲ以テ、折角輸入シタル機械ハ之レヲ活用スル能ハズ、礦坑ノ採掘甚ダ遅緩ナリシヲ免レザリキ。

第四節 鉛及鐵ノ採收

「リフトホーヘン」氏ノ説ニ賽馬集ノ南四十露里ノ地ニ幾多ノ鉛礦アリト、「ワリシイフ」氏ハ錦州府ノ附近ニ鉛礦坑アルヲ傳ヘリ、賽馬集ノ南ニハ又銅礦アリト。

滿洲ニ於テ金屬中最モ多量ニ採掘セラル、モノハ鐵ナリ、而シテ現時ニ至ル迄其產地ハ主ニ南部諸地方ニアリ、賽馬集ノ西南ニ位スル礦山山嶺ハ最モ富沃ナル礦脈ニ富ム、殊ニ最モ豐富ナルハ本溪湖ノ南三十露里ニ横ハル地方及ビ此レヨリ以南小水里、賽馬集兩邑間ノ間ニアリ、以上ノ三地方ニ至レバ磁石ニ依リテ容易ニ之レヲ認識スルヲ得、此地方ニテ採掘セラル、鐵礦ハ主トシテ諸種ノ鑄造物ヲ造ルニ用フ、鐵ハ又吉林市ノ附近ニ産シ、兵器製造所ノ材料ニ供セリ、又三姓市ヲ距ル三十露里牡丹江畔ニモ産シ、鑄造所アリテ多クノ器物ヲ造リ、遠ク「ハバロフスク」地方ニ輸出スルモノアリ。

「ウリホルド」氏ノ傳フル處ニ依レバ、通化縣ノ東三十露里ニ當リ「ロヂヤンケン」ト呼ブ谷地ニ於テ規模大ナラザル鐵工所アリ、其鐵礦ハ此處ヲ距ル十露里ニ横ハル山嶺ヨリ採掘シテ、石炭礦ノ存在スル處ニ設立セラレタル此工場ニ輸送ス、該坑ハ容易ニ六割乃至七割ノ鐵ヲ採取スルコトヲ得、工場ハ唯地方ノ需要ヲ充タスニ止マリ、其小部分ヲ奉天府（冬ノ途ニテ二百八十露

里）ニ輸出スト云フ。

第五節 石炭

石炭ハ滿洲ニ於テ多クノ地方ニ存在ス、然レドモ其採掘ハ現時ニ至ルマデ、主トシテ其南部地方ニ於テ行ナハレタリ、有名ナル石炭ノ産出地ハ

第一、遼東半島南部ノ西方ニ基布スル諸島嶼

第二、復州區内ニ於ケル「アダムス」港ノ沿岸ニ存在シ、其主層脈ハ五河水村附近ニシテ海水ノ深ク大陸ニ繋入シ來ル處ニアリ、「ジャンク」ハ直接ニテ礦坑ニ接近シテ之ヲ運搬シ得ルヲ以テ、清國ニ存在スル石炭礦坑中最モ便宜ナル位置ニアリ、然レドモ此地方ノ礦苗ハ其質好良ナラズ、南部滿洲ニ於テ採掘セラル、石炭中最モ劣等ナルヲ以テ、大ニ世人ノ注意スル所トナラズ、「リフトホーヘン」氏ノ説ニ依レバ、該石炭ハ其厚サ場處ニヨリ三呎ヨリ十二呎ニ變更スル幾多ノ層苗ヨリ成リ、炭質輕クシテ脆ク、採掘ノ際ニ殆ド細粉トナルト云フ、礦坑ヨリ直チニ「ジャンク」ニ積ミ入レ、一部ハ遼東ノ沿岸、一部ハ芝罘及ビ山東半島ノ諸港ニ輸送セラル。

第三、「リフトホーヘン」氏ノ傳フル處ニヨレバ、大連灣ニ著大ナラザル炭層アリト。

第四、大佐「ブチャータ」氏ハ岫巖州ノ管内大孤山港ノ附近ニ於ケル石炭層ヲ説ケリ。

第五、賽馬集附近ニ於テハ所々ニ石炭ヲ産出セリ、就中最モ重要ナルハ該邑ヲ去ル東五露里半、其中央平頂山ノ聳立スル廣大ナル窪低地ニアリ、石炭ハ厚サ三乃至五呎ヨリ成ル一個ノ層脈ヨリ成リ、採掘ニ際シテハ甚ダシク破壞シ去リテ大概チ粉炭トナル、其大部ハ地方ニ於テ骸炭ヲ製造ス、燃燒ニ際シテハ甚ダシキ煤烟ヲ生ズ、之レニ次グハ賽馬集邑ヲ距ル西北一露里及ビ南方十露里ニ在リ、然レドモ後者ハ炭質良好ナラズ。

第六、奉天ヲ距ル東南東百二十露里、小水里邑ヲ距ル七露里ナル泉水河ニ於テ、採掘セラルル石炭アリ、炭質重量大ナラズ、光澤ニ富ミ煤烟多シ、其一部ハ太子河ニ依リ遼陽市ニ輸出セラレ、或ハ遠ク營口ニ至ルモノアリト雖モ、其大部ハ地方ニ於ケル鑄鐵所ニ使用セラル。

第七、小水里ノ如ク太子河畔ニ位置シ、奉天府城ヲ距ル東南六十露里ニアル本溪湖ニ産出ス、該炭層ハ南滿洲中最モ著大ナルモノニシテ、「リフトホーヘン」氏ノ説ニ、該炭脈ハ五乃至六ノ府ヨリ成ル、炭質疎鬆ナルヲ以テ採掘ノ際粉末トナリ、燃燒ノ際煤烟多ク、且凝結スルノ性ヲ有スルヲ以テ、骸炭ヲ造ルニ使用セラル、其産額ノ大部分ハ小水里ノ如ク地方ニ於テ骸炭トナシ、鑄鐵所ノ燃料ニ供ス、又一小部ハ筏ニ搭載シテ遼陽ニ送り、此處ヨリ舟楫ノ便ヲ藉リテ營口ニ輸送セラル。

第八、本溪湖ノ西方四十露里馬家口ニ産出ス、然レドモ前者ニ比シ優大ナラズ。

第九、錦州府ノ西北二十露里紅里線、小黃雕兒、大齒雕兒ニアリ、炭質光澤ニ富ミ甚ダ好良ナリ、錦州府ニ輸出セラル、ト雖ドモ、交通ノ整備セザルヲ以テ、大概チ地方ニ於テ使用セラレ、又錦州ヲ距ル北方五十露里柳條邊城外、即チ滿洲ノ境土外ニアル白營子、七毛花口其他ニ産出ス。

第十、寧遠州ノ附近ニアル連山ノ北方十二露里「カンヨツ」附近ニアリ。

第十一、沙河所(寧遠ノ南)村ヨリ北方二十五露里「クシヤン」ノ附近ニアリ。

第十二、前衛城(山海關ノ東北)ノ北方五十露里、衛子口附近ニアリ、該府脈ハ直隸省ニ於ケル石門寨ト相隣ル。

第十三、「ノールス、チャイナ、ヘラルド」一千八百九十六年八月二十八日ノ報ニ曰ク、奉天ヨリ吉林ニ通ズル道路ニ沿フ鐵嶺城ト懿路村トノ間ニ、石炭礦脈發見セラレ、現時幾多ノ礦坑ハ開掘セラレ、多額ノ粉炭ハ地方ノ鍛冶等ニ供給セラル、ニ至レリ、蓋シ之レヲ開掘スル愈ヨ深キニ至ラバ、炭質堅固ニシテ且ツ良好トナルベキ徵候アリト、而シテ該礦脈ヲ距ル西方三十露里ノ地方ハ遼河ノ貫流スル平野ニシテ、殊ニ燃料ニ乏シキヲ以テ、必ズヤ近キ將來ニ於テ其事業愈々頻繁トナリ、遠ク營口地方ニモ輸出スルニ至ル可シ。

第十四、吉林附近ニ於ケル石炭ノ採掘ハ「ブテヤータ」氏ノ調査ニ依レバ、少クトモ十箇所ニ下

ラス、就中重大ナルモノハ吉林市ノ造兵廠及ヒ火藥製造所ニ於テ使用セラル、二箇所ニシテ、即チ(第一)伊通州市ノ附近、吉林府城ヲ距ル西南百二十五露里、(第二)吉林市ノ東六十露里、拉發河子、額木索ニ通スル道路ノ附近ニアリ、就中後者ハ其質好良ナリ。

第十五、一千八百九十六年七月北京報ハ、吉林府管下ノ地方ニ於テ礮山ノ探險ニ從事セル一人ガ、石沙河子ノ附近ニ於テ最モ有望ナル石炭ヲ發見シタル報告書ヲ掲載シタリ、現時探掘器械ヲ輸入スル爲メニ五萬兩ヨリ成ル組合ヲ組織シタリ。

第十六、北滿洲ノ東部ニ於テハ石炭府ハ圖們江畔琿春市ノ附近ニ在リ、然レドモ該礦脈ハ未タ探掘スル所トナラス、琿春市ニ於テハ其北方八露里拉巴河子ヨリ産出スル泥炭狀ノモノヲ燃料トシテ用フ。

第十七、「マテユウニン」氏ノ傳フル所ニ依レバ牡丹江ノ左岸、三姓市ニ對スル地方ニ石炭府アリ、然レドモ未ダ探掘セラレズ。

第十八、松花江ノ北方ニ於テ著明ナルハ、黑龍江ノ露領ヨリ會合スル「ブレーヤ」河口ノ上流二十露里ノ邊ナル、滿洲ヨリ該江ニ入ル「ウダガン」河畔ニアリ、「キルローク」氏ノ説ニ依レバ、該河ノ右岸及ビ黑龍江畔ニハ礮脈、地上ニ露出スト。

松花江畔ニ於テハ現時ニ至ル迄、石炭礦發見セラレズト雖モ、技師「クルリケイウイチ」氏ノ

説ニ依リ、該江上ニ露出スル地質ニ依テ之レヲ判断スレバ、必ズ該礮脈ノ延亘スルモノアラント。

第六節 硫黄

賽馬集、鳳凰城附近間ニアル南摩天嶺地方ニ硫黄ノ産地アリ、其他北滿洲、黑龍江市附近、「ウエンホルドンキ」地方ニ於テ、一千七百二十年及ビ一千七百二十一年ニ劇烈ナル噴火ニ伴フ地震アリタリ、土人ノ説ニ依レバ、昔時墨爾根市ノ北方及ビ東南ニ當タリ、硫黄山ト稱スル熄火山アリ、多量ノ硫黄ヲ産出セリト。

第七節 曹達

豐富ナル曹達ノ産地ハ嫩河及ビ松花江間ニ綿亘スル廣漠ナル平原殊ニ著大ナラザル湖ノ沿岸ニアリ、現今其採集ニ從事スル地方ハ齊々哈爾濱市ヲ距ル五十露里ニアリ、松花江ニ依リ南方ニ輸出シ、又陸路寬城子ニ至ルモノアリ、齊々哈爾濱市ノ下流百五十露里、嫩河附近ニ於テ又盛ニ之レガ採收ニ從事スル處アリ、此地方ヨリ冬季吉林地方ニ輸出セラル、モノ一萬布ニ達ス、此地方ニ於ケル曹達ノ蒸着及ビ結晶法ハ、先ヅ其採收セル曹達ニ水ヲ注ギ、充分ニ之レヲ清淨ナラ

シメ、而シテ之レヲ浸鹹セルノ後、普通ノ支那釜ニテ之レヲ蒸蒸結晶セシム、此ノ如クシテ砂岩石狀ヲ成セル固キ沈澱物ハ、之ヲ各八十斤ニ分テ、地方ニ於テ一斤三十仙（一千八百八十三年）宛ニテ販賣セラルト云フ。

第十二章 工業

滿洲ニ於テハ未ダ其規模宏壯ナル製造業成立セス、而シテ一般ノ工業モ其發達甚ダ微々タリ、是レ此地方ノ燃料及ビ建築材ノ不足ナルト、人口ノ稀薄ナルヲ證明スル者ナリ、穀物豆類ノ産出甚ダ多シト雖ドモ、其輸送困難ニシテ、運搬賃金高直ナリ、釀酒榨油事業ハ諸地方ニ行ハルルモ松花江ノ水域ハ最モ其業ノ發達セル所ナリ。

第一節 釀造業

釀酒業ノ中心點ハ白彥蘇々、呼蘭城ノ兩區域ナリ、前者ハ其規模大ニシテ一箇年ノ燒酎産額二千九百十六萬斤ニ達スルモノ十八箇所アリ、後者ハ一千二百八十萬斤乃至一千七百萬斤ニ達スルモノ三十六、雙城廳市附近ニハ三十乃至四十、伯都訥ニハ十箇處ノ釀酒所アリ、其他小規模ノ釀造所ハ到ル處ノ小村落ニモ設立セラル、規模ノ大ナル製造所ハ特別ナル家屋ヲ築造シ廻ラヌニ森林牆壁ヲ以テシ、武裝セル番人ヲ配布セル等、一見小堡砦ノ如ク、概テ幅帙スル商業地ニ設立セラル、然レドモ製造所ノ組織構造ハ、極メテ幼稚ニシテ、「アルコール」ノ多量ヲ空シ

ク消失スル不利アリ。

製造所ヲ組織スル附屬物ハ、醱酵穴及ヒ蒸籠ノ用ヲナス蒸溜器械ナリ。

醱酵穴ハ半家屋内ニ設ケラレ、幅一「アルシン」半、深サ一乃至二「アルシン」半、内部ハ板ヲ以テ之レヲ圍ミ、上部ヨリ、木造ノ蓋ヲ以テ之レヲ覆フ、一箇年七乃至九箱ノ燒酎ヲ醸出スルニ足ル、大テラザル製造所ニ於テハ、一個ノ醱酵所ヲ有スト雖モ大ナルモノハ數個ヲ有ス。

蒸溜器械ハ(第一)二個ノ釜(上部ニアルモノハ凝汽器ノ用ヲナシ下方ニアルモノハ蒸氣ヲ造ルニ用ヒラル)(第二)専ラ蒸溜器ノ用ヲナス可キ木製ノ桶(第三)蒸溜器ノ外側ニ設置セル別器ニ注入スル木製ノ蒸匙ヨリ成ル、蒸溜器ガ蒸籠ノ用ヲナスニハ此木製ノ蒸匙ヲ除クノミニテ、全部ヲ使用ス、下方ノ釜ハ普通支那竈ニ据エ、其上ニ木枝ヨリ成ル篩ヲ置キ、蒸籠ヲ其上ニ安置シ其下方ニ穴ヲ穿チ、木管ヲ以テ釜水ニ通ゼシム、滿洲ニ於ケル釀酒家ノ大部ハ一個ノ蒸溜器械ヲ有スルニ過ギズト雖モ、間々六個ノ多キヲ有スルモノアリ、白彦蘇々ニ於ケル最大ナル十入箇所ノ製造所中、半數ハ六個他ハ二個ヲ設備スト云フ。

燒酎製造ノ原料ハ第一高粱、第二小米子(粟)、第三小米子ト大麥トノ混合之レナリ、若シ小米子ト大麥トヲ混合セント欲セバ、大麥ノ量ハ小米子ノ四分一乃至二分一ニシテ、外皮ヲ除去シタルモノナラザル可カラズ、其法先ツ高粱或ハ小米子ヲ蒸籠ニ滿タシテ、下部ノ釜水ヲ沸騰セシ

メ、上部ノ桶中ニアル原料ニ向ヒテ蒸氣ヲ注入スルナリ、而シテ其全部充分ニ蒸熟スルニ至レバ、之レヲ桶中ヨリ出シ床上ニ擴ゲテ冷却シ、一樣ナル薄層トナシ、大麥ヨリ製シタル定量ノ酒母ヲ加フ、後チ酒母ガ普ク配布セラル、様ニ好ク攪拌シ、之レヲ醱酵穴ニ入レテ搗キ固メ土ヲ以テ蓋ヒ、土ノ上ヲ更ニ粘土ニテ塗り、終リニ醱酵穴ヲ木蓋ニテ覆フ、此ノ如クシテ放置スルコト十五日ニ至レバ、其蒸氣物ハ其間ニ酸化シテ酒精ヲ生ズルニ至ル、十六日目ニ醱酵穴ヲ開キ、蒸溜器ヲ滿タスニ足ル可キ蒸溜物ヲ取出シ、餘ハ又土ヲ以テ閉塞シ、抽出シタル蒸溜物ハ之ヲシテ團結セシメザランガ爲メ、床上ニ置キテ細末ナラシム、同時ニ竈ニハ通常蘆或ハ穀莖ヲ用ヒテ火ヲ焚ク、而シテ釜中ノ蒸氣愈盛ンニナルニ至レバ、細末ニ成シタル蒸溜物ヲ篩ニテ一樣ニ蒸溜器ニ振ヒ入ル、斯クテ特種ノ滴水ハ大ナル偏平木製ノ蒸匙中ニ落下ス、該蒸匙ニハ縫隙アリテ此ニ外方ニ突出スル把子ヲ付ス、把子ノ内部ニハ匙底ニ達スル鉛管アリテ、杯器ニ注入スル燒酎ノ暗渠ノ用ヲナス、杯器ハ其底ガ蒸溜物ニ抵觸セザル様ニ釣リ下ゲラル、又匙器ノ上部ニハ冷凝器タル可キ上部ノ釜ト、強固ナル連鎖タル可キ圓キ腹狀ニ造ラレタル枕ヲ置ク、冷凝器ハ燒酎ヲ點滴ヲ集注スルニ容易ナラシメシメガ爲メ、圓錐形狀ノ底ヲ有ス、蒸匙ノ下ニハ燒酎ヲ收受スベキ容器ヲ置ク、容器ハ常ニ燒酎ヲ溜ス爲メニ布ヲ以テ之レヲ蓋フ、而シテ上部ノ釜中ニハ絶エズ氷或ハ冷水ヲ注入ス。

下方ノ釜ヨリ上騰スル蒸氣ハ簡器ヲ通シテ、之レニ横ハル蒸溜物ヲ暖ムレバ酒精ハ蒸氣ト共ニ匙器ノ上部ニ上ボリテ冷却セル上釜ニ觸レ、凍冷シテ點滴トナリ杯器ニ落ツ、而シテ外部ニ突出スル把子ノ内部ノ管ニ入り、布ヲ通ジテ容器中ニ注入セラル、ナリ、若シ上釜ノ冷水温マルニ至レバ、之レヲ吸ミ取り、管ヲ通ジテ下釜ニ注入シ、上釜ニハ漸次雪或ハ氷ヲ追加ス、此ノ如クシテ蒸溜シタル蒸溜物ハ精溜器ヨリ之レヲ取出シ、床上ニ晒シテ冷却セシメ、酒母ヲ加ヘテ再ビ醱酵穴ニ入レ、放置スルコト十日ニシテ、第二回ノ蒸溜法ヲ行フ、時トシテハ第二回ノ殘精ヲ以テ三回ノ蒸溜ヲ行フコトアリ、此ノ如クニシテ得タル燒酎ノ強度ハ六十度ニ達シ、該酒ハ甚ダ醇力ニ富ムト雖ドモ、一種ノ油分ヲ含有ス、其油分ハ化學的分析ニ依レバ十五「オンス」ノ燒酎中二分「オンス」ヲ有スト。

燒酎ノ醱造ハ常ニ冬期ノ三箇月即チ十一月、十二月、一月ニシテ、一器械ノ蒸溜ハ畧七時間ヲ要ス、燒酎ヲ醱造スルニハ、粗器ニ挽磨シタル大麥ヲ以テ造リタル乾シ酒母ヲ用フ、其製造法ハ先ヅ之レヲ蒸籠ニ於テ適度ニ蒸シ、次デ之レヲ冷却シテ、醱酵穴ニ入レ、十三日乃至十五日間放置セルノ後、穴ヨリ取り出し、通例ノ硬瓦ノ如ク固メ、之レヲ乾カシテ家中ノ天井ニ貯蓄ス、酒母ハ大概チ四十五日間之レヲ乾燥シタルノ後使用セラル、滿洲ニ於テ使用セラル、燒酎ハ、莫大ナル數量ニシテ、黒龍江省地方ニ棲息スル土族ノ如キ、其氣候ノ苛酷ナルヨリシテ、之レニ

親昵スルモノ甚ダ多シト云フ。

滿洲ニ於ケル燒酎ノ小賣營業稅ハ、支那本土ニ於ケルガ如ク賦課セラレズ、唯釀酒所ガ各蒸溜器械ニ對シ、其ノ製酒ノ強度ニ應ジ毎年二百乃至五百兩ノ租稅ヲ支拂フノミ「マテユウニン」氏ノ傳フル處ニ依レバ、呼蘭城管區ニ於テハ各蒸溜器ヨリ毎年二百兩、三姓市ノ管區ハ三百兩、阿楚喀市ノ管區ハ三百六十兩、一千八百八十七年ニ於ケル呼蘭城管區ニ於ケル稅金ハ二萬三千八百兩ナリト云フ。

第二節 榨油業

榨油業ハ釀造業ト同ジク主モニ松花江ノ水域ニ集注セラル、即チ雙城廳地方ニ於テハ、三百箇ノ榨油所、白彦蘇々ニ於テハ五十乃至六十、呼蘭城市ノ全管轄區内ニ於テハ二百、伯都訥市二十、是等ノ各製造所ニ於テハ、平均一箇年一千擔ノ豆ヲ用ヒ、每擔ヨリ三十五乃至四十斤ノ油ヲ搾取スト云フ、白彦蘇々ニ於ケル一箇年ノ產出額ハ百七十五萬乃至二百萬斤ニシテ、呼蘭城ノ管區ニ於テハ七百萬斤ナリ、榨油ノ原料品ハ豆ノ外油豌豆及ビ其他雜穀ノ種子ヲ用フ、就中其首位ヲ占ムルハ荳蔻或ハ蘇子ニシテ之レヲ草油ト稱シ多ク食料ニ供ス、又麻種ヨリ搾取スル油ハ、食料或ハ燈火用ニ用フ、又蓖麻子油ヲ採取スル爲メ該植物ヲ栽培ス、此地方ニ於テハ油

ハ唯藥料ニ供セラル、ノミナラズ、燈火用或ハ食料ニ使用セラル、滿洲ニ於テハ凡テ油ヲ供給スルモノハ桃杏ノ核ノ如キモノト雖モ亦之レヲ利用スト云フ。

榨油業ノ課税ハ各壓搾器ニ對シ毎年一兩トス、滿洲内部ニ於ケル其設備ハ甚ダ幼稚ナルヲ以テ其產出又僅カニ原料ノ重量ニ對シ九分ノ油ヲ得ルニ過ギズ、油精ハ家畜ノ飼料ニ供シ、又肥料トシテ南部支那、日本等ニ輸出セラル。

醱酒及ビ榨油所ノ外滿洲ニ於ケル諸郡邑或ハ其附近ニ於テハ諸種ノ製造所アリ、然レドモ其產出甚ダ少ニシテ僅カニ地方ノ需要ヲ充タヌニ過ギズ。

第二節 其他諸種ノ製造業

煉瓦 滿洲ノ諸郡邑ノ郊外ニハ大概テ煉瓦製造所ノ設立セラル、ヲ見ル、蓋シ此地方ハ燃料ニ缺乏セルト氣候ノ寒濕ナルトヲ以テ主モニ煉瓦ヲ以テ家屋ヲ造營スルガ爲メナラン、然レドモ地方ニ於ケル家屋ノ屋根ノ大部ハ藁或ハ蘆ヲ用フルヲ以テ尙モ甚ダ盛大ナラズ。

各都會ニハ必ズ一個或ハ數個ノ陶器製造アリ甚ダ好良ナル器物ヲ製ス、該產物ノ中心點ハ、吉林ノ下流七十露里、松花江ニ會合スル石拉河畔ニシテ、幾多ノ製造所ヲ有スル莫大ノ陶器業者アリ、其陶器ハ諸方ニ輸出スト云フ。

毛皮精製 毛皮ハ主トシテ羊毛皮ニシテ、滿洲ニ於テ產出スルモノ實ニ莫大ナリ、即チ伯都訥二十箇所ヲ有シ、毎年ノ製出額九千乃至一萬枚又諸郡邑ニハ製革所アリ、此地方ヨリ產出スル革ハ靴製造ニモ適當スト云フ、伯都訥ニ於テハ毎年四萬反ノ白、灰、褐色等ノ厚羅紗ヲ產出スル十五個ノ製毛所、又駱駝ノ毛、牛毛ヲ混ズル羊毛ヲ以テ織出ス毛氈、一箇年一萬枚ヲ製出スル四箇ノ製造所アリ、其製品ニハ諸種ノ模様ヲ著色ス、此ノ地方ニ於テ製造スル毛氈ハ其ノ幅甚ダ大ナラズ、又タ極メテ柔軟ニシテ主モニ支那人ノ日用ニ供セラル、價ハ廉ナリト雖トモ強靱ナラズ。

紙 又該市ニ於テハ麻芥ヨリ紙ヲ製造スル四個ノ紙製造所アリ、此ノ如キ製紙所ハ他ノ郡邑ニモ多シ、好良ナル紙ハ吉林市、阿楚喀ニ産ス。

石材 齊々哈爾吉林市ニハ石造ノ煙草箱、烟管ニ用フル吸口等ヲ造ル工場アリ、是等ハ主トシテ黑龍江畔ニ於テ採收スル諸種ノ華美ナル石材ヲ以テ之ヲ造ル、其石質ニ依リ甚ダ高價ナルモノアリ。

鑄鐵及鉛礦所 三姓市ヲ距ル四十露里ニ鑄鐵所アリ諸種ノ支那什器ヲ造ル、又三姓市ニ露國ヨリ輸入スル銀貨ヲ溶解シテ混合金屬ヲ排除シ馬蹄銀ヲ造ル鑄鐵所アリ、其他鑄物師鍛冶等ハ到ル處ニ存在ス。

鳥喇 吉林及び其他ノ滿洲ニ於ケル都邑ニハ、支那本土ニ於テ見ザル鳥喇ト稱スル支那靴ノ製造所アリ、此靴ハ通常ノ一枚ヨリ成ル支那草ニテ作り形狭長ニシテ靴頭ハ其ノ裏皮表面ニ旋レリ、該靴ハ水分ヲ浸透セザルヲ以テ澤地山地ヲ旅行スルニ用ヒラレ、獸獵者ハ必ス之ヲ穿ツ、價廉ニシテ半兩ヲ出デス、之ヲ穿ツニハ鳥喇ト稱スル澤地ニ生ズル野草ノ根ノ乾キタルヲ入レ其内部ヲ柔和温暖ナラシム。

其他滿洲ニハ素麵澱粉ノ製造所アリ、後者ハ玉蜀黍ヨリ造ル、又馬力ニ依ル麥粉製造所ハ到處ニ存在ス、滿洲製作物ノ一部ヲ占ムルハ諸種ノ模造物ナリ、例ヘバ人、馬、家等ヲ扮擬スル板紙、又ハ大小諸種ノ獸類ノ木像ニ其毛色ニ扮シテ彩色シタル紙ヲ貼付セシモノ等ナリ、蓋シ是等ノ模造物ハ、各自親屬中ノ死者ノ紀念日ニ於テ之ヲ燃燒スルニ用フト云フ、又滿洲ニ於ケル製造業ノ主要ナル一部ヲ占ムルハ粗製木綿紡績ニシテ多ク賤民ノ間ニ行ハル、此木綿ハ地方産ノ綿ノ外、逐年此地方ニ輸入盛ナル印度産ノ綿絲ヲ用フ、又地方ニ産スル藍ヲ以テ之ヲ染ムルノ業モ亦口ヲ逐フテ盛ナリ。

小水里邑ニ於テハ石炭ト共ニ産スル硫化鐵礦ヨリ、硫酸鐵ヲ造ル規模大ナラザル工場アリ、硫化鐵ハ先ヅ之ヲ酸化セシメテ之ヲ碎キ、大ナル釜ヲ以テ煮ルトキハ、硫酸鐵ハ菓子「パン」狀ノ結晶體ヲナスニ至ル、該工業ハ最モ幼稚ニシテ不潔ナリ、製造所ハ人家ノ間ニ存置セリ。

第十三章 滿洲ノ交通及商業

第一節 運輸總説

地方ノ商業ヲシテ發達セシムルニ必要ナル要素ハ一ニシテ足ラズト雖ドモ先ヅ

第一、商貨運搬ノ安穩。

第二、運搬ニ要スル機關及ビ道路ノ完備。

第三、市場ノ情況ヲ傳達ス可キ文明的完整セル方法ノ廣キ利用等ナリ、然レドモ滿洲ニ於ケル是等ノ要素ハ、甚ダ寥々タル觀ナクンバアラザルナリ。

滿洲ノ諸地方ニハ、前條ニ於テ論述シタルガ如ク、馬賊ト稱スル盜賊ノ團體跋扈シ、地方官吏ハ彼等ニ對シ嚴酷ナル監視ヲナシ、或ハ之ヲ討滅スルガ爲メ多數ノ兵隊ヲ派遣シ、或ハ諸方ニ駐屯シテ警衛ノ任ニ當ラシムルコトナキニアラズト雖ドモ、毫モ其跳梁ヲ防止スルニ足ラザルヲ以テ、彼等ハ屢々村邑ノ民家或ハ商隊ヲ襲ヒ、劫掠ヲ盡クシ、諸地方ノ運轉之ガ爲メニ全ク停止スルニ至ル、一千八百八十八年ノ秋、露人「ルビーツ」氏ノ三姓市ニ在リシ際、當時地方ノ農耕業中作以上ノ秋穫アリタルニ關セズ、夏季馬賊ガ松花江畔ニ現ハレ、該邑ノ運輸ヲ全ク停止セシメ、穀物供給ノ途杜絶シタルガ故ニ日用品ノ價十割乃至二十割ニ暴騰シタルコトアリタ

リ、此ノ如キ状態ヲ以テ、商人ハ此地方特有ノ護衛ヲ付スルニアラサレバ、容易ニ商隊ヲ發送スルヲ得ズ、齊々哈爾濱、呼蘭城、愛琿等ノ諸都邑ニハ地方官ト雖ドモ屢々之レヲ利用セザル可カラザル護衛的嚮導者ヲ供給スル一種ノ保險會社ヲ設立セラル、ヲ見ル、即チ是等ノ會社ハ道路ニ熟セル者ヲ諸方ノ宿所ニ配置シ、其旅行ニ對スル一切ノ損害ヲ負擔スルノ責務ヲ有スルモノナリ、之レヲ要スルニ滿洲ニ於テハ商業上ノ一要義タル貨物輸送ノ安穩ヲ保持スルガ如キ制度ハ未ダ完ク整頓ノ位地ニ達セザルモノト云フ可シ。

第二節 陸運

滿洲ニ於ケル重大ナル運輸機關ハ北滿地方ニ於テ廣ク使用セラル、堅牢ナル二輪車ニシテ、六十乃至百八十布ノ貨物ヲ積載ス、又大興安嶺ノ山地、或ハ呼倫貝爾高原地方ニ於テハ、支那風ト稍其趣キヲ異ニスル蒙古車ヲ使用ス、該貨車ハ極メテ輕シト雖ドモ、然レドモ其組立強固ニシテ、細キ木造ノ車軸ニ附著セル一對ノ轆ヨリ成リ、高クシテ細キ車輪ヲ有ス、而シテ轆上ニ貨物ヲ搭載シ、枝條ヲ編ミタルモノヲ以テ之ヲ蓋フ、四十布以下ノ重量ニ堪フト云フ。

冬季降雪ノ多キ地方ハ橇ヲ用フ、支那馬車ハ常ニ五七乃至十二頭ノ馬或ハ騾ヲ付ス、騾ハ主トシテ旅客ノ輸送ニ用ヒラル、馱馬ハ重ニ騾、騾ニシテ駱駝ハ滿洲ニ於テ極メテ稀レニ之レヲ見ル、

貨物ノ輸送ハ主トシテ秋冬ノ二期ナリ、其ノ主要ナル原因ハ、滿洲ノ道路ハ春夏ノ二期降雨ノ爲メ泥濘トナリ、又河水氾濫シテ殆ンド其通行ヲ阻止スルニ至ルヲ以テナリ、又此ノ地方ニ於テ運輸業ニ從事スルモノハ春夏二期ニハ己ノ田畠ヲ耕サザル可カラザル農民ナルモ亦タ其ノ一源ヲズンバアラザルナリ、故ニ晚秋ヨリ早春ニ至ルノ間ハ、滿洲中殊ニ其穀倉タル松花江水域ト、遼河ノ水域及ビ遼東灣ヲ連結スル大道ニ於テハ、到ル處商業最モ繁盛ヲ呈シ日夜商隊ノ往來絡繹トシテ輪蹄絶ユルノ時ナク、夏季閉鎖スル幾百人馬ヲ容ル、ニ足ル旅店ハ此際悉ク開設セラル、ニ至ル、各旅店ニ於テハ冬季平均毎日三十布ノ豚肉ヲ消費スト云フ、營口ニ於テハ冬季毎日集リ來ル貨車ハ平均五百四十臺、之レニ附帶スル馬匹二千三百四十頭、百日間ニ於ケル穀物ノ輸送額六百萬布ニ達ス。

貨物陸送ノ價額

陸路運賃ノ價額ハ極メテ低廉ナリ、何トナレバ、第一住民ノ員數ニ對シ、地方ニ産スル食料品及ビ家畜ノ飼料甚多ク、從テ其價額低廉ナルト、第二農民ガ其農耕ノ閑散ナル秋冬期ヲ利用スルノミナラス、此地方ニ於テハ、冬季運搬業ノ外、適當ノ職業ヲ發見スルコト能ハザルヲ以テ相應ノ報酬ヲ以テ皆之レニ從事スルトニ由ル、此レ營口市ニ於テ、遠ク千里ノ外ヨリ、幾百萬布ノ低廉ニシテ莫大ナル商貨ヲ輸入スルヲ得ル所以ナリ、「グルレー」氏ノ說ニ依レバ、營口ヨ

リ伯都訥市ニ至ル運賃ハ一布ニ付キ一留ナリ、然レドモ之レヲ他地方ニ比較シテ、尙ホ高直ナリ、二十布ヲ搭載スル貨車ハ、齊々哈爾市ヨリ海拉爾ニ至ル四百七十七露里間ノ運賃僅ニ四兩ニ過キス、即チ一布ニ對シ僅ニ三十四哥ニ相當ス、海拉爾市ヨリ齊々哈爾ニ至ル歸路、是等ノ貨車ハ大概子運搬物ヲ有セス、常ニ徒ラニ空車ヲ驅リ來ラザルヲ以テ、車夫ハ只華客ノ指定スル價額ニ從ハザル可カラザルノ概アリ、此地方ニ於テ間々羊肉、牛皮等ノ輸送アリト雖ドモ一布八乃至十六哥ニ過キズ、「アンドルシチエンコ」氏ノ「ブラゴウエンチエンスク」府ニ於テ調査シタル滿洲諸道路ノ運賃表ヲ擧グレバ左ノ如シ。

- 吉林ヨリ伯都訥ニ至ル 一布十五哥
- 伯都訥ヨリ齊々哈爾ニ至ル 一布二十哥
- 齊々哈爾ヨリ墨爾根ニ至ル 一布十哥
- 墨爾根市ヨリ愛琿ニ至ル 一布二十五哥
- 伯都訥ヨリ呼蘭城ニ至ル 一布二十哥
- 吉林ヨリ營口ニ至ル 一布六十哥
- 吉林ヨリ寧古塔ニ至ル 一布四十哥
- 寧古塔ヨリ「ポルターウスカヤ」ニ至ル 一布二十八哥

寧古塔ヨリ琿春ニ至ル

一布三十哥

琿春ヨリ「ハンス」(ボセツト灣頭ニ於ケル露村)ニ至ル

一布十哥

琿春ヨリ露領「フンチンスキーボスタ」ニ至ル

一布八哥

「アガース」氏「滿洲ニ於ケル貿易關係」(Our Commercial Relations with Chinese Manchuria.)ノ一節ニ論ジテ曰ク、百八十布ヲ搭載スル二人ノ車夫ヲ付スル六頭ノ馬或ハ騾ヨリ成ル貨車ハ、一日一兩ニテ之レヲ履フトヲ得、而シテ此貨車ハ一日三十五乃至四十露里ヲ走ルヲ以テ、一布ニ付「露里ニ對スル貨物運賃」00016兩トナル、即チ一兩ヲ以テ露貨一留七十哥トス、ハ0027哥トナル、而シテ黒龍沿道週報ニ於テ、「ジノウイヤ」氏ガ論ジタル、滿洲ノ運賃ハ冬季一千兩里ニ對シニ兩半、即チ換言セバ五百餘露里三十五布ニ對シ四留二十五哥トナル。滿洲ニ於ケル乗客ノ輸送ハ之レニ比シ尙ホ甚ダ低廉ナリ、是等ノ目的ニ使用セラル、車ハ、貨物車ニ比シ輕ク、三頭ノ騾ヲ付シ、馭者ヲ除キ一人以上ノ乗客ヲ搭載セズ、其貨銀一日九十五哥ニシテ、一晝夜三十五乃至四十露里ヲ馳ス、即チ一露里ニ付キ畧二哥半トナル、滿洲ニ於ケル運賃ハ冬夏兩季ニ於テ差違アリ、夏季ハ著シク高價ナリ。

第三節 水運

貨車ノ便ヲ藉ル陸上ノ運輸業ニ比シ、水路ニ依ル貨物ノ輸送ハ、滿洲ニ於テハ尙ホ寥々トシテ、専ラ遼河、鴨綠江、松花江及ヒ嫩河等ノ水路ヲ利用スルニ過ギズ、一千八百九十五年「ジノウイヤ」氏ノ調査ニ依レバ、松花江、嫩河ニ於テハ二千布ノ積載力ヲ有スル「ジャンク」ハ、六百乃至七百隻ニ過ギズト、若シ是等ノ「ジャンク」ガ夏季三回ノ航運ヲ遂行スルト假定スレバ、畧四百萬布ノ貨物ハ水路ニ依リテ運搬セラルベシ、蓋シ近時ニ至ルマデ、地方住民ハ、此ノ如キ立派ナル天然的交通機關ニ對シ、注意ヲ拂フモノ少ク、松花江ノ如キハ呼蘭城、白彥蘇々、雙城廳、阿楚喀、賓州市等著大ナル商業の中心點ノ江岸附近ニ設立セラル、ニ係ハラズ、皆之ヲ等閑ニ付スルガ如シ、而シテ江岸ヲ距ル數十里ニ至レバ、互ニ水路ニ依ルコトナク、陸路ニ依テ相交通ス、吉林市ヨリ伯都訥市ニ至ル貨物ハ兩市ヲ連結スル松花江ノ水路著ルシク屈曲シ、又淺瀬アリテ貨物ノ積換ヲナサル可カラザルガ如キ理由ナキニアラズト雖ドモ、大概乎陸路ニ依レリ。

第四節 水路ノ運賃

水路ノ運賃ハ殆ンド陸路ト同額ナリ、奉天ヨリ營口ニ至ルニ布ノ輸送ニ對スル舟賃ハ、五哥乃至十二哥ニシテ、通江子ヨリ營口ニ至ル間(四百五十海里)ハ八乃至十五哥ナリ、「ジノウイヤ」

氏ノ調査ニ依レバ三姓ヨリ「ハバロフスク」市ニ至ル五百六十海里間、松花江ヨリ「ジャンク」ニテ輸送セラル、貨物ハ、百斤ニ付四十九乃至五十六哥、或ハ一布ニ對シ十五乃至二十哥、即一布一露里ノ運賃、三十七分一乃至二十八分一哥ナリ、白彥蘇々、三姓市間ハ、一布六七哥ハ「ハバロフスク」間ハ二十二乃至二十三哥ナリ、「アンドルシチエニコ」氏ノ調査ニ係ル、松花江ニ於ケル運賃ハ左ノ如シ。

- 墨爾根ヨリ黑龍江ニ至ル 一布ニ付四十哥
- 齊々哈爾ヨリ黑龍江ニ至ル 一布ニ付三十哥
- 呼蘭城ヨリ黑龍江ニ至ル 一布ニ付二十哥
- 白彥蘇々ヨリ黑龍江ニ至ル 一布ニ付二十哥
- 三姓ヨリ黑龍江ニ至ル 一布ニ付十乃至十五哥
- 吉林ヨリ黑龍江ニ至ル 一布ニ付八十哥

第五節 郵便及ビ電信

郵便電信ノ如キ文明ノ利器ガ、滿洲ノ商業ニ活用セラル、ハ、只營口ニ於ケル外國商人ガ依テ以テ歐羅巴、日本、其他支那本土ニ於ケル開港市ト相交通スルニ止マル、滿洲内地ノ商業ハ未

ダ此ノ如キ利器ヲ利用シテ各地方市場ノ情況ヲ相傳達スルガ如キコトアルナシ、地方ニ於ケル主要ナル道路ニハ、官用トシテ設立セラレタル郵便アリ、而モ商業社會ノ如キハ其餘澤ヲ蒙ルコト能ハズ、電信ハ其價額ノ甚ダ高直ナルガ爲メ、一般商人ハ之ヲ利用スルモノナキヲ以テ政府用ノ外ハ殆ンド何等ノ通信モ未ダ之レニ依テ傳達セラレズ。

第六節 商品稅

滿洲ニ於テハ又支那本土ニ於ケルガ如ク、商品ヲ其需要者ニ供給センガ爲メ、之ヲ輸送スル時ニ當リ、其商品ニ對シ諸種ノ税金ヲ徵集スルノ法律規定セラレ、アリテ、地方ノ商業ヲ阻礙スルコト少々ニ非ラズ、是等ノ税金ノ一部ハ中央政府ニ依テ規定セラレ、ト雖ドモ、其大部ハ完ク地方官ノ任意ニ依リテ徵集セラレ、時トシテハ地方長官ニ報告スルコトナク、又其認可ヲ得ルコトナシ、是等ノ税金中先ヅ營口港ニ於テ規定セラレタル條約ニ基ツキ、各國ニ輸出シ或ハ各國ヨリ輸入スル商品ノ價額ヨリ五分稅ヲ徵收スル特別關稅ヲ論述スルノ要アルヲ見ル、該關稅或ハ輸出入品稅ハ、又支那本土及ビ朝鮮滿洲貿易ニ對シ、海路或ハ陸路ニ依ルトヲ論ゼズ制定セラルト雖モ、其價額ハ一定セズ、而シテ輸出入稅ハ朝鮮境上鴨綠江畔ノ九連城、山海關等、ジャンク」ノ到來スル凡テノ埠頭ニ於テ徵收セラレ、直隸省ト接壤スル柳條邊境ニ於テハ、所

所ニ稅關設置セラレ、又タ關稅ハ密國ト接壤スル諸要所ニ於テモ徵收セラレ、就中琿春市ノ如キハ一般商人ノ提出スル價額ノ一分一厘稅ヲ課ス、而シテ或ル數種ノ物品ハ左ノ額ニ依ルモノアリ。

煙草及ビ大麻	百斤ヨリ	十五哥
豆油	百斤ヨリ	十七哥半
麻油	百斤ヨリ	十二哥
酒母	百斤ヨリ	五哥
羊、豚	一頭ヨリ	四哥
牛	一頭ヨリ	一留五十哥

松花江ニ於テモ亦稅關設置セラレ、該江ヲ下リ露領ニ輸出セラレ、商貨ヨリ税金ヲ徵收ス、之レハ三姓市ノ下流十二露里ノ馬陽門村ニ對スル江流ノ島嶼中ニアリ、一千八百八十一年ノ設立ニ係カリ、三人ノ官吏二人ノ書記アリテ、商貨ヲ積ンデ下流ニ至ル「ジャンク」ヨリ税金ヲ徵收ス、物貨ヲ無稅ニテ通過セシムル權利ヲ有スルモノハ、三姓布得ニ於ケル官吏及ビ「ゴリド」「ギリヤーク」人等ノ土族ガ、専ラ自家用ノ糧食ヲ輸送スルモノニ限ラル。

松花江ニ於ケル稅率ハ左ノ如シ。

商貨ノ名稱	百斤ニ對スル税金	
	吊	文
燒酎	—	六
煙草	—	六
稷	—	八
高粱	—	八
豆類	—	八
小麥粉	—	二
小麥	—	二
豆油	—	二
菜油	—	二
家畜ノ油	—	二
大麻	—	六
鹽	—	五

鯨魚ノ軟骨	—	—
絹製ノ衣服(シチン製)	—	—
榲木ノ菌	—	八
傘紙其他	—	二
砂糖類	—	二
毛製ノ鞍褥	—	二
駱駝ノ毛ヨリ成リタル毛氈	—	二
索類	—	八
曹達	—	八
鐵、銅、錫等ノ器物	—	八
醬油	—	五
南京豆	—	五
普通綿衣	—	二

絹製ノ衣服絲其他	八	二百五十
絹 布	十八	八十

該税金ハ三姓市ノ副都統ノ管轄ニ屬シ國庫ニ納ムルモノナリ、該税關ノ設立セラレタル歲ハ四千八百吊ノ税金ヲ徵收シタリシガ、現今各年ノ收入一萬二千乃至一萬五千留ノ間ニアリ、其他税關吏ハ密カニ船主ヨリ八百乃至三百留ノ税金ヲ收メテ之レヲ窃取ス、松花江ニ依リ露領ニ出稼スル勞働者ハ、三姓市ニ於テ旅券ヲ受ケ、一留十哥ヲ仕拂フ規定アリ。

第七節 厘金稅

其他滿洲ニ於テハ支那本土ノ如ク厘金稅ナルモノアリ、柳條邊境ニ沿フテ設立セラルル墻門ニハ此目的ヨリ成ル屯所アリテ厘金ヲ徵收ス、其他滿洲ノ各地方ニモ亦タ厘金局アリ、「バラバス」氏ノ傳フル處ニ依レバ、吉林地方ニ輸入スル人參其他藥根、菌、乾海參、昆布、乾蠶等ハ市價ノ二分四厘ヲ厘金稅トシテ徵集セラルト云フ。

又之レト同性質ノ税金ハ滿洲ノ各地方ニ於テ徵收セラル。

第一、伯都訥市ニ於テハ穀物ヲ「ジャンク」或ハ荷車ニ積載スルニ際シ、一斗ニ付六文ヲ徵集ス、
 第二、又該市ヨリ各地ニ出發スル「ジャンク」ニハ、水夫一人ニ付、一吊ヲ支拂ハシム。
 第三、呼蘭城ニ於テハ松花江ニ依リ、下流ニ至ル「ジャンク」ヨリ、穀物百擔ニ對シ、六吊（一留四十六哥）ヲ徵收ス。

第四、三姓市ニ於テハ、「ジャンク」ノ碇泊料トシテ、一隻ヨリ一吊（五十二哥）ヲ徵收ス。
 其他吉林省、黑龍江省ノ各都邑ニ於テハ、貨物ノ發送及ビ市場ノ到來ニ對シ、一包ニ付十文ヲ仕拂ハシム、呼蘭市ニ於テハ冬季貨物ヲ積載セル貨車ニ對シ、市街ヨリ出發スル前ニ四百文ヲ徵收ス。

又都會ニ於ケル税關所ノ番人ハ、各貨車ヨリ稷藥ノ一握或ハ穀物ノ一握ミヲ請求スルヲ得ルノ風習アリ。

一千八百九十五年一月奉天將軍ノ奏文ニ依テ之レヲ見ルニ、奉天省ノ厘金局ニ於テ徵收シタル税金ハ、茶ヨリ五百二十七兩、其他ノ諸商貨ヨリ六十四萬〇八百九十吊（各百六十文宛）ナリ。其他物品ノ賣却ヨリ徵收スル税金アリ、斯ハ主トシテ購買者ヨリ支拂ハル、是等ノ稅率ハ即チ左ノ如シ。

第一、不動産即チ地所家屋ノ賣買ニ對シ滿洲人ハ賣價ノ三分、支那人ハ五分。

第二、家畜即チ大ナル家畜馬騾ノ賣却ハ賣價ノ三分、然レドモ獨リ呼蘭城ニ於テハ六分ヲ仕拂
フ但シ釀酒所ニ於テ所有スルモノハ此限リニアラズ。

一千八百八十七年度家畜ヨリ徵收シタル税金額ハ

海拉爾管轄内

二千三百兩

呼蘭城管轄内

一千二百八十兩

齊々哈爾管轄内

八百兩

墨爾根管轄内

六百二十五兩

愛理管轄内

七百二十兩

第三、雜貨及ビ生産物ハ其價額ノ一割ヲ徵收ス、呼蘭城ニ於テハ、穀物ハ一袋ニ付六十文、毛
皮或ハ製革ハ一個ニ付三十六文、是等ノ税金ハ一千八百八十七年ニハ

齊々哈爾管轄内

一千二百二十兩

呼蘭城管轄内

一千百九十兩

又滿洲ノ或ル都邑ニ於テハ、其使用スル尺度秤ニ對シ、三年毎ニ、政府ノ檢印ヲ受クル爲メ、
五兩ヲ納ムル所アリ。

第八節 政府ノ交渉

上陳シタルガ如ク、獨リ中央政府ノミナラズ地方長官ニ至ルマデ、往々其稅額ノ如何、或ハ時
トシテ其地方ニ於テ成立スル多クノ税金ノ名目如何ヲ認識セザルモノアリ、滿洲ニ於ケル地方
官ハ、又々支那本土ニ於ケルガ如ク税金ヲ以テ自己收入ノ一ト視做ス、商估ニ對シテハ地方官
ノ意思ハ即チ法律タリ、斯クノ如キ不規律ハ實ニ地方ノ商業ヲ萎靡スル少クニアラザルナリ、
一千八百九十五年「ハッロフスク」ノ商人「バグダーノフ」、清商紀鳳泰ト共ニ物品購求ノ目
的ヲ以テ、松花江遠征ヲ試ミ、先ヅ呼蘭城ニ上陸シ、副都統ヨリ三千布ノ穀物及ビ小數ノ家畜
ヲ購求スルノ許可ヲ得、之レガ購買ヲ市ノ大商估ノ一人ニ依頼シタリ、然レドモ彼等ハ進ンデ
伯都訥ニ至リ「ハッロフスク」府ノ歸路、商品ヲ受取ラン爲メ、再ビ呼蘭城ニ立チ寄りシガ、何
ンゾ圖ラン、先キニ露人ノ出發スルヤ、副都統ハ其購求ヲ依托セラレタル商人ヲ呼ビ、露人ニ
對シ何物ト雖ドモ賣買スルヲ禁ズル旨嚴命シタルガ故ニ、其依托ハ空シク遂行セラレザリキ、
「バグダーノフ」、紀鳳泰ハ此ノ專制的妨害ヲ怒リ、副都統ニ書面ヲ送り、如上ノ處置ヲ取リタ
ル説明ヲ求メ且ツ其處置ニ依リテ起リタル損害ヲ舉グ直接吉林將軍ニ訴フル所アラシムヲ以テセ
リ、茲ニ於テ副都統ハ露商ノ頑強ニシテ威嚇ノ功ヲ奏セザルヲ悟リ、一時間ヲ經ザルニ、部下

ヲ遣ハシテ、其購求ヲ許可セルヲ報ゼシノミナラズ、又當時其價額ノ一倍半以上ニ騰貴シタルニ拘ハラズ、露人ノ初メテ來著シタル當時ノ價額ニ於テ賣却ス可キヲ凡テノ穀物商ニ命ジタリ云々。

此ノ如キ專制放恣ノ著ルシキ例證ハ一ニシテ足ラズ、伯都訥ニ於ケル肉類ノ賣買ニ付キ、地方ノ副都統ガ確實ナル報酬ヲ得ンガ爲メ、只一ニノ蒙古人ニ許可セルハ露人ノ親シク實見セル所ナリ、又呼蘭城ニテハ肉ノ賣買權ハ副都統自ラ之レヲ握リ、全ク他人ノ本業ニ從事スルヲ嚴禁セリ。

吾人ガ若シ上陳シタル所ノ外、尙ホ滿洲住民ノ大部ガ極メテ貧窘ニシテ、其購買力ノ甚ダ微少ナルニ思ヒテ回ラセバ、吾人ヲシテ滿洲ニ蟠マル一般外部ノ情態ハ、未ダ地方ノ商業ヲ開發スル能ハザラシムル所以ヲ首肯セシム。

第九節 商業組織

滿洲ニ於ケル商業ハ主トシテ熱達セル商的手腕ヲ以テ支那全土ニ鳴渡ル山西省地方ヨリ來レル支那人ニ依リ組織セラル、彼等ノ卓越セル特性ハ、非常ナル大膽、老實、沈著、並ニ理財ニ長ズルコト、互ニ相連合シテ結社ヲ組成スルニ機敏ナルコト是レナリ、滿洲ノ商舖ニ至レバ其店

務ニ從事スルモノハ山西省人ナラザルナシ、各商店ノ番頭ハ一箇月一留以下ヲ受クル十二乃至十四歳ノ小兒ヨリ勤上ケタルモノニテ、給料ノ増加ハ甚ダ遲緩ナリ、十年ヲ經テ僅カニ一箇年八十乃至百留ニ過ギズ、又己レノ能力ニ依リ常ニ主人ヨリ利益ノ配當ヲ受クルニ至レバ、一定ノ給料ハ停止スルニ至ル。

政府ヨリ規定シタル商業保護ニ關スル法律ナキヲ以テ、滿洲ノ商人ハ支那本土ニ於ケルガ如ク、互ニ自治體ヲ組織シ自ラ規則ヲ定メテ、自ラ相違奉シ、以テ有ユル商業的階級團體ノ信用ヲ破ルガ如キ惡習、欺騙等ヲ防遏ス、例セバ「バグダ」氏ノ傳ル所ニ依ルニ、三姓市ニ於テハ三十二戸ノ商店ヨリ成ル組合アリテ、毎年其商的團體ニ關スル問題ヲ決スル四人ノ役員ヲ選舉スルガ如キハ、其適例ニシテ、是等三十二ノ商店ハ各自所有セル現金額ノ半額ヲ限リ、諸種ノ價額ヲ有スル信用手形ヲ發行スルヲ得ル權利ヲ有ス、團體ハ役員ノ議決シタル規定ニ對シ絕對的服從ノ義務ヲ有ス、又役員ハ團體ト副都統或ハ其地方官トノ間ニ關スル一切ノ事務ヲ處理ス。都會ニ於ケル商業ハ、常ニ互ニ相申牒シテ合同スル若干ノ大商館ノ掌中ニアルヲ以テ地方物品ノ價ハ全ク彼等ノ意嚮如何ニ依リテ隨意ニ之ヲ決シ、地方官ト雖ドモ反抗スルコト能ハズ、「バグ」氏ノ「バグ」氏ノ説ニ、一千八百九十五年夏彼ハ伯都訥ニ在リ、翌日穀物家畜及ビ其他ノ商貨ヲ購求セントシタリシガ、該市ノ商估ハ凡テ等シク其價額ヲ未會有ニ上昇セシメタリキ、然レ

ドモ彼レガ悠々迫ラザルヲ見ルニ至リ、二日ヲ出デズシテ著シク之レヲ低廉ナラシメタリ、滿洲商人ノ機敏ニシテ其團體ノ強固ナル露人ヲシテ往々舌ヲ捲カシムト云フ。

第十四章 内地商業

第一節 概説

滿洲住民ノ大部ハ貧困ノ境ニ沈淪シツ、アルヲ以テ、現今此地方ノ商業ハ比較的富裕ノ中心點ト雖ドモ、殆ンド住民生活ニ要スル必需品ノミニ依リテ經營セラル、麥粉及ビ其他最モ單純ナル食料品ハ其重ナルモノニシテ米ノ如キハ殆ンド糞澤品ノ部分ニ入ル、滿洲ニ於ケル商品ノ主要ナルモノハ木綿製衣服、履物、鐵器、馬具、網、棺柩ナリ、大商店ニハ莫大ナル絹布ヲ所持セザルナキニアラズト雖ドモ、斯ハ唯別ニ豫備分店ニ備ヘ置キ相應ナル華客ニ披露スルニ過ギズ、其他糞澤品ニハ婦人ノ化粧品及其附屬品即チ白粉、胭脂、諸種銀製ノ頭飾、其他種々ノ支那菓子砂糖等ナリ、概シテ都テノ商店ハ極メテ哀ム可キ悲境ニアリ、其多クハ著シク資本ノ運轉ヲ停滯セリ。

都會ハ地方ノ需要ニ對スル物貨ノ製造輸入ノ中心點トナリ、地方人民ハ又市民ノ糧食或ハ諸地方ニ輸出スル物貨ノ集注ニ從事ス、北滿洲ニ於ケル幾多ノ都邑、或ハ幾多ノ遊牧民、或ハ獸獵者ノ棲息スル附近ニ於テハ、常ニ是等遊牧的土族ガ毛皮ノ貢賦ヲ齎シ來ル時ヲ計リ、諸方ヨリ諸種ノ商人來集シテ大ナル市場ヲ開設スルニ至ル、此時ニ至レバ地方住民モ亦有ユル各自ノ職

業ニ依リテ得タル生産物即チ木綿類、屨物、煙草、穀類(大概稷類)ヲ陳列シテ之レト交換スルヲ努ム、三姓市ニ於テハ此ノ如キ開市ハ毎年六七月ニシテ、齊々哈爾市ニ於テハ一説ニハ六七ノ兩月ト云ヒ、他説ニハ九、十月トモ云ヒ、又三説ニハ一年數回ナリトモ云フ、呼倫貝爾管内「ガンヂユウル」地方ニ於テハ毎年陰曆九月一日即チ喇嘛教徒ノ諸方ヨリ該寺院ニ參詣スル時ニ當リ、大ナル市場開設セラレ、販賣者或ハ購求者ハ皆ニ其附近ノ地方ノミナラズ、露領後貝加爾、東部蒙古多倫諾爾地方ヨリ來リ集ルト云フ、該市場ニ於テハ牧畜業ヲ營ム蒙古人ハ、家畜或ハ牧畜業ヨリ獲ラル、生産物ヲ以テ、穀物、茶、酒其他諸種ノ製造品ト交易ス、開市ハ畧十日間繼續セラレ寺院ノ周邊ニ厩帳ヲ張リテ賣買ニ從事ス、市場開設式ニハ海拉爾市ヨリ大官出張シテ之レヲ舉行ス、蓋シ此地方ニ於ケル開市ノ短期ナルハ、井水ノ枯渴シテ飲料水ヲ得ル能ハザルニ由ルモノニシテ、永遠的設備ハ之レヲ其西方「オルスウンゴール」河畔或ハ海拉爾市ニ移轉スト云フ。

「ガンヂユウル」ニ於ケル商業ハ主トシテ物品交易ニシテ銀ハ比較的用ヒラル、コト少ナク其計算ノ單位ニハ磚茶ヲ用フ。

「ガンヂユウル」ノ開市ニハ現時ニ至ル迄未ダ歐羅巴人ノ來リ會セルモノナシト雖ドモ、「ストーン」リビスキト」氏ノ記録ニ氏ガ嘗テ蒙古及ビ呼倫貝爾地方ヲ通過セル時途中商隊ニ出會シタル事ヲ繁昌ヲ極ムト云フ。

情ヲ述ベタル一節アリ、曰ク此地方麥粉、稷、絹布、木綿、金屬製ノ器具、革具其他ノ石細工物、青銅製偶像ノ如キモノヲ容レタル箱ヲ載セタル幾百幾千ノ荷車ハ、蜿蜒トシテ輪蹄相次ギ、又他方ヨリハ羊馬等或ハ一小部隊ヲナシ、或ハ無數ノ大群ヲナシ、或ハ毛類革等ヲ積メル駱駝ノ商隊、織ルガ如ク人ヲシテ實ニ其壯觀ニ驚カシム、後貝加爾人ハ多ク馬ヲ輸入ス、蓋シ後貝加爾產ノ馬匹ハ性温良ニシテ人ニ馴レ、蒙古產ニ比シ農耕業等ニ適好スルヲ以テ、支那人好シク之レヲ購求ス、開市後數日ヲ經ルニ至レバ全ク金錢ヲ用フルコトナク自在ニ純然タル物品ノ交換ヲ行フ、該市場ニハ蒙古藩王、莊殿ナル儀仗ニテ來臨シ、諸種ノ遊技、競争等ヲ舉行シ、甚ダ繁昌ヲ極ムト云フ。

村邑ニ於ケル唯一ノ商店ハ客舎中ニ在リテ之レヲ營ム、常ニ大ナラザル農夫ノ需要品ヲ貯フ、又商舖ヲ設ケ、煙草燒酎ヲ販賣ス、金錢ノ流通甚ダ少キヲ以テ主モニ信用手形ヲ用フ、又農業遊獵ヨリ得ル産物ト製品トヲ交換ス。

右ノ内地商業ニ關スル條項ハ主トシテ一千八百九十五年松花江遠征ニ從事シタル「マテユウ」ン」氏ノ調査ニ係カル。

第二節 農産物

滿洲ハ農業國ニシテ、蒙古遊牧者及ビ大小興安嶺ノ山地ニ散布スル小數ノ半遊牧半遊獵的「ツングース」人ヲ除キ、住民ハ皆ナ農業ニ従事ス、故ニ農産物ハ到ル處、地方住民ノ需要ヲ充テシテ餘リアリ、松花江水域ノ中部ノ如キ、或ル地方ニ於テハ是等ノ需要ヲ充シテ尙莫大ナル餘裕ヲ生ズ、而シテ其餘裕ノ豆、小麥ノ如キハ、之ヲ他方ニ輸出シ、又高粱、稷、大麥、玉蜀黍、豆、蘇子、麻ノ如キ、一部ハ地方ニ於テ燒酎、油、豆糟ヲ製造シ之ヲ他方ニ輸出シ、一部ハ之ヲ内地ノ市場ニ出ス。

農産物ノ内地商業ハ主トシテ是等ノ産物ヲ需要スル市民或ハ燒酎醸造所、榨油所ノ需要ニ應ジ、及ビ別章ニ論述シタル農耕的ナラザル地方ニ産スル物産ト交換ヲ行フ、而シテ是等ノ貿易ノ大部ハ多ク松花江水域ニ行ハル。

例ヘバ伯都訥ヨリ吉林ニ輸出スル高粱ノ二百七十萬布ハ、此地ニ於ケル釀酒所ニ供セラレ、其一部ハ遠ク奉天省ニ輸送シ食民ノ食料ニ供セラレ、蓋シ此地方ハ比較的其産出額僅少ナリ。白遼蘇々地方ニ於テハ百三十萬布ノ小麥(一部ハ穀粒ナリト雖ドモ)ノ大部ハ麥粉トシテ主モニ寬城子ニ輸出セラレ、其一部ハ此地方ヨリ近隣ノ蒙古地方ニ供給セラレ、商估ハ常ニ寬城子ヨリ每年初秋之レヲ購買センガ爲此地方ニ來集スト云フ、小麥及ビ小麥粉ハ其他伯都訥ヨリ齊々哈爾ニ至ルモノ七萬布、伯都訥、呼蘭城ヨリ三姓ニ至ルモノ七萬五千布アリ、而シテ三姓ヨリハ

其大部ハ松花江ニ依リ露領ニ輸出セラレ、三姓市ノ附近一帶ノ地ハ農耕業微々トシテ振ハズト雖ドモ、該市ハ豐富ナル農産地タル松花江水域ノ穀物ヲ黑龍江ニ輸出スル要衝ノ地ナリ、呼蘭城ヨリ三姓及ビ奉天ニ輸出スル稷ハ各七十三萬布ナリ。

白遼蘇々地方ヨリハ又燈火用ニ供スル多量ノ豆油ヲ寬城子奉天府地方ニ輸出ス、白遼蘇々、呼蘭城及ビ伯都訥ヨリ齊々哈爾ニ諸種ノ植物油ヲ輸出スルモノ四十四萬布、其他吉林市ニ至ルモノハ二萬布ナリ。

伯都訥、白遼蘇々、呼蘭城各地方ヨリ黑龍江全省ニ供給スル燒酎ハ百十萬布ニ達ス、又以上ノ各地方ヨリ南吉林、寬城子及ビ奉天地方ニ至ル阿片ハ三千四百布、北齊々哈爾ニ至ル阿片七百布、煙草四萬二千布ナリ。

藍ヨリ收穫スル染料ハ白遼蘇々、阿楚喀ヨリ南方及ビ三姓ニ至ルモノ數千布、又此地方ヨリ雙城廳、寬城子ニハ玉蜀黍ヨリ製セル澱粉ヲ輸出ス。

大麻ハ伯都訥、白遼蘇々ヨリ齊々哈爾ニ至ルモノ八萬三千布。南部支那地方ニ於テ常食トセル米ハ、滿洲ニ於テハ殆ンド贅品視セラレ、富裕ナル社會ニ用ヒラル、ノミ、而シテ其栽培ハ南部諸地方ニ限ラル、北三省ノ米ノ貿易地ハ伯都訥ニシテ、松花江嫩河ニ依リ諸方ニ輸出スルモノ各年四萬一千布(松花江ニ依ルモノ三萬布、嫩河ニ依ルモノ

ノ一萬二千布)ナリ。

黒龍江省ニ於ケル貿易ノ中心點ハ齊々哈爾ニシテ、南方ヨリ輸入シタル物貨ハ地方住民ト土人トヲ問ハズ布特哈、墨爾根、愛理地方ノ市場ニ配布シテ之レニ供給ス、又此地方ヲ通ジテ「プ
ラゴウエンチエンスク」及露領ノ金礦地方ニ諸種ノ物貨ヲ輸送セリ、一千八百九十五年「マテ
ユウニン」氏ノ調査ニ依レバ、齊々哈爾市ガ以上ノ諸市場ニ供給シタルモノハ、主トシテ農産
物ニシテ左ノ如シ。

- 小麦粉 七萬布
- 大麥粉 三千布
- 米 十六萬布
- 豆油 二十二萬五千布
- 一萬布
- 煙草 二萬布
- 燒酎 二十七萬布
- 砂糖 二千布
- 鹽 二萬五千布

齊々哈爾ト呼倫貝爾地方間ノ商業ハ著大ナラズ、彼地方(呼倫貝爾)ヨリ運送スルハ家畜、獸皮
毛及ビ鹽ニシテ此地方(齊々哈爾)ヨリ稷、小麦、米、燒酎、砂糖及ビ家具什器ヲ供給ス、一千
八百九十五年「アンドロニコフ」氏ノ調査ニ依レバ、齊々哈爾ヨリ此地方ニ輸出スル物貨ハ、一
部ハ海拉爾、一部ハ「ガンヂニウ」ノ市場ニシテ毎年三千臺ノ荷車ヲ發送ス、即チ一臺ノ荷車
ニシテ二十布宛ヲ搭載スト假定スレバ、六千布ノ貨物ヲ輸送スト見做スコトヲ得可シ、海拉爾
市トノ商業ハ銀及ビ種茶ヲ以テ取引キセラル、齊々哈爾市ノ大商會ハ大概海拉爾市ニ代理店
ヲ有シ、多倫諾爾ノ商賈ト共ニ呼倫貝爾地方ノ全商業ヲ全ク其掌中ニ收ム。

第三節 牧畜生産物

之レヲ農産物ノ貿易ト對照スレバ家畜ノ商業ハ誠ニ寥々タルモノアリ、上陳セルガ如ク齊々哈
爾ヨリ呼倫貝爾ニ主トシテ農産物ヲ輸出シテ之レニ代フルニ後者ヨリ山羊、羊ノ毛、牛皮及ビ
三千頭ノ牛、六千乃至七千頭ノ羊、及ビ四千乃至五千頭ノ馬ヲ輸出ス、皮及ビ毛ノ一部ハ該市
ノ需要ヲ充タスト雖モ、然レドモ大數ハ伯都訥、吉林或ハ遠ク營口ニ輸出ス、諸方面ノ調査ヲ
以テ之レヲ按ズルニ毛及其他ノ吉林、營口ニ至ルモノ十五萬布ニシテ、吉林、伯都訥ニ至ル獸
皮ハ一萬個ナリ、伯都訥ハ又牧畜ノ集散地點ニシテ、現時該市ニ於テ一箇年間に購求スル牛豚

ノ數僅ニ四千匹ニ過ギズ又羊毛小許アリ、蓋シ此ノ如ク僅少ナル所以ノモノハ、現時其需要ノ少キヲ證明スルモノニ非ザルハナシ、然レドモ若シ其需要ノ現ハル、ニ至レバ、伯都訥ハ其ノ西方ニ横ハル五十萬頭ノ牛ヲ有スル蒙古ノ平原ノ咽喉ヲ扼スルヲ以テ、其貿易愈ヨ發達シ運命ヲ有ス、伯都訥ハ主トシテ蒙古平原ヨリ輸入スル家畜ノ生産物即チ毛、皮、羊皮、脂肪油ノ貿易著大ナリ、就中羊及ビ山羊ノ毛ノ輸入ハ最モ盛シナリ、其一部ハ地方ノ紡績所ニ於テ之レヲ織造シ、主モニ南營口ニ輸出ス、故ニ伯都訥ハ是等ノ物産ニ對シテ蒙古地方ト異邦ノ需要者間ノ仲繼所トナレリ、種々ノ調査ヲ以テ之レヲ案ズルニ伯都訥ヨリ營口ニ至ル、羊毛二十三萬布、獸脂一千布、羊皮一萬乃至一萬五十個、其他營口、吉林ニ至ル山羊ノ毛三萬布ニ達ス、又紡績所ニ於テ製出スル粗毛織物ヲ吉林寬城子ニ輸出ス、滿洲ノ諸地方中白遼蘇々ハ最モ家畜ニ富ミ、夥多ノ豚ヲ齊々哈爾、三姓市ニ輸出ス、牛皮ハ其一部ヲ地方ノ製造所ニ供給スト雖ドモ、其大部ハ外國輸出品トシテ營口ニ送ル。

第四節 魚類

多量ノ魚類ハ三姓、齊々哈爾ノ市場ニ現ハル、齊々哈爾ノ商人ハ之レヲ奉天、寬城子及ビ遼東滿洲ヲ越エテ支那本土ニ輸出スルニ至レリ、又遼東灣ニ於テ漁獲シタル魚類ハ之レヲ鹹製トシ

テ奉天、寬城子、齊々哈爾、三姓等ニ輸入スルモノナリ、

第五節 鹽

滿洲ニ於テ需要セラル、鹽ハ、呼倫貝爾地方（呼倫貝爾地方ニ於テハ重モニ鹹水湖ヨリ之レヲ採取ス）及ビ齊々哈爾ノ一部ヲ除キ、皆南寧遠州及ビ營口或ハ露邑、「ハンス」ヲ通ジテ「ボセツト」灣地方ヨリ供給セラル、松花江ノ水域ニ於ケル鹽貿易ノ中心點ハ、伯都訥ニシテ、遠ク奉天、寬城子ヨリ直接ニ輸入スル所ナキニアラズト雖ドモ、該水域ニ散布スル都邑ハ、大概チ伯都訥市ヨリ配布セラル、伯都訥市ニ於ケル各年ノ鹽ノ輸出額ハ略二十萬布ニシテ、其中十萬布ハ齊々哈爾、一萬五千布ハ呼蘭城、一萬三千布ハ白遼蘇々、二千布ハ三姓ニ配布セラル、齊齊哈爾ヨリ又黑龍江省北方ノ小市場ニ播布スル鹽ハ二萬五千布ナリト云フ、鹽ノ製造買賣ハ政府ノ特權ニ歸スルニ係ハラズ、松花江及ビ嫩河畔ニ於ケル價額ハ高直ナラズ、是レ其舟車ノ輸送賃ノ雜貨ニ比シ低廉ナルニ依ル。

第六節 木材

松花江水系ノ兩側ノ木材ヲ集注シ其ノ貿易ノ重大ナル徑路ヲ組成スルハ松花江及ビ其支流ニシ

テ、即チ「メシ」ニ河ヲ合スル嫩河、呼蘭河、拉林河、大古東河、小古東河、大拉々東米河、小拉々米河、瑪陽河及ビ牡丹江ニシテ又タ松花江水域ニ於ケル木材ノ内地貿易ノ重要ナル中心點ハ、吉林、伯都訥、白楊茂、三姓、齊々哈爾ノ諸都會及ビ拉林河ノ河口ナリ、吉林ニ於テハ其輸出ス可キ木材ノ堆積所ハ市街ノ附近ニアラズシテ、市ヲ距ル北方十五露里ノ松花江畔清春ニアリ、伯都訥市ハ専ラ建築材ヲ供給シ、白楊茂邑ヨリハ白彦蘇々、呼蘭城地方殊ニ主トシテ呼蘭城市ニ供給ス、三姓市ハ之レヨリ上流ニ位置スル右岸ニ設立セラルル村邑地方ニ建築材ヲ供給シ、又牡丹江ヨリ漕出スル薪材ノ集散地トナレリ、齊々哈爾市ニハ大興安嶺ヨリ漕出スル建築材ヲ見ルト雖ドモ、薪材ハ一トシテ之レナシ、而シテ該建築材モ亦甚ダ多カラズ、大抵地方ノ需要ニ共シ、嫩河ヨリ流下スルモノ一モアルナシ、故ニ齊々哈爾市ニハ大ナル木材商ナシ、是レ該事業ノ甚ダ困難ナルト利益ナキトニ原因ス、從テ齊々哈爾市ハ薪材甚ダ高價ナルヲ以テ、富人高貴ノ人ト雖ドモ、燃料トシテ細枝、泥炭ヲ用フ、齊々哈爾ヨリハ小量ノ木炭ヲ輸出ス。

第七節 石炭

石炭ハ南滿洲商業ノ一部ヲ占ム、此地方ハ木材ニ乏シキヲ以テ石炭ヲ需メ得ル地方ハ之ヲ以テ燃料ニ供セリ、然レドモ之レヲ輸送スルノ機關具備セザルガ故ニ、地方住民ニ對シ比較的高直トナルノ虞アリ、小水里、本溪湖ヨリ小許ノ石炭ハ太子河ニ依リ遼陽及ビ遠ク營口ニ輸出セラ

ル。北滿洲ニ於テハ近時吉林ヨリ伯都訥ニ石炭輸送ヲ見ルニ至レリ、木材ノ不足セルト共ニ石炭ノ需要漸次擴張スルノ傾向アリ。

第八節 其他ノ雜貨

齊々哈爾ヨリ南松花江、寬城子就中吉林地方ニ向ヒ毎年舊式方法ニ依リ採收スル曹達ヲ輸出スルモノ一萬五百布ニ達セリ。毛皮貿易ノ中心點ハ、寧古塔、吉林、殊ニ奉天市ナリトス、奉天ヨリハ、屢々之レヲ精製センガ爲メ北京ニ輸送セリ、吉林ハ陶器ヲ以テ滿洲ニ鳴リ、有ラユル都邑ニ之レヲ配布シ、遠ク黒龍江ニ至ルモノアリ。齊々哈爾市ニハ漠河、北金城又ハ露領ノ金鑛ニ於テ盜取シタル金塊輸入セラル、是等ノ總額ハ毎年三百布ニシテ、其一小部分ハ該市ニ殘留シ、他ハ奉天、北京、上海等ニ輸出ス、金塊ノ買收ハ又三姓ノ商估ニ依リ經營セラル、掖肯河畔ニ於テ採集セルモノニシテ彼等ノ手ヲ經ルモノ毎年六十布以上ニ達ス。

齊々哈爾ハ黒龍江省ニ向ツテ其地ノ生産物ヲ供給セリ、就中重ナルモノハ碧石ヨリ造レル烟管ノ吸口、婦人ノ金銀製化粧道具及ビ靴、裘衣、馬具等ノ如キ革細工物等ナリトス。
 松花江水域ニ於ケル諸都會ノ貿易額ハ一千八百九十五年「マテユウニン」氏ニ依テ調査セラル、御子左ノ如シ。

齊々哈爾市ノ輸出高

愛理へ 五十一萬八千布

布特哈及ビ墨爾根市へ 三十五萬七千布

吉林及ビ營口へ 十萬五千布

總計 八十八萬布

呼蘭城市ノ輸出高

松花江ヲ下リ黒龍江ニ入ルモノ 十三萬一千布

齊々哈爾及ビ愛理へ 十三萬五千布

奉天へ 二萬一千布

營口へ 百三十三萬七千布

總計 百六十一萬九千布

白彦蘇々ノ輸出高

松花江ヲ下リ黒龍江ニ入ルモノ 十七萬布

齊々哈爾へ 十八萬六千布

吉林、寛城子、營口へ 十六萬一千布

總計 五十一萬七千布

伯都訥ノ輸出高

松花江ヲ下ルモノ 十六萬布

齊々哈爾へ 百九十萬〇二千布

吉林へ 二百七十萬布

營口へ 二百五十萬一千布

總計 七百二十六萬三千布

三姓市ノ輸出高

松花江ヲ下ルモノ 三十二萬四千布

第十五章 外國貿易

第一節 概況

滿洲ニ於ケル外國貿易ノ真相ヲ穿テ、之レヲ批評スルコトハ、正規ナル統計ノ皆無ナルガ爲メ、最モ煩雜ニシテ且ツ最モ至難ノ業ニ屬スト云フ可シ、蓋シ特ニ大陸ノ境界地方ニ設立セララルル清國ノ税關ハ、一見實ニ帝國ノ國富ヲ増殖センヨリハ、寧ロ官吏ノ利益ヲ計ル機關タルニ過ギザルノ觀ナクンバアラザルナリ、而シテ是等有ラユル税關ノ決算報告書ハ、唯僅カニ營口港ヲ除クノ外、眞實ナル貨物ノ出入ヲ見ル能ハズ、例ヘバ松花江ニ於ケル馬陽門ノ税關ノ決算書ノ如キハ、其税金ヲ二千五百留ト算スト雖モ、實際ハ毎年一萬二千乃至一萬五千留ヲ上下ス、又琿春税關ノ帳簿ニ記録セラル、商貨ハ約二十五萬留ナリト雖モ、實際ハ其二倍ヲ超過ス、又他方面ヨリ之レヲ見ルニ、黑龍江ニ沿フ地方ニ在テハ境界監視所ノ設立セルコトナリ、且ツ到ル處秩序アル管理、商業的統計ノ一般公衆ニ對スル報告ノ如キハ殆ンド皆無ナリト云フモ可ナリ、唯ダ比較的整頓セルハ露領烏蘇里地方ニ接界スル地方ナレドモ、畧六百露里ニ延亘セル地方ノ境界線ニ、僅カニ四箇所ノ堡塔ヲ設クルニ過ギザルヲ以テ、其監視モ亦實ニ不充分ナルヲ免レズト云フ可シ。

第二節 露國トノ貿易

滿洲ト露國トノ境界貿易ハ、彼我ノ條約ニヨリ自由ニ且ツ無税ニテ營マル、一千八百五十八年ニ於ケル愛理條約ノ第二條ニ依リ、露人ハ烏蘇里、黑龍江ニ於ケル航運及ビ貿易ノ權利ヲ獲取シタリ、又タ北京ノ補缺條約ノ第四條ニ依リ、滿洲ノ露領ト接壤スル全境界地方ニ於テ自由ニ且無税ニテ貿易ニ從事スルヲ得ルニ至レリ、彼得斯堡條約ニ於テ此國境貿易ヲ以テ彼我兩國境界線兩側五十露里以內ニ限リ、而シテ之ト共ニ愛理條約ノ第二條ノ規定ヲ強固ナラシメタリ、此ノ如クシテ現時露國ノ滿洲貿易ハ、相互五十露里以內ノ地ニ限リ、無税ニテ之レヲ營ムコトヲ得、而シテ遠ク内地ニ赴ク可キ商貨ハ、境界ニ於ケル一定ノ哨所ヲ通過シ、彼得斯堡條約ニ依テ規定シタル一定ノ税金ヲ拂ヒ、或ハ無税ニテ之ヲ輸送スルヲ得、然レドモ該條約及ビ露國法律ニ基キ或貨物ノ輸出入ハ全ク禁止スルニ至レリ、商貨中露領ニ輸出スルヲ禁止セラレタルモノニシテ滿洲ニ對シ緊要ナル關係ヲ有スルモノハ、鹽、米、燒酎、阿片及ビ支那銅貨等ナリ、蓋シ境界ノ守衛監視極メテ微弱ナルノミナラズ、或ハ時ニ全ク之レヲ缺クノ結果、上陳セル制限的制規ハ一トシテ實施セラレズ、又露國ハ該條約ニ依テ滿洲ニ於テ領事館ヲ設立スルノ權利ヲ有セス、又彼得斯堡ノ條約ノ第十三條ニ依リ露國臣民ハ此地方ニ土著の商業ヲ營ムコトヲ得ザ

滿洲ヨリノ輸入品

	ツアガン オルエー ウスキー	ドウロイ ウスキー	ソル ゴーリス スキー
馬	三三	三、三二	九、四五
駱駝	八	六〇〇	—
總計	—	四、〇二	一七、〇八
			一三、八六

	數	價 格	數	價 格	數	價 格
磚茶	—	四、六一	五、〇〇	二、五〇	一〇、〇〇	五、〇〇
「ダリンバ」	一五	三〇	—	—	—	—
「チルチ」	二	一八七	—	—	—	—
厚木綿	—	—	—	—	一〇〇	三〇〇
鹽	—	—	五、〇〇	五、〇〇	—	—
砂糖	—	—	四〇	四〇	一六	一六
小麥粉	—	—	一〇〇	三〇〇	—	—
煙草	—	—	—	—	一六	一六

	手	羊及 比山羊	總計
	八〇〇	—	五、三
	二四、〇〇〇	—	一三、八〇
	九〇	六、〇〇〇	—
	二七、〇〇〇	一八、〇〇〇	五、〇一

「チャルブチンスキー」兵村區ニハ境界貿易ナシ。

「クラボートキン」氏ノ報告ニ依ルニ、清商ハ毎年六月下旬ニ物品ヲ齎シテ、「オロチンスキー」兵村ニ來ルコトアリト雖モ、其商業ニ關スル詳細ナル調査ハ一トシテ之レアルナシ。

境界貿易ニ關スル記録ノ皆無ナルト、地方哈薩克ノ境界ヲ通過スル物貨ノ數、種類若クハ其價額ヲ定ムル能ハサルヲ以テ、右ニ關スル蒐集的報告ハ甚ダ信據ス可ラザルモノアリ、例ヘバ地方商人ノ報告ニ依レバ、一千八百九十三年ニハ露領ニ入りタル家畜ノ數、只舊「ツルハイト」村一村ニ於テ、牛五千頭、羊二萬頭餘ニ達セリト、然レドモ、同年ニ於ケル露國地方官ニ依テ傳ヘラレタル公報ニ依レバ、僅カニ其總數一萬三千二百二十一頭タルニ過ギズトアルガ如シ。

支那ニ輸出スル重要ナル物産ハ毛皮及ビ鹿角ニシテ、狐皮ノ普通ノ價額ハ二乃至三留、西比利亞栗鼠ハ一枚十乃至二十留、鹿角ハ一對百五十留、「アルグー」河畔ノ哈薩克兵村ニ於ケル穀物ノ餘分ハ黑龍江ノ右岸ニアル金礦地ニ輸出セラル。

黒龍江及「アルグー」河ニ沿フ滿洲領ニ住スル住民ハ、主トシテ牧畜遊獵業ニ従事スルヲ以テ、此地方ハ常ニ諸種ノ製造品ヲ需要ス。

右ハ都ヲ南ヨリ來ル清商ニ依リテ供給セラレ、露領ヨリ入ルモノハ僅少ナリ、然レドモ後貝加爾州ニ於ケル製造業ノ發展ト共ニ、滿洲ニ於ケル露國ノ商業ハ、愈ヨリ開發スルニ至ルヤ疑ヲ容レザルナリ。

次ニ「セーヤ」河ノ 合スル黒龍江岸ニ於ケル境界貿易ニ付テハ滿洲ノ河岸ハ殆ンド無人ノ境ナルヲ以テ、此地方ニ於ケル境界貿易ハ殆ンド成立セズ、滿洲領ニ於ケル唯一ノ著大ナル村邑ハ舊「セルトウ」ガ「金礦區」ニ設立セラレ、該河邑ニシテ、一千八百八十年度ニ於テ該礦區ノ密掘盛ナリシ時代ハ、露國ノ商人ハ此地方ト繁劇ナル商業ヲ營ミ、食糧品、器具、日用品其他諸種ノ製造品ヲ輸入シテ巨利ヲ博スルモノ多カリシガ、現今ハ是レ等ノ商業著シク萎微シタリ、但統計的報告ノ皆無ナル爲メ、其詳細ナル情況ハ全ク之ヲ知ルコト能ハズ、而シテ露人ノ商業ノ萎微シタル原因ハ現今夥多ノ支那商人内部ヨリ來住シテ多クノ商舖ヲ開營スルニ至リタルヲ以テ、露國ノ商估ハ殆ド自ラ之レヲ經營スルモノ消滅シタルニ由ル、然レドモ此地方ノ金礦ハ滿洲ノ商業的都會ヲ距ルコト遠遠ニシテ唯僅カニ馱馬ヲ通ズル徑路ノ外良好ナル道路ナク、行通ハ多ク黒龍江ノ水路ニ依ラザルヲ得サルヲ以テ露國方面ヨリ該礦區ニ向ツテ販路ヲ擴ムルヲ

得ルハ自然ノ數ナリ、現今漠河ニ輸出スル穀物、麥粉、燒酎ハ皆支那「ジャンク」ヲ利用セリ。

「ナハレン」邑ヲ去ル三十露里ニアル愛理市ハ露領黒龍州ト滿洲トノ貿易ノ要衝地ナリ、松花江ノ水域ヨリ愛理ト齊々哈爾ヲ連絡スル道路ニ依リ、冬季主トシテ農産物ヲ黒龍江ニ輸出ス、其額ハ「マテユクニシ」氏ノ傳ナル處ニ依レバ清國側ノ報告ハ左ノ如シ。

商貨ノ名稱	一千布ノ數量	一布ニ對スル價	留ノ總計
小麥粉	六〇〇	一六〇	九六〇、〇〇〇
粟類	五〇〇	一〇〇	五〇〇、〇〇〇
小麥	三〇〇	一〇〇	三〇〇、〇〇〇
黍	一五〇	一二五	一八七、五〇〇
葉煙草	一五〇	四〇〇	六〇〇、〇〇〇
諸種ノ植物油	三二〇	二〇〇	二六〇、〇〇〇
火酒	八〇	三〇〇	二四〇、〇〇〇
赤砂糖	三〇〇	四〇〇	一二〇、〇〇〇
白砂糖	一〇〇	六〇〇	六〇〇、〇〇〇